

未 日 聖 徒 イ エ ス ・ キ リ ス ト 教 会 ・ 1 9 9 9 年 5 月 号

ア村



表紙



表紙

表紙——精實文が高く掲げるCTRのマークは、台湾の聖徒たちの真理への愛を象徴している。教会は、彼らの「麗しの島」で成長し続けている。本誌「台湾——信仰をはぐくんだ40年間」28ページ参照（写真／クリストファー・K・ビジェロー）。

フレンド

ウォレス・ギテフとブライアン・ギテフは、二人の生まれた国、アフリカでの末日聖徒の開拓者です。14ページの「ケニアのナイロビに住むウォレス・ギテフ」の記事を読みましょう（写真／バーバラ・ジーン・ジョーンズ）。

一般

2 大管長会メッセージ——人生の責務

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

12 「忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う」

御霊によって教え、学ぶ 十二使徒定員会会員 ダリン・H・オークス

25 家庭訪問メッセージ——神は御自身の子供たちに

個人の啓示を通して語られる

26 純潔をもたらす祝福 バネッサ・ムーディー

28 台湾——信仰をはぐくんだ40年間 クリストファー・K・ビジェロー

42 神殿の祝福——この世と永遠にわたって

青少年

8 信仰を込めて歩む——主の恵みについて証する若人

39 モルモンメッセージ——いつも主を覚えましょう

40 才能を見だし、伸ばす

メリッサ・D・トンプソン、ジャナ・ニールセン

46 神殿に定期的に参入するタイプの人 タマラ・リーサム・ベイリー

フレンド

2 分かち合いの時間——「わたしにしたがってきなさい」

シドニー・S・レイノルズ

4 ちいさなみんなのために——お手つだいをしたマイケル

ピロ・ウェストウッド

6 ストラットンしまいに起きたきせき ダイアン・K・カフーン

8 おもちゃばこ——前の顔、後の顔 シャウナ・ムーニー・カワサキ

10 サラの趣味 シェリル・フスコ作

13 たいだの罪 第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

14 友だちになろう——ケニアのナイロビに住むウォレス・ギテフ

バーバラ・ジーン・ジョーンズ



46ページ参照



28ページ参照



12ページ参照



「フレンド」
14ページ参照

26ページ参照



本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。

月刊——イタリア語、英語、オランダ語、韓国語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語。隔月刊——インドネシア語、タイ語。季刊——アイスランド語、ウクライナ語、ギルバート語、セブアノ語、タガログ語、チェコ語、ハンガリー語、フィジー語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順)

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：ジャック・H・ゴースリンド

顧問：ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン

企画編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー

グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー

編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

編集補佐：ジェニファー・グリーンウッド

工程管理：ベス・デーリー

出版補佐：コニー・シェークスピア

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カワサキ

アートディレクター：スコット・パン・カンベン

デザイナー主任：シェリー・クック

制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ

制作：レジナルド・J・クリステンセン、トーマス・S・グローバーク、デニス・カービー、ジェンソン・L・マンフォード、ディーナ・L・ソレンソン

デジタルプリプレス：ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグス

配送部長：クリス・クリステンセン

マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「リアホナ」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替

(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。

●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

印刷所 理工印刷株式会社

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines May, 1999.

Japanese. 99985 300

May 1999 no.5. LIAHONA [ISSN 1344-8595] is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, U.S.A. subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$14.00. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



マダガスカルから感謝を込めて

わたしは『レトワール』(フランス語版。「星」の意)の昨年6月号に掲載された「初等協会—大きな喜び」という記事にとっても感動しました。このような記事は読者の励みになります。この記事を通して、世界中の教会員が、マダガスカルの子供達について知ることができたことと思います。

わたしは福音に関心がありそうな何人かの友人に『レトワール』を差し上げました。その中の幾人かは、宣教師から福音を学び始めています。

わたしは、この教会から発行される機関誌に心から感謝しています。『レトワール』を読む度にいつもわたしの心は大きく揺り動かされます。わたしはジョセフ・スミスが真の神の預言者であることを心から信じています。

マダガスカル・アンタナナリボ地方部、

アンタナナリボ第2支部

フロレット・ラナイボヤオナ

家族を強めるために役立つ記事を

グアテマラにあるグアテマラ・シティー南伝道部で伝道しているわたしは、現在支部長も兼任しています。最近、結婚生活について悩んでいる夫婦がわたしに助言を求めてやって来ました。そこで何か良い助けになる答えはないかと聖文をひもといてみたり、手もとにある『リアホナ』(スペイン語版)をひととおりすべて目を通したりしてみました。適当な箇所を見いだすことができませんでした。限られたページ数の中で、多種多様なトピックスを採り上げることが難しいのはよく分かりますが、あえてわたしは、結婚生活や家族関係についての記事をもっと増やすよう提案いたします。そのような記

事は、世の道から遠ざかり、主の道に従って生きようとする人々の生活に多くの祝福を与えることになると思うのです。

グアテマラ、グアテマラ・シティー南伝道部、
ダニエル・ジョセフ・シーロス長老

編集部より——『リアホナ』の内容に関する

事柄をはじめ、読者の皆様の様々なご意見をお持ちしています。皆さんから有益なアイデアを頂けることに心から感謝

しています。結婚生活ならびに家族生活を強めた経験、あるいは提言などありましたら、住所、氏名、電話番号、所属のステーク/地方部、ワード/支部を明記の

うえ、下記のあて先までお送りください。
International Magazine

50 East North Temple, Floor 25

Salt Lake City, UT 84150-3223, U.S.A.



神の御心を求める祈り

わたしは、1998年4月号の『リアホナ』(英語版)に載っていた「心の傷を癒す」という記事を読んでいて、心を刺し貫かれる思いがしました。それまでの自分は、困っていることばかりを祈っていることに気づいたからです。そこで、わたしはそれまでの自分の態度を改め、まず神の御心を求めて祈ることにしました。困ったときにはいつでも神の知恵を求めることが不可欠であることを知って、わたしは心に平安と慰めを得ることができました。

フィリピン・ナガ伝道部

ジョセフィン・バレス姉妹



人生の責務

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

先

ごろ、大学生の年代の若い人々に、彼らが現在直面している、また将来直面する人生の責務について話す機会がありました。彼らと語ったことは、わたしたち一人一人にも当てはまります。

わたしの心にあるのは次の4つの責務です。

1. 職業に対する責務
2. 家族に対する責務
3. 教会に対する責務
4. 自分自身に対する責務

1. 皆さんが幸せに思える職業を選んでください。皆さんは予知できる範囲で将来、1日に8時間、またそれ以上そこで過ごすことになります。楽しんで行えるものを選んでください。収入は大切ですが、幸せを得るのに大富豪になる必要はありません。実際、富が唯一の目的になると幸せでなくなることがよくあります。富の奴隷になってしまうのです。それが皆さんのすべての決断に影響を及ぼすでしょう。生活に必要な収入、家族を養うのに十分な収入があればよいのです。子供が生まれるときに、夫が一家の働き手で、妻は働いていないというのがもっとよいでしょう。場合によっては、妻が働く必要があるかもしれません。しかし、今賢明に選択をすれば、それが必要でなくなる可能性が大



職業を選択する際に、人生には非常に重要なことがほかにも幾つかあることを心に留めておかなければなりません。すべての中で最も偉大な務め、最も大きなチャレンジ、最も深い満足は、良い家族をはぐくむことの中にあります。

きいのです。

自分が成長できる分野を選んでください。皆さんには、新たな努力と新たな意欲、新たな発見、新たなチャレンジという刺激が必要です。

教育を受けて、皆さんの選んだ職業に関連する資格を取得しましょう。この世の競争はすさまじいものです。競争は人を食い物にします。破滅に陥る人が大勢います。しかし、わたしたちは競争に直面しなければなりません。回避することはできないのです。

行動を促すもの、思いを鼓舞するもので、皆さんが所属する社会を改善するために何らかの機会を毎日与えてくれるものを選択してください。

今は皆さんの将来の仕事に対して備えをする大切な時期です。この時期を無駄にしないでください。よく利用してください。頭に知識をいっぱい詰めてください。知識を吸収し、吸収した知識について考えてください。知識を皆さんの一部としてください。

しかし、これらすべてに加えて、職業を選択する際に、人生には非常に重要なことがほかにも幾つかあることを心に留めておかなければなりません。すべての中で最も偉大な務め、最も大きなチャレンジ、最も深い満足は、良い家族をはぐくむことの中にあります。教会での奉仕にも時間を使わなければなりません。そうでなければ、皆さんの人生にとって非常に大切なこれらのものが、重要でないものと見なされるようになります。

人生では、次から次へとわたしたちを仕事に駆り立てるものが出

てきます。将来は、それがもっと多くなるでしょう。皆さんが受ける教育は、多くの分野にわたって経歴を築く堅固な基盤となります。

2. 家族。普通の若い男性は皆、妻を持ちたいと考えます。普通の若い女性は皆、夫を持ちたいと考えます。皆さんの選ぶ相手にふさわしくあってください。相手を尊敬し、相手に励ましを与えてください。伴侶を心から愛してください。

皆さんが結婚する相手を選ぶことは、人生の中で最も重要な決断です。

神殿で結婚することに代わるものはありません。永遠の結婚が執り行われるのは、諸天の下で神殿だけです。自分自身を裏切らないでください。皆さんの相手を裏切らないでください。妥協した生活をしないようにしましょう。ふさわしい人と、ふさわしい場所で、ふさわしい時に結婚してください。

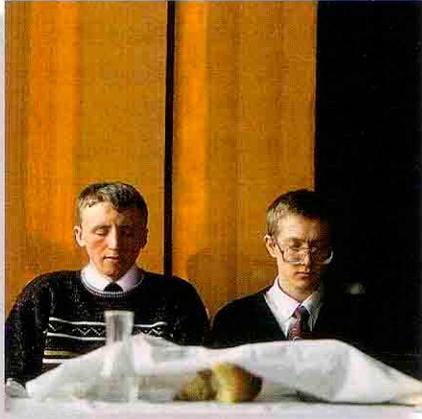
皆さんと同じ信仰の相手を選んでください。そうすれば、もっと幸せになれるでしょう。いつも大切にできる人、いつも尊敬できる人、皆さんの人生において自分を補ってもらえる人、皆さんの心、愛、忠節、誠意をすべてささげられる人を選んでください。二人の間に立ち入って結婚生活を崩壊させるものが決してないようにしよう、決心してください。結婚生活を成功に導く事柄を実行してください。実行すると決意してください。そうすれば、心を傷つけ、時には生活をも破壊してしまう多くの離婚は避けられます。互いに心から誠実であってください。

皆さんはいつまでも若くてハンサム、または若くて美しいわけで

はありません。背丈が伸びずに縮み始める時が人生には来ます。わたしは最近妻と食卓に着いていたときのことを思い出します。食卓越しに、かつてはとても美しかったけれども今は節くれ立ったしわだらけの妻の手を見ました。涙が浮かんできました。妻の若いときの日々が次々と思い出されました。子供たちが幼く、妻もまだ若く強くて、子供たちを世話し、あらゆる場所へ連れて行ったときのことを思い出しました。妻は料理をし、裁縫をし、洗濯をし、家を掃除し、子供たちの劇を見に行き、本を読み、コンサートに行き、教会で様々な責任を果たし、とても明るく、美しく、幸せでした。

わたしたちが結婚して62年以上になります。長い時間です。わたしたちは年を取り、しわも増えました。しかし、互いへの愛と尊敬と誠意はまったく変わりません。子供たちは成長し、孫たちも成長しています。成長を続けているひ孫たちもいます。皆さんに望むことの中で、わたしの美しい妻とわたしとの、この関係以上のものがあるのでしょうか。

良い結婚には時が必要です。努力を必要とします。積み重ねが必要です。養い育てなければなりません。赦し、忘れなければなりません。互いに対して絶対に誠実でなければなりません。ほとんどの人は結婚し、子供を持つでしょう。子供たちは皆さんの最大の誇りと幸福の源となるでしょう。そう願っています。愛をもって子供たちを育ててください。虐待しないでください。子供たちに腹を立ててはなりません。ただ愛さなければ



教会を皆さんの大切な友としてください。
皆さんの偉大な同僚としてください。
召されたときは
どこでも奉仕してください。
頼まれたことは行ってください。

なりません。間違いを犯しても赦し、再び繰り返すことのないように助けを与えてください。子供たちが皆さんを、信頼の置ける最良の友、常に支えてくれる人と思えるようにしてください。

良いときも悪いときも永遠にわたって皆さんとともにいることになる。愛する伴侶を選ぶ際に、祈りと直感に導かれてこの最も重要な決断を下すならば、これらすべてのことは実現するでしょう。

3. 教会での奉仕。教会を皆さんの大切な友としてください。皆さんの偉大な同僚としてください。召されたときはどこでも奉仕してください。頼まれたことは行ってください。与えられたすべての

責任は、皆さんの能力を増し加えます。わたしはこの偉大な組織の中で多くの責任を受けて奉仕してきました。すべての奉仕がそれに応じた報いをもたらします。

これにも皆さんの無私の献身と、確固とした忠誠と信仰が必要です。皆さんは人生が終わるまで、多くの立場で奉仕するでしょう。それらのあるものは小さく見えるかもしれませんが、しかし、この教会には小さな召しや重要でない召しなどはありません。すべての召しが重要なのです。御業を進めるために、すべての召しが必要なのです。決して教会の責任の品位を落とさないでください。

最近、わたしたちのワードの聖餐



会である人が話をするのを聴きました。何年もの間、彼は監督として、またほかの多くの責任で奉仕をしてきました。ところが、彼は一つのすばらしい奉仕について話しました。彼と彼の妻は最近、教会に入った新しい改宗者で3人の子供がいる若い母親の成長を助ける割り当てを受けていたのです。彼らは週に1度、定期的に彼女を教えました。彼らは彼女の証^{あかし}を強め、福音のあらゆる面について彼女に教えました。また、受けた責任をよく果たせるように励ましました。いつも質問に答え、励まし、よく理解できない教義については、かみ砕いて説明しました。このようにして、彼女と子供たちははっきりした信仰を築くことができました。その若い母親と子供たちは別の地域に引っ越しましたが、自分が恩を受けたこの夫婦に、今でも愛と感謝の手紙を書き続けています。

皆さんの生活の中に教会の余地を設けてください。教義に関する知識を増し加えてください。組織に対する理解を深めてください。永遠の真理を愛する気持ちをさらに強めてください。

教会は、犠牲を払うように皆さんに求めるかもしれません。皆さんの最善のものをささげるように求めるかもしれません。そうすることで失うものは何もないのです。犠牲は投資となって、あなたの生きているかぎり皆さんに配当をもたらすのです。教会は永遠の真理の貯蔵所です。教会を受け入れ、教会にしっかりとつかまっています。

4. これからの人生について考えるときに、注意を払わなければな

らないことがもう一つあります。皆さんは、主が主の子らに明らかにしてくださった偉大な幸福の計画について瞑想し、熟考し、考え、驚嘆の念を抱く時間を持つ必要があります。聖文を読む必要があります。良書を読む必要があります。わたしたちすべてに与えられたすばらしい文化を味わう必要があります。

あるとき、わたしは、デビッド・O・マッケイ大管長が十二使徒会の会員たちに次のように言うのを聞きました。「兄弟たち、わたしたちは瞑想する時間を十分に持っていません」と。

マッケイ大管長の言うとおりでと心から思います。生活が非常に忙しくなっています。わたしたちは次から次へと飛び回っています。せつな的なことを考えもなく追い求めて、自分自身を疲れさせています。わたしたちには、自己の内省と進歩のためにかかなりの時間を使う権利があります。わたしは、父が現在のわたしと同じくらいの年齢であったときのことを思い出します。父は石の塀のある家に住んでいました。それは低い塀で、暖かい天気の日にはよくそこに腰を下ろしていました。父は何時間も腰を下ろして、何を話すか、何を書くかを考え、瞑想し、熟考していたように、わたしには見えませんでした。父は非常に有能な話者であり、著述家であったからです。父はかなりの年になっても読書量が落ちませんでした。成長が止まることは決してなかったのです。父にとって人生は、考えるすばらしい機会でした。

皆さんが必要とすることや興味

は年齢とともに変わるでしょう。しかし、ある程度の瞑想の時間はだれにでも必要です。はっきりと申し上げます。意味のないテレビを見て多くの時間を無駄にすることは避けましょう。わたしはスポーツ反対主義者ではありません。良いフットボールの試合や野球の試合は楽しく見えています。しかし、あまりにも多くの人がスポーツに取りつかれています。ソファに座って、明日になれば忘れてしまうような試合を見る代わりに、読書をし、考え、熟考するなら、人々の人生は豊かになるとわたしは信じています。

夜暗くなってから外に出て星空を見上げ、全能者の永遠の計画における自分の立場について熟考するなら、祝福を受けるでしょう。ダビデは次のように宣言したとき、きっと満天の星空の下にいたでしょう。

「わたしは、あなたの指のわざなる天を見、あなたが設けられた月と星とを見て思います。

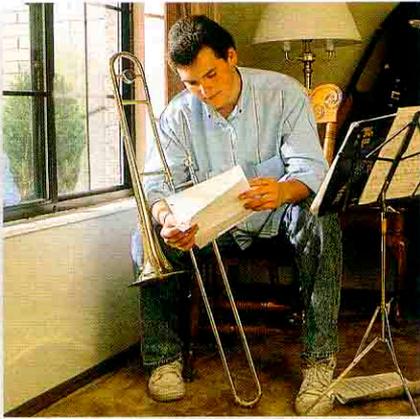
人は何者なので、これをみ心にとめられるのですか、人の子は何者なので、これを顧みられるのですか。

ただ少しく人を神よりも低く造って、栄えと誉とをこうむらせ…。」(詩篇8:3-5)

さて、全教会の愛する兄弟姉妹の皆さん、皆さんが大いに楽しめる良い職場で働くことと、義にかなって信仰をもって歩む立派な家族をはぐくむこと、すばらしい無私の態度をもって教会で奉仕して大いに成長すること、そして時折腰を下ろして人生に関する事柄を熟考し、それらのすばらしいもの

すべてを与えてくださった神に祈りをささげることを、生活の中でバランスを取って行おうと決意してください。

神はわたしたち一人一人を生活の中で祝福してくださいます。どうぞ



写真/クレイグ・タイムズ

皆さんは、主が主の子らに明らかにして下さった偉大な幸福の計画について瞑想し、熟考し、考え、驚嘆の念を抱く時間を持つ必要があります。

聖文を読む必要があります。

良書を読む必要があります。

わたしたちすべてに与えられたすばらしい文化を味わう必要があります。

主に近い生活をし、信仰をもって歩めますように。互いに主の慈しみについて証を述べ合えますように。

ホームティーチャーへの提案

1. 人生には次のような多くの責務があります。

- 職業に対する責務
- 家族に対する責務
- 教会に対する責務
- 自分自身に対する責務

2. あなたが職業を選ぶとき、幸せに思える職業を選んでください。

3. あなたが結婚する相手を選ぶことは、人生の中で最も重要な決断です。

4. 教会をあなたの大切な友としてください。あなたが召されるところで奉仕してください。

5. わたしたちは皆、主がわたしたちに明らかにして下さった偉大な幸福の計画について瞑想し、考える時間と、

聖文を読む時間、わたしたちの文化の好ましい部分を味わう時間を持つ必要があります。□



写真/ブライアン・K・ケリー



主の恵みについて証する若人^{あかし}

今月号の『リアホナ』に掲載された大管長会メッセージで、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は「主に近い生活をし、信仰をもって歩〔み〕互いに主の慈しみについて証を述べ合うようわたしたちに勧めています（「人生の責務」『リアホナ』1999年5月号、7）。

以下のページでは、『リアホナ』の若い読者が、主に近く生活し、信仰をもって歩んだときに得た証、経験を分かち合い、そのときに受けた祝福を主に感謝しています。

「父との再会」

ダイアナ・メルセデス・サンドバル

14歳でバプテスマを受け末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になる前、わたしの家族は教会員のグレイディス姉妹の所有する家に住んでいました。わたしはグレイディス姉妹の話す教会のことにはまったく興味がありませんでした。自分は幸せだと信じて疑わなかったからです。

しかし、それからしばらくして、わたしの父は大変な苦痛の後に亡くなりました。母もわたしも父を心から愛していました。父の死後、取り残されたわたしたちは経済的にも、精神的にも、恵まれた状態ではありませんでした。

苦々しい思いと苦痛に満ちた日々が続きました。わたしは神から愛されていない、神はわたしをお見捨てになったと思うことも何度かありました。母が働きに出なければならなかったので、わたしは一日中独りぼっちで、泣いたり、父と一緒にいたころのことを思い出したりしました。友人もあまり多くなく、何もする気になれませんでした。

ある日のこと、グレイディス姉妹の息子、ジュリアンから、宣教師と話してみないかと尋ねられました。一度は断りましたが、わたしの返事にとてもがっかりしている様子だったので、そうすることにしました。

宣教師は優しくあいさつすると、自己紹介をしてきました。わたしには彼らがとても幸せそうに見えたので、福音を学んでみることにしました。

福音を学んでいるとき、宣教師はわたしにこう言いました。「お父さんにもう一度会えますよ。お父さんのた

信 仰 を 込 め



コロンビア・ボゴタ・
トゥンホエリートステーク
キログワード、
ダイアナ・メルセデス・
サンドバル、17歳

わたしは再び父に会える日が来ること、そして永遠の家族として幸せに暮らせることを知っています。

「より良い仕事との出会い」

ルイ・ミゲル・シマオ・シケラ

わたしは1997年の5月2日、1日おきのスケジュールどおり、午前8時に職場に到着しました。わたしが仕事を始めようとする、上司がこう言いました。「君とちょっと話したいんだが。」上司との会話から、「彼はわたしを解雇したいと思っているのだ」と悟りました。彼はわたしの勤め先である雇用代理店とのいざごごについて、またわたしにはよく分からない法律的なことについて話しました。

結局のところ、わたしは解雇されてしまいました。わたしは歩きながら考えました。「これからどうなるのだろう。家に帰って、解雇されたと言ったら、祖母はがっかりするだろう。」祖母もわたしの家族も、わたしを頼りにしていました。わたしは働いて、家族を経済的に養っていかなければなりませんでした。

めに身代わりのバプテスマを受ければ、家族として永遠に住むことができるんですよ。」その瞬間から、わたしは神がわたしの祈りをお聞きになり、わたしをととも愛しておられるということが分かりました。わたしはバプテスマを受けることにしました。

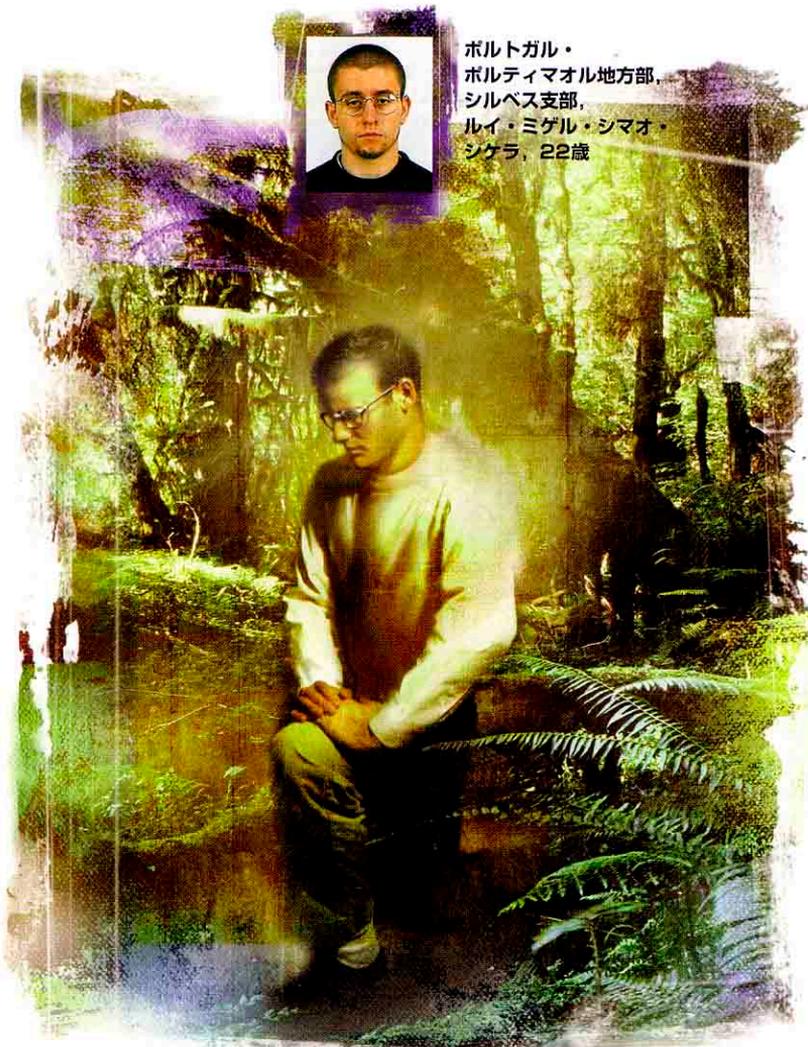
わたしは自分のバプテスマを受けた後で、母とも真理を分かち合いたいと思いました。でも、母は興味を持ってくれませんでした。わたしが宗教を変えたというので、よく口論しました。

わたしは祈り続け、いつの日か母がバプテスマを受けるよう願いました。そして、祈りを重ねて3年たったとき、母はその心を和らげ、教会に入ってくれました。今わたしたちは幸福な生活を送っています。そして現在の目標は、神殿で結び固められることです。まるでこのような祝福では足りないかのように、教会は今わたしの国に神殿を建設中です！

わたしはこの教会が真実の教会であり、神がわたしたちをほんとうに愛しておられることを知っています。わ



ポルトガル・
ボルティマオル地方部、
シルベス支部、
ルイ・ミゲル・シマオ・
シケラ、22歳



て 歩 む

そのときわたしはふと思い出したのです。「わたしは神に祈ることができる。神の助けによって、ひょっとしたら今日^{きょう}にでも仕事を探せるのではないだろうか。」わたしは何本か木の生えている所に行き、ひざまずいて祈りました。「天の父なる神様、どうぞ家に帰って祖母を悲しませずに済みますように、今日中に仕事を見つけることができますように助けてください。」

わたしは神に感謝し、立ち上がると、歩き始めました。以前よりも明るい気持ちになって、こう考えました。「あの仕事をなくしたのは、もっといい仕事が見つかるからに違いない。」2キロほど歩くと、建設現場の前を通り過ぎました。そこはわたしの友人の職場でした。その友人はわたしを見つけると、こう質問しました。「ルイ、仕事はどうしたんだい？」

わたしが事の次第を説明すると、彼はこう言ってくれました。「君が望むなら、ここで働いてもいいよ。」友人はその職場の責任者だったのです。もちろんわたしはそこで働くことにしました。

そんな訳で、わたしは朝の8時に解雇されて、同じ日の

午前9時半、つまり1時間半後には新しい仕事に就いていました。神はわたしの祈りを聞いておられ、短い時間にわたしを祝福し、より良い仕事を与えてくださったのです。祈りには実に偉大な力があります。

「福音を分かち合う」

グラシエラ・グアダルーベ・ヌーンエス・ヘルナンデス

中学2年のとき、マルコ・オーリリオ・グレイネイドス・ディビラという男の子に会いました。彼は、わたしにガールフレンドになってもらえるよう、わたしの家に来て、わたしの母から許可をもらいたいと望んでいました。わたしは、自分の行っている教会では16歳になるまでデートはしないと伝えました。でも彼はあきらめませんでした。彼から誘われる度に、わたしは少しずつ福音について話しました。

ある日のこと、母が彼を我が家に招待してみてもどうかと助言してくれました。母は彼と話しました。それから、わたしと母の二人で、彼を教会に誘いました。彼は承諾し、最終的には宣教師から福音を学ぶようになりました。あるとき、彼は宗教を変える必要があるのかどうか尋ねました。宣教師は、「そのとおりです」と答えました。彼は宗教を変えるという考え方があまり気に入っていないようでしたが、宣教師から福音を学び続けました。

福音を学ぶ中で、バプテスマを受けたいという彼の気持ちは大きくなっていきました。残念ながら、そのとき彼の母親は国外に住んでいました。バプテスマを受けるには母親の許可が必要だったので、1年間バプテスマを受けることができませんでした。そんな中で、彼はセミナーや日曜学校、青少年の活動に参加し続けました。

とうとう彼の母親が帰って来ました。彼は許可を求め最終的には、同意をもらって1997年の7月8日にバプテスマを受けました。

今わたしはマルコと二人で友人と福音を分かち合うようにしています。

「それは明確でした」

エルトン・ジョン・ダ・コスタ・サントス

1989年8月のある日、わたしが家で雑用をしていたことです。母から、末日聖徒イエス・キリスト教会からやって来る二人の姉妹宣教師のメッセージと一緒に聞かないかと言われました。

わたしはまだ12歳でしたが、姉妹宣教師の話に興味を



メキシコ・セラヤステーク、
ローレレスワード、
グラシエラ・グアダルーベ・
ヌーンエス・ヘルナンデス、
15歳





ブラジル・
キャンピナグランデ
ステーキ、プラタワード、
エルトン・ジョン・ダ・
コスタ・サントス、18歳

り返し、もっと熱意をもって祈ってみてくださいとお願いするだけでした。

わたしはもう一度二人のチャレンジを受け入れ、丸々1週間熱心に祈りました。恐らく、わたしは若すぎて、例えば夢を見るとか、天使の訪れを受けるとか、栄光に満ちた導きを受けることを期待していたのでしょうか。このようなことはまったく何も起こりませんでした。日曜日がやって来ました。わたしは、教会に行くのはこれで最後にしようと心に決めました。

その日わたしは3つの集会すべてに出席しました。神権会から始めて、福音の基礎クラスに出席し、最後に聖餐会せいぜんかいに出席したのです。聖餐会のちょうど真ん中あたりで、何か表現できないくらいすばらしいことが起こりました。何かはわたしの心の中で燃え始め、いまだかつて経験したことのないような確信で胸がいっぱいになったのです。それは、はっきりとした確かな気持ちでした。その気持ちはわたしの心の奥深くまで浸透し、わたしの全身を貫きました。集会が終わったときに、わたしは前とはまったく違った人間になっていました。

真心から祈るときに、天の御父はこたえられるということをわたしは

知っています。天の御父はわたしたちを個人的に知っておられます。わたしたちの祈りにこたえるふさわしい時はいつなのか、天の御父は御存じなのです。□

覚えました。彼らは、『モルモン書』と自分たちが教えた原則について祈ってみるようチャレンジしました。わたしはやってみると答えました。

姉妹たちが次に福音を教えに戻って来たときに、母は興味を失っていました。わたしは母の許可をもらって、続けて宣教師の話を書きました。宣教師はいつも忘れずに自分たちの教えていることが真実かどうか天の御父に祈り求めるようチャレンジしました。わたしは彼らの言葉を真剣にとらえ、絶えず祈りましたが、何も起こりませんでした。

わたしは教会に2回出席し、その雰囲気がとても気に入りましたが、真実かどうかまだ確信が持てませんでした。わたしは姉妹たちに、何も答えを受けていないので、まだバプテスマは受けられないと答えました。姉妹たちはバプテスマを受けるようにという同じチャレンジを繰

あなたの人生は主の恵みによりどのような祝福を受けましたか。『リアホナ』では、主に近く生活し、信仰を込めて主とともに歩んだときにいろいろな経験をした若い読者の皆さんからのお便りをお待ちしています。あなたの証を、Youth Articles, International Magazine, 50 East North Temple, Floor 25, Salt Lake City, UT 84150-3223, U.S.A.までお寄せください。またあなたの証の中で紹介した方の姓名、あなたの住所、電話番号、ワード/支部名、ステーキ/地方部名もお書きください。できれば写真を少なくとも1枚同封してください。



「忍び抜いた人たちはさいわいである
と、わたしたちは思う」





フロリペス・ルージャ・ダマシオ姉妹

—左から2番目。

サンパウロ神殿前で（下）

リペス姉妹にとって、1993年にバプテスマを受けて以来3度目のものでした。

人々は、フロリペス姉妹と姉妹の置かれた環境について知らなければ、ここに述べたような状況は、珍しいものではないと思うかもしれません。

フロリペス姉妹はブラジルが奴隷解放を宣言した1888年5月の翌年、1889年12月13日に生まれました。両親は奴隷として、主人の砂糖プランテーションで働いていました。

けれどもフロリペス姉妹は自由の身に生まれました。両親から人生や自由に対して、また労働に対して高い価値観を持つように教えられて育ちました。姉妹は幼いときから、より良い生活をするために働いてきました。そして若くしてカサミロ・ジョビノ・ダシルバと結婚し、12人の子供を設けました。ご主人は60歳でなくなりました。

1993年7月11日、フロリペス姉妹は103歳で末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になるためにバプテスマを受けました。そして1994年12月2日、間もなく105歳になろうとしていたフロリペス姉妹は、自分自身のエンダウメントのためにサンパウロ神殿に旅立ちました。今回の神殿旅行のとき、フロリペス姉妹は実に107歳でした。

神殿での奉仕中も、フロリペス姉妹は休もうとはしません。多少の疲れはあっても、神殿にすることができるととても幸せだと教えてくれました。

フロリペス姉妹は今回の神殿旅行の最終日には、サンパウロの市街を少し

見物したいと思いました。通りや店や周りの様子になじむに連れて、フロリペス姉妹は新しい出会いに対する喜びを皆に伝えました。たくさんの車、飛行機や人々に感動し、自分は牛車や二輪馬車を見て育ったのだと教えてくれたのです。

現在109歳のフロリペス姉妹は、5人の子供に先立たれています。今も自分の食べる野菜を育てて収穫し、料理を作り、自分と同じように夫に先立たれた娘が病気のときには面倒を見ます。そして長い道のりを歩き、バスに乗らなければいけないにもかかわらず、日曜日はいつも朝早くから集会所にやって来ます。

フロリペス姉妹は人生における困難やチャレンジに容易に屈することがありません。時の移ろいとともにも彼女の背中が曲がってきたようですが、フロリペス姉妹は偉大な決意と忍耐を示してくれます。そして、義にかなった生活の中に幸福を見いだすという模範を示してくれています。姉妹はいつも支部の教会員のために祈り、聖霊を感じられる生活を続けるよう人々を励ましています。訪問教師が訪ねて来ると、『モルモン書』を読み聞かせてくれるようにお願いします。

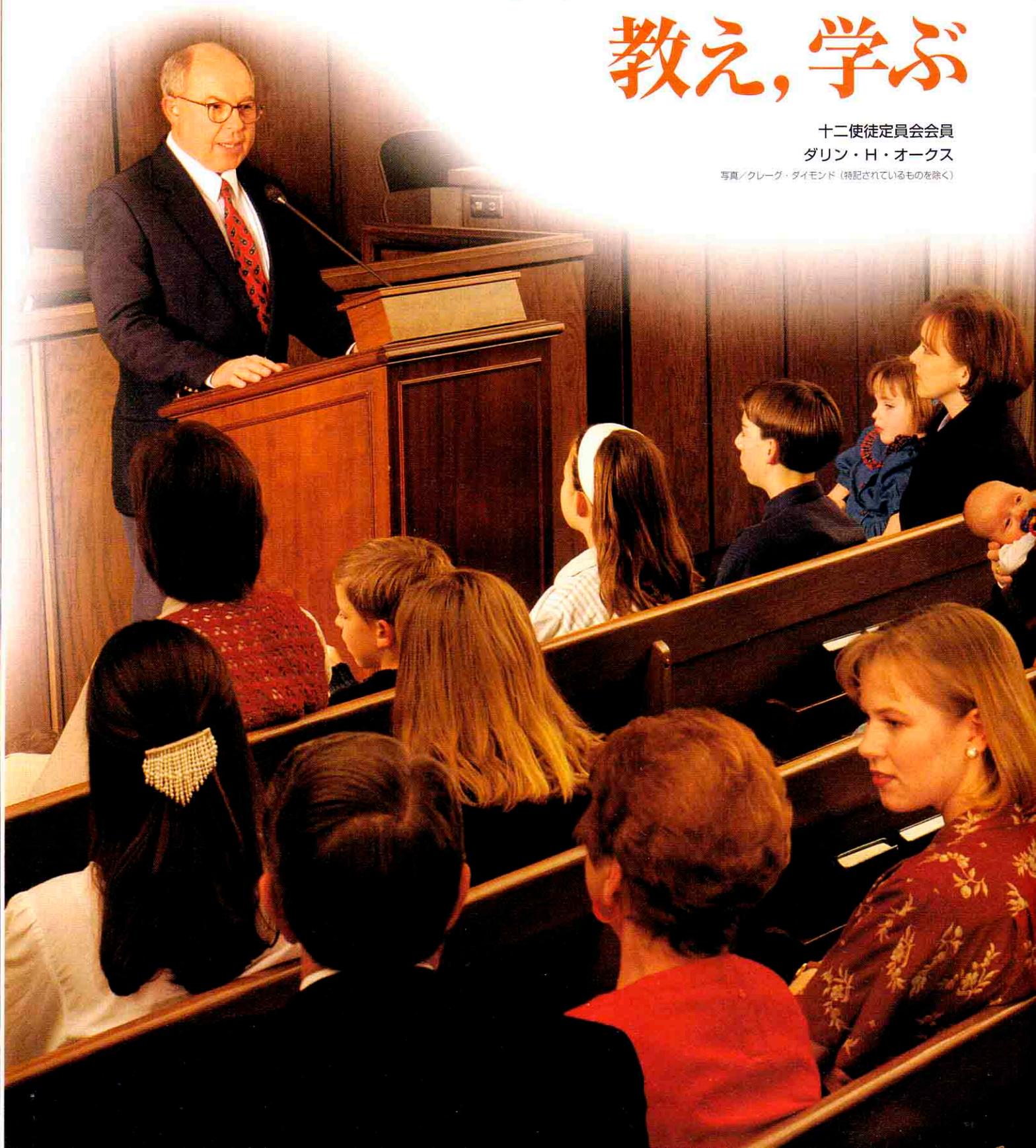
フロリペス姉妹は、ヤコブの手紙にあるように、「苦しみを堪え忍ぶことについて〔の〕模範」です。ヤコブはこう続けています。「忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う。」（ヤコブの手紙5：10-11）□

フロリペス・ルージャ・ダマシオ姉妹がブラジルのベルオリゾンステーク、ホアンモンレバド支部の教会員たちとともにサンパウロ神殿に行ったのはそんなに昔のことではありません。1997年6月3日から7日までの神殿への旅行中、フロリペス姉妹は毎日少なくとも3回のセッションに参加し、時には4回のセッションに参加しました。また、この神殿旅行中、姉妹は亡くなった夫や、娘を含むほかの家族との結び固めの儀式を受けました。娘のマリア・ライムンドは自分自身のエンダウメントを受けました。この500キロに及ぶ旅は、フロ

み た ま
御霊によって
教え、学ぶ

十二使徒定員会会員
ダリン・H・オークス

写真/クレーグ・ダイヤモンド(特記されているものを除く)



もしわたしたちが
主の定められた方法で
教え、学ぶなら、
主は、わたしたちの行いに応じて、
徳を高め、光を注ぐために、
御霊を送ってくださいます。



1831年に預言者ジョセフ・スミスに授けられた「教会の律法」と呼ばれる啓示の中で、主は、「御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない」と命じられました（教義と聖約 42：14）。それから数か月後、預言者ジョセフ・スミスは、この点に関してさらに指示を受けましたが、それは現在教義と聖約第50章となっています。

『何のためにあなたがたは聖任されたのか。』

御霊、すなわち真理を教えるために遣わされた慰め主によって、わたしの福音を宣べ伝えるためである。……

それゆえ、真理の御霊によって御言葉を受ける者は、真理の御霊によって宣べられるままにそれを受ける……。

それゆえ、説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。』（教義と聖約 50：13-14, 21-22）

このなじみの聖句は、末日聖徒イエス・キリスト教会にあって、あらゆる教える場面の根幹となる戒めとなっています。この聖句はあまりにも聞き慣れているために、半ばスローガン化しており、そのためにかえて、わたしたちは、聖句の真の意味を理解することなく使ってしまうという危険にさらされています。ですから、わたしは、御霊すなわち聖霊によって教えるとはどういう意味なのか説明し、さらに、そのためにわたしたちはどのような準備をしなければならないのかということについて論を進めていきたいと思えます。そして、主の御霊の交わりを受けるために定められた様々な原則についても、その一部を復習してみたいと思えます。

御霊によって教えることの重要性

主は御霊によって教えることの重要性について、次のように言われました。「御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない。」（教義と聖約42：14）この指示がどれほど重要かについては、次のような事実を思い起こせば、簡単に理解できるはずでです。わたした

ちがイエス・キリストの福音を宣べ伝えるために世に出て行くとき、わたしたちから教える聞く人々の中には、わたしたち以上の正規の教育を受けてきた人々が数多くいます。わたしたちの出会う聖職者は、どの人をとっても、神学に関してわたしたち以上の教育を受けています。わたしたちの教会には専任の聖職者はいません。神学校もありません。専任の聖職者が長年かけて専門的に研究してきたようなことでも、わたしたちの中には、そんなことについては今まで一度も耳にしたことがないと思う者もいます。

わたしたちの教会の宣教師は、哲学や形而上学、世界史や言語、あるいは科学や芸術について研究を進めてきた人々と出会います。また、自分たちよりもはるかに高い教育を受けてきた人々と出会います。そのことを考えると、もし宣教師たちが主の御霊を受けることがなければ、あるいはもし宣教師たちが御霊の指示の下に教えることをしなければ、どうやって宣教師としての使命を全うすることができるでしょうか。

わたしたちは世の人々と同じ土俵の上で競うことはできません。もしわたしたちが自分の召しを完全に果たしたいと願うなら、わたしたちは主の方法で教える必要があります。

もしわたしたちが主の御霊の導きを受けるならば、相手の教育のレベルにかかわらず、わたしたちはどんな人でも、世界のどんな場所でも教えることができます。主はわたしたち以上に何でも御存じなのですから、もしわたしたちが主の僕として、その御霊を受けて行動するのであれば、主があらゆる人々に一人残らず、主の救いのおとずれを伝えることをしてくださるはずなのです。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように教えています。「人の霊に語りかける神の御霊は、天界の存在者と接して真理が与えられる場合より、はるかに効果的に分かりやすく真理を伝える力を持っている。聖霊によって真理は体の骨髄にしみ込み、忘れ去ることができないものとなる。」

(『救いの教義』ブルース・R・マッコ
ンキー編, 1:47)

御霊によって教えることに関する最も大切な啓示は、教義と聖約第50章にあります。ここで主は教会の長老たちに向かって、あなたがたが聖任を受けたのは「御霊、すなわち真理を教えるために遣わされた慰め主によって、わたしの福音を宣べ伝えるため」であると言われました(14節)。

次に主は、御霊によって真理の御言葉を宣べ伝えるよう聖任あるいは任命されている一人一人に向かって次のように尋ねておられます。「真理の言葉を宣べ伝えるために遣わされる者は、真理の御霊によってそれを宣べ伝えるか、それとも何かほかの方法によって宣べ伝えるか。」(17節)この問いかけを、わたしたち自身の状況に当てはめて考えると、つまり、わたしたちは御霊によって教えるのか、それとも、自分自身の知性に頼って教えるのか、ということなのです。

第50章の説明によれば、もしわたしたちが御霊によって教えるならば、教えを聞く人も御霊によって御言葉を受け入れることができ、それによって教える者も教えを聞く者も「ともに教化されて、ともに喜ぶのである」とあります(20-21節参照)。

これに反して、同じ啓示の中で、わたしたちが教えるときに「もしもそれが何かほかの方法によらずれば、それは神から出てはいない」と説明されています(20節)。

これは力強い教えです。もしわたしたちが主の定められた方法で教えるならば、主は御霊を送ってくださり、それによってわたしたちから教えを受ける人々は徳を高め、光を受けることができるのです。もしわたしたちが主の



ハイラム・スミスは、

教えるよう召されるまで、

自ら備えをするよう求められました。

主はこう言われています。

「わたしの言葉を告げようとしないで、

まずわたしの言葉を得るように

努めなさい。そうすればその後、

あなたの舌は緩められる。

それから望むならば、

あなたはわたしの御霊とわたしの言葉、

すなわち人々を確信に導く神の力を

受けるであろう。」

方法によって教えないとしたら、つまり、自分自身の知識に頼ったり自分自身の知性に頼ったりして教えたり、あるいは、もし自分の準備した内容に過度にこだわったり、他人の知恵やテキストの字句に拘束されてそこから抜け出せなかったりしたら、わたしたちの教えることは「神から出てはいない」ことになるわけです。

十二使徒定員会の一員であったブルース・R・マッコンキー長老は、この原則を次のような言葉で教えています。

「真理の言葉を教えるとき、この点に注目してほしいのだが、あなたが真実のことを語っており、語ることはすべ

て正確で間違いがないとしよう、その真理の言葉を御霊以外の方法で教えるとしたら、それは神から出たものではない。では、御霊以外の方法で教えるとは、どのような方法であろうか。当然のことながら、それは知性の力によって教えることである。

かりに、今晚わたしがここに来て、教えることに関する偉大なメッセージを伝えることになり、神の御霊の介在なしに、知性の力でそれを行ったとしよう。わたしの語る言葉はすべて真実で、いかなる誤りもないが、豊かな知性の表出であった。そうした場合、この啓示では、『もしもそれが何かほかの方法によらずれば、それは神から出てはいない』と言っているのである(教義と聖約50:18)。

つまり、神がわたしを通してそのメッセージを語られたのではなかったわけだが、その理由は、わたしが、御霊の力ではなく、知性の力を使ったからである。理性や論理といった知性的なものは、ある意味では役に立ち得るものである。道を備えることができるし、ある状況下では、御霊を受ける精神的な備えをすることもできる。しかし、人が改宗に導かれるのは、そして、真理が人の心の奥にまでしみ込むのは、ただ御霊の力によって教えられたときだけである。』(The Foolishness of Teaching [pamphlet, 1981], 9)

もしディベートのテクニックに頼ったり、販売促進の方法論に頼ったり、あるいはグループ心理学に頼ったりすると、わたしたちは別の方法で福音を宣べ伝えていることになり、神から出たものではなくなります。

わたしたちは御霊によって福音を教える必要があります。御霊によって真理を証する必要があります。そのよう



**御霊によって教えるためには、
まず第1に戒めを守り、神の前に
汚れのない者とならなければなりません。
それによって、神の御霊が
わたしたち一人一人の宮に住まうことが
できるようになるのです。**

に行われれば、真心から真理を求める人には、語られたことが真実であると聖なる御霊が証をしてくれるのです。

理性や論理といった知的なものは、道を備えることはできます。また、わたしたちの準備の手助けをすることもできます。しかし、わたしたちが主の御霊ではなく、そうしたものにこだわりすぎると、主の方法で福音を教えているとは言えなくなるのです。

主はその真理を強調するに当たり、次のように言われました。「善を行うように導く、すなわち、公正に行動し、へりくだって歩み、義にかなって裁くように導く御霊を信頼しなさい。これはわたしの御霊である。」(教義と聖約 11:12)

わたしたちはこのような方法で福音を教えなければならないのです。

御霊によって教えるには

御霊によって教えるには、まず、わたしたちが戒めを守り、わたしたち自身の宮に神の御霊が住むことができるよう、神の前に清い生活をする必要があります。この原則は、様々な聖句の中で教えられており、また、生ける預言者はすべてこの点に触れて教えています。

わたしたちは、主の御霊は汚れた宮の中に住まうことがないのをよく知っています(1コリント 3:16-17参照)。ですから、わたしたちは、悔い改めと、必要によっては告白と、そして汚れた

行いや思いを避けることによって、自分自身を清める必要があります。

戒めを守り、清い生活をするのが必要なのは、わたしたちが毎週耳にする聖餐の祈りの中でも明らかです。この二つの祈りの言葉によれば、わたしたちが聖餐を頂くときには、進んで御子の御名を受けることを証明します。それは、きわめて神聖で厳粛なことです。また同時に、戒めを守り、いつも御子を覚えていることも証明します。もちろん、いつも神の御子を覚えているという約束を守る人は、神の御名を汚したり、卑俗な言葉や荒々しい言葉を使ったりすることもなく、また、いつも神の御子を覚えているということと矛盾するような環境や影響の下に、意図的に身を置くようなこともしません。

わたしたちは、聖餐の祈りで宣言しているように、「いつも御子の御霊を受けられるように」このようなことをすべて行うのです(教義と聖約 20:77)。

聖霊は個人的な啓示を媒介する御方ですから、もしわたしたちが罪を犯していたり、怒っていたり、神に選ばれた幹部たちに反抗的な態度を執っていたりしたら、聖霊を伴侶とすることはできません。

同じように、啓示の霊を受ける最善の方法は、聖霊の影響の下に語られる言葉に耳を傾け、その言葉を研究することです。言い換えれば、わたしたちは聖文を読んだり、靈感を受けた指導者の話を読んだり、耳を傾けたりすることによって、御霊を得ることができるのです。

以上の点をまとめてみましょう。啓示の媒体として働く主の御霊は、汚れた宮に住まうことはありません。また、もしわたしたちが御霊を受けていたいと望むならば、神の戒めを守り、思い



オリバー・カウドリに与えられた

啓示から、わたしたちは、

神がその息子娘たちに

教えられるときには

神の御霊の力をお使いになることが

分かります。それは、

神の息子娘たちに光をもたらし、

平安を告げてくれるのです。

の点でも行いの点でも自分自身を清く保つ必要があります。

準備

主の業のために献身的に働きたいと思うなら、わたしたちは準備という名のつらい作業にかかわる必要があります。

ハイラム・スミスがこのことについて教訓として学んだのは、1829年5月のアロン神権が回復された直後、また教会が組織されるほぼ1年前のことでした。主は、弟の預言者ジョセフ・スミスを通じてハイラムに一つの啓示をお授けになりました。その啓示の中で、ハイラムはまだ宣べ伝える備えができていないと告げられたのです。そして、召されるまでの間に、主の戒めを守り、自らを備えるように言われます。主はこうお告げになりました。

「わたしの言葉を告げようとしなくて、わたしの言葉を得るように努めな

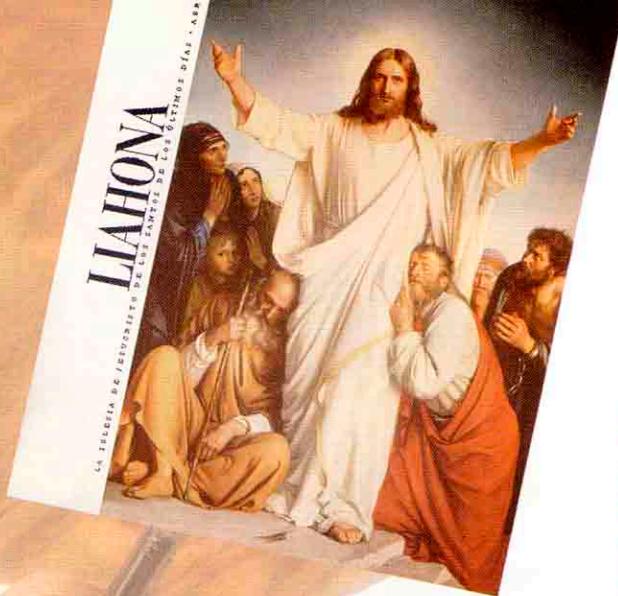
さい。そうすればその後、あなたの舌は緩められる。それから望むならば、あなたはわたしの御霊とわたしの言葉、すなわち人々を確信に導く神の力を受けるであろう。

しかし、今は黙していなさい。まことに、あなたはわたしがこの時代に人の子らに授けるすべてのものを得るまで、すでに人の子らの中に出ているわたしの言葉を研究し、さらにまた人の子らの中に出る行くわたしの言葉、すなわち現在翻訳されつつあるわたしの言葉を研究しなさい。そうすればその後、すべてのものがこれに加えられるであろう。」(教義と聖約 11:21-22)

それから数年後にオハイオ州のカートランドで神権に関する啓示が与えられますが、その中で、この御言葉に加えて、主は聖徒たちに次のような指示を与えられました。「あなたがたは何を言おうかと、前もって思い煩ってはならない。ただ絶えず命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい。そうすれば、それぞれの者に必要な部分が、必要なそのときに授けられるであろう。」(教義と聖約84:85)

簡単に言えば、御霊によって教えなさいという主の指示があるからといって、それは、いかなる意味でも、わたしたちの側で個人的な準備をする必要がなくなるということではありません。むしろ、ここに引用した聖句によれば、主はその必要性を強調しておられるのです。

わたしたちは聖文を研究する必要があります。生ける預言者の言葉を研究する必要があります。子供たちや生徒たちや求道者たちにうまく説明し、よく理解してもらえよう、可能なかぎり学ぶ必要もあります。その中には、身だしなみや、明瞭にしゃべること、



みたま 御霊によって教えなさいという

主の指示があるからといって、それは、
いかなる意味でも、わたしたちの側で
個人的な準備をする必要が
なくなるということではありません。

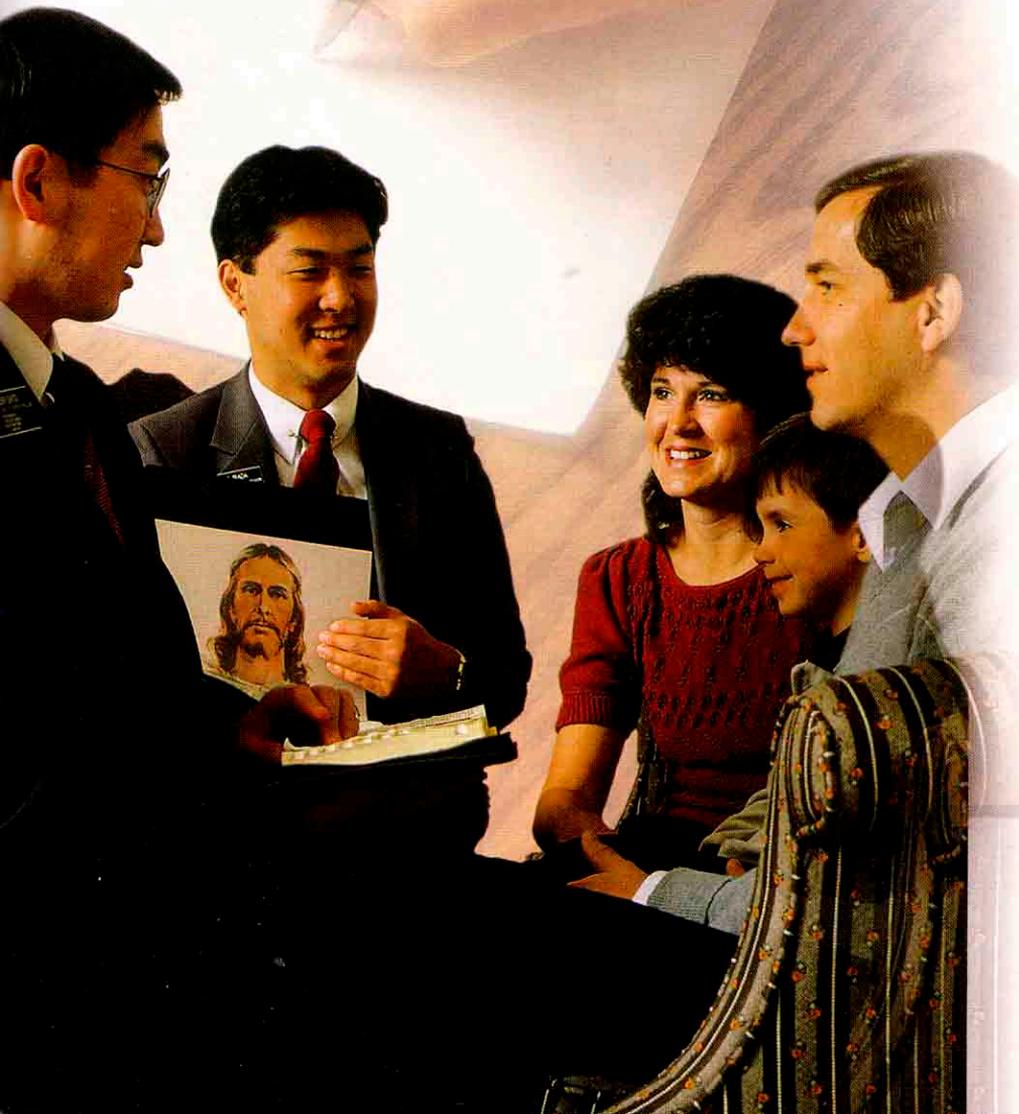
教えを受ける人たちの文化やその人たちの個人や家族の状況に無知であるがために人々の感情を害することのないよう、その方法を知っておくなども含まれます。こういうことやそれ以外のこともすべて、準備の一部です。そして、準備は、御霊によって教えるために必要な前段階なのです。

御霊に導かれる

準備の次に来る原則は、御霊による導きを受けたいと強く望むことです。その結果、それまで準備していたあらゆることをわきに置いて、御霊の指示に従うこととなります。これはなかなか理解し難い原則であり、また、実践に当たってはさらに難しい原則です。

かつてわたしがその原則について教えようとしたとき、一部の人々がその原則を準備しないことの口実に使う状況が生じたことがあります。ある人々はこう言いました。「御霊がわたしに、せっかく準備した原稿を捨てるように促すのなら、恐らく初めから準備などする必要がないのではないのでしょうか。」そのような考え方は、「ただ絶えず命の言葉を〔自分の〕心の中に大切に蓄えるようにしなさい」という教えとは相いれないものです。

わたしたちは福音の教えを絶えず心の中に蓄えることによって、絶えず一般的な準備はしておく必要があります。そして、お話をするように依頼されたり、クラスを教えるように言われたり



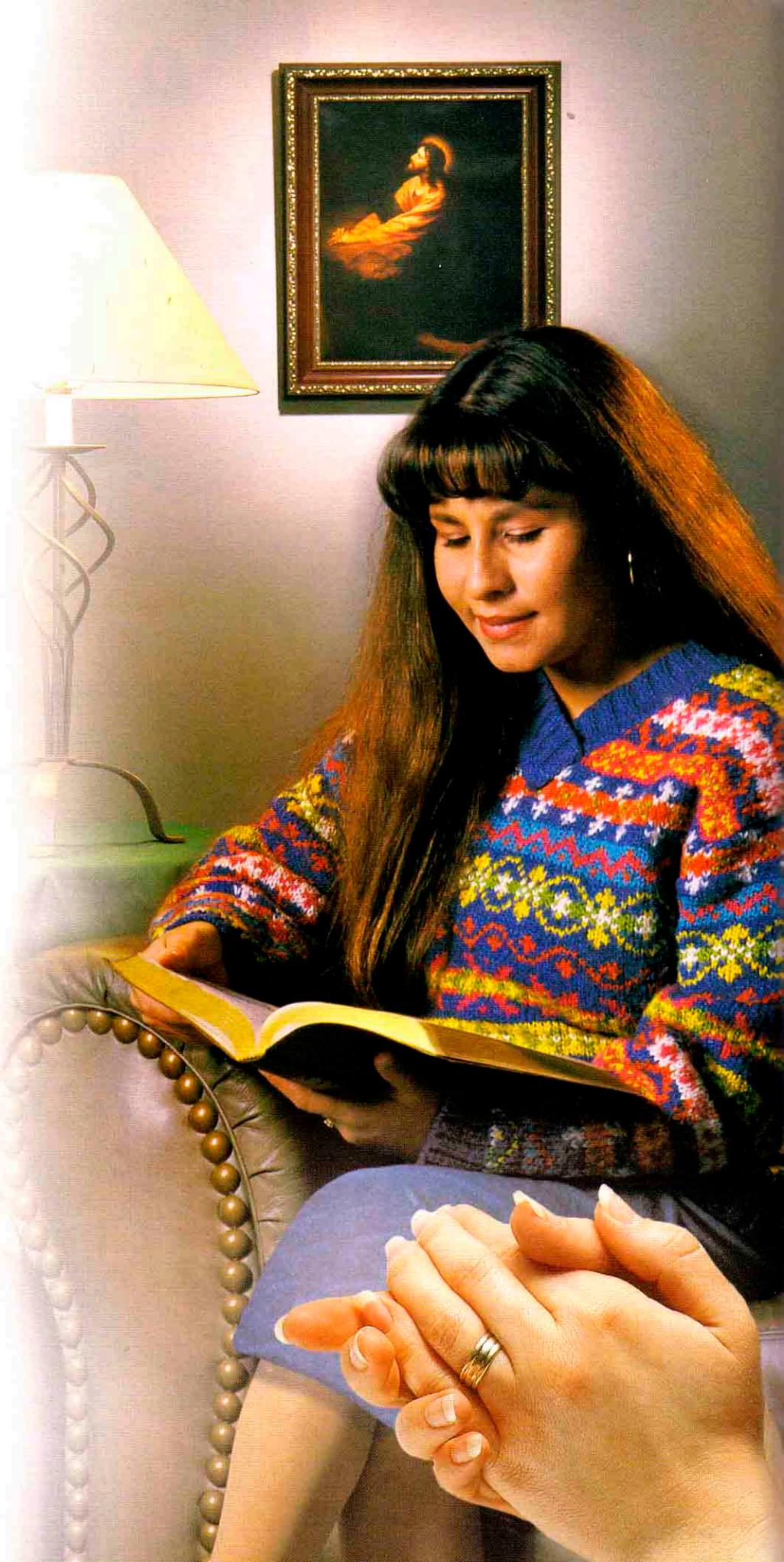
**主との交わりは、わたしたちが
自分の心の中で様々なことを
深く思い巡らした後で
もたらされることがしばしばあります。**

したら、それにかかわる特別な準備もする必要があります。時間の大部分は、徹底して準備のために使います。しかし、時には心の奥底からわき出るもののために、ある部分を削除したり、また別の部分を加えたりします。わたしたちは入念に準備をする必要はありますが、その準備に一言一句こだわる必要もありません。

御霊との交わり

ここまで、わたしたちが御霊によって教える際に従わなければならない原則について、幾つか紹介してきました。ここでは、御霊とのあらゆる交わりに適用される原則について、少し検証してみたいと思います。つまり、御霊は、教える人に対して、学ぼうと努める人に対して、そしてすべての教会員に対して、どのように働きかけるのかという点について、見ていきます。

神御自身の時に、神御自身の方法で。
まず第1に、わたしたちは、主がわたしたちに御霊を通じて語りかけてくださるのは、神御自身の時に、神御自身の方法で行われるのであるということを認識する必要があります。この原則を理解していない人々が数多くいます。このような人たちは、自分たちに準備ができて自分の都合のいいときに、主に呼びかけることができ、それに対して主は直ちに、しかもあらかじめ求めるままに詳細に至るまでこたえてくださるはずだと信じ込んでいます。啓示





はそのような方法でもたらされるわけではありません。

およそ17年前のことですが、わたしがまだブリガム・ヤング大学にいたころ、合衆国大統領を招待して大学で話をしてもらおうという計画が持ち上がりました。招待の時期については、わたしたちの都合を考えてある特定の時期を想定していましたし、また、滞在中にどんな話をしてどんなことをしてもらいたいかということについても、ある程度考えていることがありました。しかしながら、わたしたちは皆、十分な分別を備えていましたので、合衆国の最高権威者である大統領に直接コンタクトを取り、ブリガム・ヤング大学へ招待し、たとえそれが2万6,000人を対象に話をするのであっても、大統領の来訪に条件をつけるなどということとはできない相談であるということについては認識が一致していました。

もちろん大統領はこちらの招待がなければ来訪することはないということも承知していました。しかし、招待するに当たっては、実際に次のように言わなければならないことも承知していました。「おいでになれる時がありましたら、わたしたちはいつでも大歓迎いたします。また、こちらにおいでになる時期についても、滞在中のお話や行動の内容についても、自由に設定なさってください。わたしたちはこちらのスケジュールを調整し、全面的に大統領訪問に合わせて準備を整えます。」

2万6,000人を擁する大学で、一国の最高権威者と接触するに当たって、今申し上げたような手続きを取らないといけないとしたら、たとえば、ある人がどれほど重要な人物であろうとも、その人が、宇宙の最高権威者の来訪を受けたいと願ったり、また交わりを受け

→ **人の天使がアダムのもとに現れて、犠牲の律法について説明したのは、**
アダムが従順に過ごした
「多くの日の後」のことでした。

たいと願ったりしたら、それに条件を出したり、時期を指定したりできるわけがないのは、まったく驚く余地のないことです。

実際、教義と聖約第88章に書かれている偉大な啓示の中で、主が御自身の子供たちにお伝えになったのが、この原則です。主はこう言われています。「わたしに近づきなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに近づこう。熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、あなたがたはわたしを見いだすであろう。求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。」(63節)

次に、主は、わたしたちが主の栄光にひたすら目を向けるならば、わたしたちの全身は光に満たされ、すべてのことを悟ることができるようになるであろう、と言われました(67節参照)。さらに、偉大な約束を伴った次のような主の教えが続きます。「それゆえ、あなたがたの思いがひたすら神に向いたものとなるように、自らを聖めなさい。そうすれば、あなたがたが神を見

る日が来る。神はあなたがたにその顔を現すからである。それは神自身の時に、神自身の方法で、神自身の思いに従って起こる。」(68節、強調付加)

この啓示の中で述べられている原則は、わたしたちの天父からの交わりを受けるときにはすべて当てはまります。「それは神自身の時に、神自身の方法で、神自身の思いに従って起こる。」霊的な事柄に関して、わたしたちの側からの強制はあり得ないのです。

大部分の場合、「神自身の方法」とは、突如雷鳴がとどろいたり、目がくらむような光がさし込んだりといったものではありません。むしろ、聖文にあるように、「静かな細い声」でもたらされる方が普通です(列王上19:12;1ニエファイ17:45;教義と聖約85:6)。この原則を誤解している人々もいます。その結果、聖文に記録されているような偉大な霊的な現れのみを求め続け、いつも与えられているはずの静かで細い声を認識できずにいるわけです。これではまるで、大声で叫ぶ教師からだけ学び、小さな声でささやく最も優れた教師の話には耳を傾けまいと心を決めているかのようです。

主が大声で語られることはまずあり得ないということを、わたしたちは認識する必要があります。主のメッセージは、ほとんどの場合、ささやきとしてもたらされるのです。

光と平安をもたらす啓示。御霊によって教えを受けることに関する最も偉大な説明の一つは、1829年4月に合衆国ペンシルバニア州ハーモニーでオリバー・カウドリに与えられた啓示の中に書かれています。教義と聖約第8章の中に収められている啓示の中で、主はオリバー・カウドリにこのように告げられました。

「まことに見よ、あなたに降ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。」

さて見よ、これは啓示の霊である。」(2-3節、強調付加)

同じように、預言者ジョセフ・スミスも、啓示の霊について触れ、それは「純粋な英知」であって、「突然のひらめきを与えることのできるものである」と言っています (*Teachings of the Prophet Joseph Smith, selected by Joseph Fielding Smith [1976], 151*)。

ほかの啓示でも、オリバー・カウドリが主に尋ねたこと、そして「尋ねる度に、わたしの御霊からの教えを受けてきた」ことが指摘されています (教義と聖約6:14)。この教えはどのようにしてもたらされたのでしょうか。主はこのように言われました。「見よ、あなたがわたしに尋ねたので、わたしがあなたの思いを照らしたことを、あなたは知っている。」(教義と聖約6:15、強調付加) 主はこれと同じ教えを、ハイラム・スミスに与えた啓示の中でも繰り返されました。その啓示の中で主はこう言われました。「まことに、まことに、あなたに言う。わたしはあなたにわたしの御霊を授けよう。わたしの御霊はあなたの思いを照らし、あなたの霊に喜びを満たすであろう。」(教義と聖約11:13、強調付加) ここに引用した偉大な教えこそ、主が御霊によってわたしたちと交わる方法なのです。

さらにオリバー・カウドリに与えられた啓示の中で、主はオリバーに「これらのことが真実であること」を知ろうとして祈ったときのことを思い出すよう告げられました (教義と聖約 6:22)。そして、主は、その祈りにどう

こたえてオリバーに啓示を授けられたかを、次のように説明されました。「わたしはこの件についてあなたの心に平安を告げなかったであろうか。神からの証よりも大いなる証があるであろうか。」(教義と聖約6:23、強調付加)

これまで引用した数々の聖句から、神がその息子娘たちにお教えになるのは御霊の力によるのであって、御霊はその息子娘たちの心を照らし、彼らが尋ねたことに関して彼らに平安を告げるのだということが、わたしたちには分かります。

啓示とは心にかく思いである。わたしたちはまた、一連の啓示から、御霊による教えを受けるとは、決して受け身的なことではないというのが分かります。主との交わりがもたらされるのは、わたしたちが自分の心の奥深く様々なことを思い巡らせた後だということが、往々にしてあります。そのようにして初めて、わたしたちは確認を頂けるのです。

主はこのプロセスについて、1829年4月、ペンシルバニア州ハーモニーで授けた別の啓示の中で、オリバー・カウドリに説明しておられます。主はオリバー・カウドリがなぜ『モルモン書』を翻訳できなかったのかについて次のようにおっしゃったのです。

「見よ、あなたは理解していなかった。あなたはわたしに求めさえすれば、何も考えなくてもわたしから与えられると思ってきた。」

しかし見よ、わたしはあなたに言う。**あなたは心の中でそれをよく思い計り**、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならぬ。もしそれが正しければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。」(教義

と聖約 9:7-8、強調付加)

『教義と聖約』のあらゆる聖句の中で、この部分は、最も重要な聖句の一つでありながら、最も誤解されている聖句の一つかもしれません。御霊の教えというものは、心の思いとしてもたらされることがしばしばあります。その事実はきわめて重要でありながら、それが具体的にどのような意味を持つかについては誤解している人もいます。わたしは、これまで「自分の胸が『内から燃や』された思いになった経験がありませんから、聖霊の証を受けたことがありません」と言う人々に数多く出会ってきました。

では、「胸が内から燃える」とはどのような意味なのでしょう。栄養物の燃焼によって生じる熱のように、カロリーの熱のようなものを感じずということでしょうか。もしそういう意味だしたら、わたしは胸が内から燃やされたことはありません。当然、この聖句の「燃やす」という表現は、平安や静寂といった思いのことを意味しています。そういう証をこれまで多くの人が受けてきているのです。啓示を受けるとはそういうことなのです。

実際、静かな細い声は、まさに、「静か」で「細い」のです。

「主が語っておられるように、平安を告げる言葉とは、静かな確信、慰め、そして温かさといった感じをもたらすものである。それは穏やかで、静かで、また友好的で、優しい。そして、温和で寛大である。さらに、秩序正しく、幸福や喜びや愛の感情を伴うことで峻別される。」(Joseph Fielding McConkie and Robert L. Millet, *The Holy Ghost* [1989], 14)

ここで個人的な経験から、御霊がわたしたちの思いを通してどのように教



主は言われました。

「わたしに近づきなさい。そうすれば、

わたしはあなたがたに近づこう。

熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、

あなたがたはわたしを見いだすであろう。

求めなさい。そうすれば、

与えられるであろう。たたきなさい。

そうすれば、開かれるであろう。」

ガン音楽や合唱が大好きで、自分の国でも度々コンサートに足を運んでいます。わたしは皆さんの聖歌隊の歌声を聞いて、非常に深い感銘を受けました。わたしは英語が話せませんが、聖歌隊の皆さんがわたしの心の思いを実に率直に表してくださっていると心から実感しました。わたしと神との関係は、あの歌声を通じて、この世の思いの中で表現されていました。」

このソビエトの国会議員は心に何かを感じ、それをうまく表現してくれたので、わたしには、この方が御霊の証を受けたことが理解できました。

啓示は常時受けられるものではない。主の方法はまた、御霊によって主がわたしたちに語りかけられる頻度にも限度があることを示しています。このことを理解しないでいて、度々啓示はもたらされるものと誤解している人がいます。

御霊の様々な働きについて、十二使徒定員会のポイド・K・バックー長老は、次のように言っています。「わたしは、強く心に残る霊的な経験はそれほど度々もたらされるものではないということを学んできた。」(“That All May Be Edified” [1982], 337)

神からの啓示、すなわち御霊の教えや指示といったものは、常時受けられるものではありません。わたしたちは絶えざる啓示のあることは信じていますが、絶えず啓示が与えられると信じているわけではありません。わたしたちには、御霊の促しや詳細な指示がないまま、様々な問題に対処しなければならぬことがよくあります。しかし、それはわたしたちがこの世で経験しなければならぬことの一部なのです。幸いなことに、わたしたちは救い主から決して見放されることはありません。ですから、わたしたちの判断が、いわゆる許容範囲を超えるような行動を促したとしても、わたしたちが静かで細い声に耳を傾けているかぎり、主は御霊のささやきによってわたしたちの行動を抑えてくださるのです。

この点を説明するために、わたしたちの最初の両親がエデンの園から追放されて、神の前から閉め出された後に、どのようなことが起こったか考えてみましょう。主はこのときすでに、主へのささげ物として群れの初子をささげるようにという戒めをアダムに与えておられました。アダムはそれに従いました。しかし、主は追放後直ちにアダムと交わりを持たれたのでしょうか。聖文には次のように記されています。「多くの日の後、主の天使がアダムに現れて言った。」(モーセ 5:6, 強調付加)

教会の最も優れた福音の教師の一人

えるのかを説明してみたいと思います。しかも、これは啓示の過程についてなじみがないと思われる人々にも御霊が働きかけた例です。

11年ほど前のことですが、ソビエト最高評議会から選ばれた3人の高官がソルトレーク・シティーを訪問されました。わたしはテンプルスクウェアでこの賓客の接待に当たったのですが、まず、訪問者センター北館へ案内し、そこで絵画とクリスマス像を見ていただきました。次に、タバナクルへ案内し、そこでは、日曜日の朝のタバナクル聖歌隊の放送の様子を視聴していただきました。

その後、わたしたちのうちから数人がテンプルスクウェアの会議室で3人の高官と会談を持ちました。わたしたちはまず、教会について少し説明しました。次に、この代表団の長であったコンスタンチン・ルーベンチェコ氏がお話をされました。わたしは、通訳を介して話が続けられている間に、氏の発言の内容をメモに取りました。「ここへ来るまで、わたしは、モルモン教会というのは狂信的な人々ばかりのきわめて保守的な組織だと考えていました。しかし、皆さんの訪問者センターにある美しい絵画や像に接し、また聖歌隊の歌う美しいホールを拝見し、そこで聖歌隊やオルガンの響きを拝聴して、わたしは皆さんの教会について理解を新たにしました。」

いちばんわたしの興味を引いたのは、氏が御自分の心の思いについて語った部分でした。「合衆国に到着以来、わたしは人々から、合衆国でいちばん強い印象を受けたことは何かという質問を受け続けてきました。わたしは今それが分かりました。それは皆さんの教会の聖歌隊の歌声です。わたしはオル

である、ウィリアム・E・ベレットは、絶えず啓示を受けることについて、次のように言っています。「どんなささいなことにもすぐに御霊の導きを受けたいと祈る人々は、偽りの霊に絶えず身をさらすことになる。その偽りの霊は、いつでも我々の願いにこたえ、我々を混乱に導こうとしているように思われる。……この教会で出会った人々の中で、最も混乱していると考えられる人々とは、あらゆることに個人的な啓示を求める人々である。そういう人々は、自分の行うあらゆることについて、昼日中も夜の闇の中でも、個人的に御霊の確認を望むのである。わたしは、そういう人々は、わたしが知っている人々の中でも、最も混乱した人々であると申し上げる。それは、答えが間違ったところからもたらされる場合があると考えられるからである。」(quoted in *The Holy Ghost*, 29-30)

わたしも次の言葉には同感です。「啓示の霊が絶えず注がれていると主張する人々については、大いに危険が存在する。そのように広告する人々は、自分は神権指導者の勧告や助言には耳を傾ける必要がないと思込むことがよくある。自分たちには修正の余地がないと考えがちなのである。天使やそのほかもろもろの昇栄した人々と絶えず交わりを持っていると主張する人々が、監督やステーク会長の助言に対していささか違和感を抱くのは当然である。こういう人々は、あとわずかでも変わると、その態度が狂信的な集団心理へと変節し、その中では自分たちは教会の律法や国家の法律を超越した存在だと考えるようになるのである。」(*The Holy Ghost*, 31)

啓示と証。示現は確かに存在します。声もとばりのかなたから確かに聞こえ

てきます。わたしはそれを知っています。しかし、そうした経験は例外的なものです。そして、そのような偉大で例外的な経験をする人々というのは、そうした経験を公の場で口にすることはめったにありません。それは、わたしたちはそうしないように教えられているからであり(教義と聖約 63:64 参照)、また、わたしたちも、もしそうしたことを世に明らかにしたら啓示の道筋も閉ざされてしまうことを理解しているからです。

教会の指導者や会員にもたらされる啓示の大半は、示現やだれでも聞こえる特別な言葉を語る声でもたらされるよりも、むしろ静かな細い声か、心の思いとしてもたらされることが普通です。わたしはそうした種類の啓示が確かに存在することを証します。わたしは、主の業を進めるための導きを受けるに当たって、そうした啓示が身近でしかも日常的な経験だと知るようになりました。

こうした啓示の原則を理解せずに、奇跡的な出来事を経験するまで、自分に証がもたらされたことを認めずに、その事実をいつまでも受け入れようとしない人々もいます。そういう人たちの大部分は、特に教会で幼いときから育った人々は、証を得ることは結果ではなく過程であることを理解しません。十二使徒定員会会員であった故ブルース・R・マッコンキー長老は、その点について次のように言っています。「再び生まれるとは、聖文に書かれているような奇跡的なまれにしか起こらないような事例を除いては、段階的な出来事である。通常の教会員に関するかぎり、わたしたちは少しずつ再び生まれる。そして、戒めを守るに従って、光を加え、知識を増し、義にかなった

生活をしたという望みを高めて、再び生まれていくのである。」("Jesus Christ and Him Crucified," in *1976 Devotional Speeches of the Year* [1977], 399)

まとめ

御霊によって教えることは主の方法です。では、そのためにはどうしたらいいのでしょうか。第1に、わたしたちは戒めを守る必要があります。特に、自分の思いと行いを清いものとするという戒めを守る必要があります。第2に、わたしたちは準備をする必要があります。第3に、わたしたちは御霊によって導かれたいという望みを抱き、喜んでその導きを受け入れる必要があります。

主は、主御自身の時に、主御自身の方法で、わたしたちに語りかけてこられます。そしてそれは、普通、聖文に書かれているように、光をもたらず「静かな細い声」でもたらされます。わたしたちは自分の最善の判断に基づいて行動せざるを得ないことがよくあります。そのような場合、わたしたちが許容範囲を超えてさまようことがあっても、御霊がそれを抑える働きをしてくれます。啓示は現実に存在します。それは、主の方法で、主の時刻表に従ってもたらされます。

わたしはこれまで説明したことが真実であると証します。わたしたちには聖霊の賜物があります。それは、主の御霊を絶えず伴侶とすることができるという権利です。主の御霊は、御父と御子を証し、わたしたちを真理へと導き、わたしたちにあらゆることを教え、そしてわたしたちにあらゆることを思い起こさせる働きをします(ヨハネ 14:26; 16:13参照)。□

神は御自身の子供たちに 個人の啓示を通して語られる

ブリガム・ヤングは、わたしたちの「第一の、何よりも優先する義務は、神からわたしたちの霊に向けて意思の疎通の道が開かれるまで主を求めること」であると教えています（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』43）。モーセはこう約束しています。「あなたの神、主を求め、もし心をつくし、精神をつくして、主を求めるならば、あなたは主に会うであろう。」（申命4：29）

ユタ州サンディのポーラ・トーマス姉妹は、天の御父がその子供たちにほんとうに語られることを知りました。こう述懐しています。

「わたしは教会活動にあまり活発でない家庭で育ちました。でも、友人の影響で初等協会に集うようになりました。9歳のとき、初等協会の教師が個人の祈りに関するレッスンをしてくれました。わたしは、食事や集会の時間に祈ることは知っていましたが、個人的に天の御父に祈ることなど思ってもみませんでした。

レッスンを終わるとわたしは教師のところに行って、お祈りの方法を教えてほしいと頼みました。彼女は紙を取り出して書きながら、優しくこう教えてくれました。『まず天のお父様にあなたが受けているすべてのことに感謝することから始めるのよ。次に、心からの願いをお伝えするの。ポーラ、何か特別なお願い事があるかしら。』

わたしには自分が何を望んでいるかはっきりと分かっていた。母を幸せにしてあげたかったのです。わたしはそれまで母のほほえんだ顔や笑った顔を見たことがありませんでした。人生はつらく、母はよく泣いていました。わたしは母が大好きだったので、詩を書いたり、母の日の計画を立てたり、ベビーシッターをしてもらったお金で母にプレゼントを買ったりしました。母は心から喜んでくれましたが、彼女の苦労は相変わらず大きいと感じずにはいられませんでした。

わたしはその日の午後、教師が書いてくれた祈りの方法の紙を持って初等協会の教室を出ました。夜になり家族が寝静まると、わたしはベッドの傍ら



にひざまずいてまさに初めての個人の祈りを始めました。母を幸せにしてあげられるように祈ったのです。それから7年間、この同じ祈りを毎晩ささげました。

16歳のとき、わたしは初対面の祝福師から祝福師の祝福を受けました。祝福の中で、このように告げられました。『ポーラ、主はあなたの祈りを聞いてこられました。やがて、お母さんから豊かに与えられた贈り物に対し、深い愛の気持ちで恩返しする日が訪れるでしょう。あなたはお母さんに幸福をもたらすだけでなく、喜びという贈り物をももたらすことでしょう。』

祝福を受けている間、わたしは神が個人の啓示を通してわたしたちに御心を伝えたいと願っておられるという力強い証を得ました。

母が死んでから何年か後、わたしは母の身代わりとして神聖な儀式を受けるために神殿に参入しました。そのとき、『自分は母に、今日の儀式ばかりでなく様々な祈りを通じて、ほんとうに喜びという贈り物をもたらしていたのだ』ということを実感しました。』

個人の啓示という祝福を受ける道はすべての人に開かれています。主はこう約束されています。「あなたに降ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。……これは啓示の霊である。」（教義と聖約8：2-3）□

純 潔 が も

バネッサ・ムーディー

写真/著者の厚意により掲載

賢明で愛に満ちた天の御父は、神の子供たちが結婚前に性的関係を持たないように定められました。このような親密な関係は、法的に結婚した夫と妻との間だけで許されることです。

ジャマイカ・キングストン地方部リンステッド支部の聖餐会せいさんでの話を準備するために、わたしは『福音の原則』を調べることにしました。この本は何年も前に、わたしが純潔の律法を理解するうえで役立つ本のうちの1冊です。「純潔」という項目を探していると、以前気づくことのなかったある事実を発見しました。目次では、純潔の律法は「家族の救い」という見出しの下に記載されていたのです。目からうろこが落ちる思いでした。この律法が計画されたのはとりわけ、個人はもちろん、天においても地上においても最も根本的で重要な単位である家族を守るためなのです。この律法以上に家族を守り、強める戒めはほかにないということを認識しました。何という祝福、何という栄えある祝福でしょうか。

もし個人や家族がこの律法に従うならば、夫婦は完全にお互いを信頼し合い、両親は子供を信頼することができます。子供は結婚の聖約が尊ばれる家庭に誕生し、「自分は神聖な価値のある存在である」という知識を持ちながら成長することができるのです。そして子供も大

人も晴れ晴れしく、清らかで健全な思いを抱くことができます。このような家族がいかに堅固かは、だれもが認めるところです。

この出来事の7か月前のことです。わたしたちにとっての2番目の子供で、最初の娘となったブリアナが誕生しました。ブリアナが生まれたとき、わたしの母はブリアナに美しい白いサテン生地さてんのドレスを送ってくれました。この大切なドレスは、母の初孫娘へのプレゼントだったのです。このドレスは合衆国から遠くはるばるジャマイカまで旅しなくてはならなかったもので、母はドレスにビニールの覆いをかぶせ、それからいっそうの保護のために大きな箱に入れました。ドレスが届いたとき、夫もわたしもこの上なく喜びました。汚れなく、白く、美しいドレスでした。わたしたちの小さな娘に着せるに申し分ありません。

しかしちょっと想像してみてください。もしわたしがこのドレスをビニールの覆いから取り出すときに、不注意にもインクをドレスの上に少しこぼしてしまったらどうでしょうか。そして耐色性と染み抜きの実験をしたいからといって、ほかの色も何色かつけてみよう、紫、緑、赤などはどうかしら、と試しにこぼしてみたとしたらどうでしょうか。衝撃を受ける人がほとんどだと思います。そして恐らく、ドレスをだめにしないようにとわたしに懇願するのではないのでしょうか。そしてその理由も挙げてくれることでしょうか。こんなに美しいものなのだから、高価なものなのだから、そのようなことはしないように、などと説得を試みるのではないのでしょうか。もしわたしたちがドレスのように価値あるものを守るために



ジェレミー・ムーディーと妻のバネッサ、息子のジャスティン、そして娘のブリアナ。ブリアナは「白いサテン生地」のドレスを着ている(左)。ムーディー兄弟はジャマイカ・キングストン地方部リンステッド支部の支部長である。



福 祝 す ら

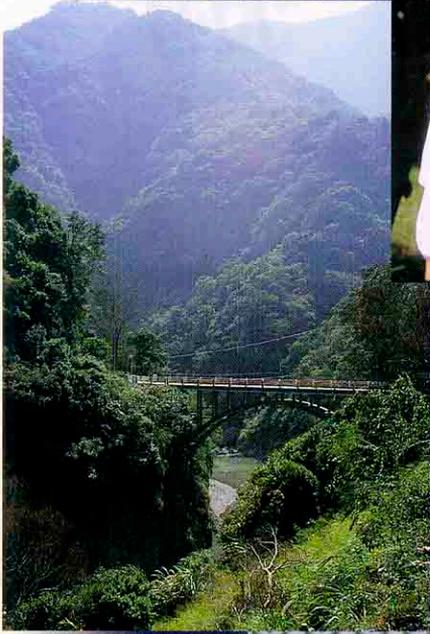
たゆみない努力を惜しまないとすれば、わたしたち自身の魂を守るためには、どれほどの努力をするべきなのでしょう。

そのドレスが合衆国からジャマイカまで旅したように、わたしたちも一人一人、地上で旅をしています。そしてこの旅の間、わたしたちを汚し、さらには滅ぼしてしまう多くのものと接触してしまいます。しかし保護する覆いを活用して、汚れなく、美しい状態を保つことができるのです。そうすれば目的地に到着したときには、準備が整った、ふさわしい状態でいられるのです。純潔の律法を含む主の戒めは、わたしたちを保護してくれるものなのです。

神様がわたしたちに備えてくださった情熱や望みは、ふさわしい方法で、ふさわしい時に用いれば、良いもので健全であり、大きな喜びをもたらします。けれども、誤用されてしまえば、悲しみと生涯残る後悔をもたらしてしまいます。純潔の律法に従えば、わたしたちは汚れることなく、美しい状態を保つことができ、そして幸福になります。ですから純潔の律法によりわたしたちは守られ、自由を得ることができるのです。

わたしたちが主の律法という保護を決して捨てることのないようにと祈っています。わたしたちとその家族を守るこの律法に従って生活することで、汚れなく、高潔で、ふさわしい状態で主の前に戻るできるようにと願っています。そう、母のプレゼントが汚れなく届き、生まれたばかりのかわいい娘にすぐに着せられる状態であったようにです。□





台湾



信仰をはぐくんだ40年間

文・写真／クリストファー・K・ビジェロー

「麗しの島」台湾で信仰の根は広がり
続けています。

台湾に住む教会員、張志勳^{チャンチシュン}は油圧機械販売の事業を経営しています。この会社の事務所には大きな額縁に収められた台湾・台北^{タイペイ}神殿の写真が壁に飾られています。神殿の尖塔^{せんとう}はまるで彼の新しい信仰を象徴するかのように天に向かってそびえています。神殿の写真が飾られているこの場所にはそれまで祭壇がしつらえられており、従業員は香をたいて拜んでいました。

「台湾ではほとんどの職場に祭壇があって、従業員は商売繁盛の神を拜んでいます」と張兄弟^{チャン}は説明しています。「教会に入ってから、わたしは祭壇が置かれていた場所に神殿の写真を飾ることにしました。」

台湾の教会員は張兄弟の例に見られるように、福音に従って生活するために信仰と勇気を表しています。台湾・台中^{タイチウオン}ステーキでステーキ伝道部長を務める張兄弟^{チャン}は

自分が1995年にバプテスマを受けたときにそうしたように、たばこをやめるよう従業員に勧めています。禁煙した従業員に対しては褒賞金を出すことを最近社内で発表しました。現在までのところ、この褒賞制度に参加を申し出ている従業員は一人もいません。

「主人は教会に入るまで、愛がどのようなものかを知りませんでした」と、夫より10年前にバプテスマを受けた張兄弟の妻、張吳蘭花^{チャンウーランファ}姉妹は話しています。「けれども現在、夫はわたしや家族をどのように愛したらよいかを知っています。」張家族は1996年に台湾・台北^{タイペイ}神殿において結び固めを受けました。

左ページ、上——台北^{タイペイ}東ステーキ、北投^{ペイトウ}ワードの陳松春^{チェンシュンチュン}と娘の盧陳嫻芬^{ルーチェンシェンフエン}；左——太魯閣^{タロコ}峡谷に架けられている「母の献身橋」；右——高雄^{カオシウオン}ステーキ、高雄第1ワードの樂^{カオシウオン}芬芬^{カオシウオン}；下——高雄第1ワードの陳信雄^{チェンシンシュン}・ベンジャミンと陳姚明芳^{チェンヤオミンディー}および二人の息子トミーとジミー；背景——台湾・台北^{タイペイ}神殿。上——「陰陽」を表す古代中国彫刻作品

こんにちは

今日の台湾



人口—2,200万人

面積—約3万5,900平方キロ

(オランダとほぼ同じ)

教会員—2万4,000人(人口

の約0.1パーセント)

神殿—台北

伝道部—3 (台北, 台中, 高雄)

ステーク—6 (台北中央, 台北東, 台北西, 台中,

台南, 高雄)

地方部—5 (中興, 新竹, 花蓮, 屏東, 高雄)

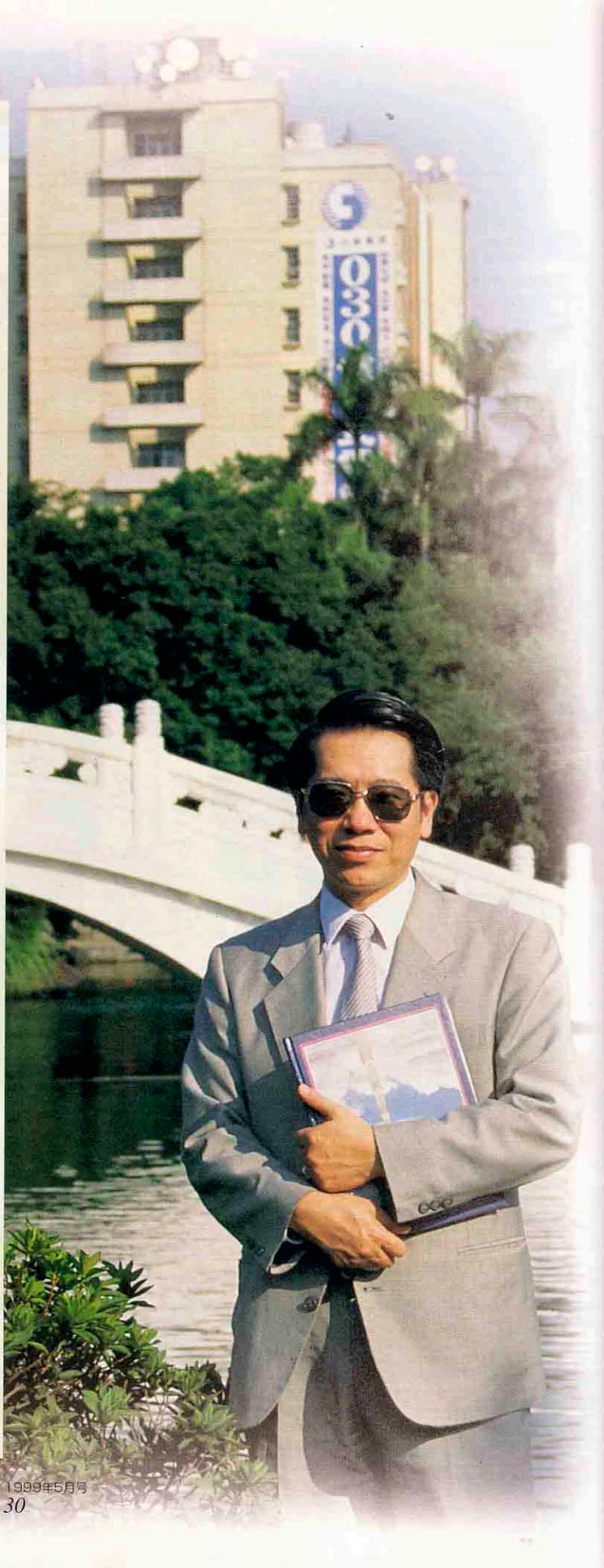
ワード—31

支部—31

教会所有の集会所—22

賃借集会所—17

右—市内の公園に立つ台湾・台北西ステーク会長、楊宗廷兄弟。手にしているのは台湾における教会の40周年を記念して発行された出版物。



「麗しの島」

中国本土から約150キロ離れた洋上に浮かぶ島^{タイワン}台湾は、1590年にポルトガル人の探検家によって、「麗しの島」という意味である「福爾摩莎（イルー・フォーモサ）」と名付けられました。20世紀半ばまで西欧社会で「フォーモサ」と呼ばれていたのはこのためです。最初に移り住んだ華南出身の人々は何世紀にもわたってここに住み続けています。中国語で「台湾」とは台形をした湾という意味です。中国人が移り住む以前はインドネシア人とフィリピン人がこの島を故郷としていました。現在でも島の山岳地帯には彼らの子孫が生活しています。

この島の支配者は目まぐるしく変わりました。1624年から1661年まで、オランダの貿易商人たちが台湾を支配しました。その後、中国王朝が支配権を奪取しました。そして、1895年から1945年まで日本が支配権を握りました。そして、共産党が本土の支配権を握った後の1949年に中国国民党指導者蔣介石が200万人近くの兵士、政府関係者、商人を率いて台湾にやって来ました。現在、台湾は中国民主共和国と呼ばれています。北京語が標準語となっていますが、広く使用されているのは台湾語です。

過去50年の間に、台湾は農業国から経済大国へと劇的な変化を遂げました。このため、人々は比較的水準の高い生活を営んでいます。けれども、食糧、住居、自動車のコストが高いため、多くの教会員は家族を支えるために人一倍働かなければなりません。週に6日あるいは7日働くことを要求される職場は全国的に見られます。

台湾の風光明媚な山岳地帯^{タイチウオン}を背にして東海岸に面する比較的小規模の都市、台東は、特に経済的に困難な状況に置かれています。同市に住む教会員、陳松春兄弟は、多くの人々が日曜日も働かなければ職を失うような環境に置かれていると報告しています。

以前にアジア地域会長会会長であった七十人定員会のジョン・H・グローバーク長老は、この状態を次のように説明しています。「これは忠実な教会員が霊性面に最大の関心を寄せ、家族、教会、仕事の間でバランスの取れた生活ができるように全力を尽くさなければならない

ということです。わたしたちは皆、物質偏重主義に対して正しい見識を持ち、そのうえで物事を判断し、選択しなければならないというチャレンジを受けています。」

台湾の教会には正しい決断を下してきた多くの人々の模範を見ることができます。台湾・台北^{タイペイ}東ステーク、台北第3ワードの熊觀平監督はそうした模範の一人であった父親を思い起こしてこのように述べています。「父は長い間監督を務めていました。教会はわたしたちの家庭のようなものでした。父は教会を愛していました。父は毎日ドアや窓の施錠を確認しに行きました。わたしも集会所を清掃する仕事を手伝いました。そして、14歳のときから書記の仕事を手伝い始めました。現在、わたしは仕事や家族でとても忙しいのですが、父の影響のおかげでどんなときでも教会で奉仕するための時間を作るようにしています。教会を第一にすれば、仕事でも家庭でもうまくいくことが多いです。」

「家族とともに過ごす月曜日の夕べと何日かの土曜日以外、わたしの居場所は職場か教会です」と語るのは台湾・台中^{タイチウオン}ステーク、台中第1ワードの馬汝泯^{マズーミン}監督です。「土曜の夕べは妻とデートに出かけます。これはとても大切なことです。わたしは仕事を選ぶとき、決める前に必ず、天父の助けを求めてきました。おかげで、家族を支え、教会で奉仕することができる良い仕事に恵まれました。」

仕事に関連して要求される過大な労働量と教会の責任から、会員たちが疲れ切ってしまう可能性が高いため、指導者は教会の召しを与える際に細心の注意を払っています。「わたしたちはほんとうによく考えてから会員に召しを与えます」と台湾・高雄^{カオシウオン}ステーク、高雄第5ワードの楊世寧^{ヤンシリン}第二副監督は話しています。「わたしたちは会員に召しについて話すときに、本人が不安感を抱いていないことを確認します。召しを受けた後も、疲れすぎているかどうかを確認します。もし彼らが満たされないものを感じていれば、問題を解決できるよう彼らを助けます。」

15歳でバプテスマを受けた陳信雄^{チェンシンシユーン}は青少年の時代か



ら、信仰を用いて経済的な苦難に耐え、教会のために犠牲を払うことを学んできました。陳兄弟は伝道に出るための準備をしているときに、家族の営んでいた事業が失敗してしまいました。父親から家計を維持するのを手伝ってほしいと言われました。陳兄弟は父親にこう言いました。「3か月間、神を信じて、ぼくが伝道に出ている間家族を祝福して下さるかどうかを確かめてください。」父親はそれを試してみることを承知しました。そして陳長老は祝福を求めて熱心に祈りました。伝道に出てから1か月半後、陳長老は父親から手紙を受け取りました。その手紙には10年間の収入が保証される仕事の契約を交わしたので、宣教師の任期を満了するまで帰って来る必要はないことが記されていました。現在陳兄弟は高雄ステーキで高等評議員として働いています。

若人に加えられる圧力

台湾の若人は義務教育の最後の3年間が始まるおよそ12歳から、国の経済競走の影響を受け始めます。「高校へ進学するには非常に難しい試験を突破しなければなりません」と台北で大学教授を務める地域幹部七十人の梁世安長老は説明しています。台中ステーク第一副会長で英語塾を運営する阮瑞昌は、入学基準が厳しいため、大学へ進学するための高校へ入学できる中学生は30パーセントから40パーセントにすぎないと述べています。この圧力は高校生活の間も続きます。大学に入るためのもっと難しい試験を乗り越えなければならないからです。

「一般的に、台湾で善良な保護者と言われる人々は、勉強するかどうかの選択権を子供たちに与えません」とグローバーク長老は言います。「教会の指導者はこの問題についてとても神経を使っています。台湾の若人が直面している教育の問題に立ち向かうには、可能な限りのあらゆる支援が必要であることをわたしたちは認識しています。」

教会ではほとんどの家族が、勉学に多くの時間を割く必要があるとはいえ、生活におけるほかの重要な面を大切にしなければならない時期には、勉学の時間を一部そちらへ向ける必要があると考えています。けれども、家



台湾における教会歴史

1921—デビッド・O・マッケイ長老、中国地域を奉獻する

1956—宣教師が香港から台湾に到着する

1959—マーク・E・ピーターセン長老、台湾を再奉獻する

1965—中国語の『モルモン書』が出版される

1966—台北で最初の集会所が奉獻される

1971—台湾で最初の伝道部が組織される

1973—教会教育機構がプログラムを開始する

1975—会員数が7,000人に到達する

1975—中国語の『教義と聖約』が出版される

1976—台北において最初のステークが組織される

1976—中国語の『高価な真珠』が出版される

1984—台北神殿が奉獻される

1998—会員数が2万4,000人に到達する

ステークの活動「ハッピーキッチン」で展示物を前にする台北の扶助協会の姉妹たち。

あらし
嵐の中をくぐり抜けた水兵

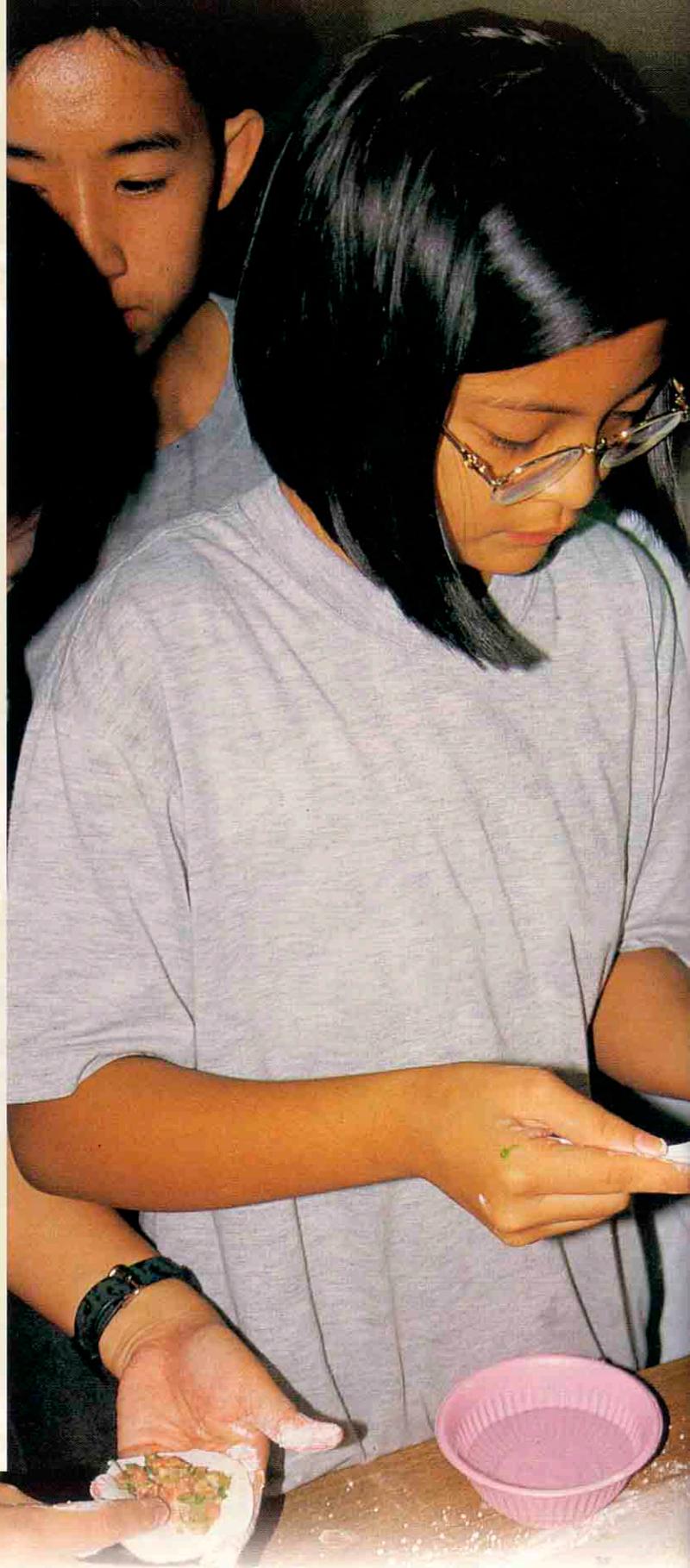


リン^{フド}兄弟が宣教師と初めて出会ったのは図書館の中でした。そして、1993年に教会に入りました。彼は数か月間専任宣教師として働きましたが、非常事態が発生したために途中で伝道地を離れて、2年間の

兵役義務に就かなければならなくなりました。海軍では全時間勤務でしたが、林兄弟の宣教師活動は続けられました。

ある日、水兵たちの夕食時に、部隊長は乾杯をするために全員に1本ずつビールを配りました。林兄弟が乾杯を断ると、部隊長は二つの選択肢を与えと言いました。ビールを飲むか、それが嫌なら大瓶のソーダを2本飲み干さなければならぬというものでした。林兄弟はソーダを飲みましたが、気分が悪くなってしまいました。その後もこの部隊長はことごとくつらく当たりましたが、林兄弟は自分の信念を曲げようとはしませんでした。時がたつにつれて、林兄弟を尊敬する兵士の数が増えてきました。現在では財政や、海軍本部との折衝などの重要な任務を任されています。□

右——ステーキの活動「ぎょうざ作りコンテスト」に参加する高雄の若人。



族の中で自分だけが教会員の生徒は大きなチャレンジを抱えることとなります。両親に従うことは台湾の文化だけでなく教会においても非常に大切なことです。これらの若人がバランスの取れた生活を営むには、十分に考えて、そのうえで最善の努力をする必要があります。祈りによって選ぶならば、彼らはチャレンジを乗り越え、強くなり、また幸せを感じながら生活することができるでしょう。]

台湾で実施されているセミナーは家庭学習セミナーです。該当者の約3分の1が登録しています。インスティテュートははるかに成功しています。対象となる学生の90パーセント以上が登録し、そのほか大学生でない多くのヤングアダルトが登録しています。台北西ステーキの楊宗廷会長は「わたしの大好きな召しはインスティテュートで教えることです」と言います。彼は1977年に台湾でインスティテュートクラスを最初に終了した会員の一人です。

宗教的チャレンジと家族のチャレンジ

世界のほかの国々でも見られるように、回復された福音は、宗教と家族の伝統が深く結びついているここ台湾でもしばしば文化の違いによる摩擦を生じさせています。国民の約93パーセントは、仏教、儒教、道教が入り混じった宗教的儀式を重んじています。

この教えは先祖崇拜を非常に重要視しています。しかしながら台湾には完全な信教の自由があり、約100万人が様々なキリスト教派に所属しています。

伝統的な中国の宗教は生存する親を含む先祖を敬うよう教えているため、台湾の若い改宗者は福音を受け入れることによって大きな苦しみに直面することがしばしばあります。台湾において親による支配は次第に弱まっているとはいえ、特に結婚していなければ30歳であっても息子または娘に対して両親は強い支配力を持つことがしばしばあります。

30年以上前に台湾で伝道し、最近台中伝道部の部長

の務めを終えたカール・ロバート・コーナーはこのように語っています。「台湾の人々は教会に入ると、ほかの神々を礼拝するのをやめます。けれども家族からの期待と圧力があるために、無視することができない慣習が幾つかあります。」

台北西ステーキの楊宗廷会長はこのように説明しています。「台湾では、ほとんどの親は自分が死んだときに、子供たちが紙幣を燃やし、香をたき、食物をお供えしてくれることを願っています。そうしないと次の世でひもじい思いをし、貧しい生活をしなければならないと考えているからです。このため、年輩の人々は若人が教会に入ったことを知ると非常に困惑します。」

教会の指導者はこれら親の心配について特に配慮しています。「わたしたちは求道者に対して、どのようなことを学んでいるかを親に話し、説明するよう勧めています」と高雄ステーキの葉葵猛会長は話しています。「福音が子供たちの生活をどのように変えているかを両親に知っていただくことが大切です。」また、子供たちが両親と先祖を敬っていることを知ってもらうことも大切です。

神殿を強調する

「教会員はほかの方法で先祖を大切にしているのです」と楊宗廷会長は話しています。「わたしたちは家族歴史活動を推し進め、神殿に人名を提出し、彼らが永遠に祝福を受けられるように儀式を執り行っています。」

台中ステーキ第一副会長の阮瑞昌兄弟は亡くなった両親のために神殿の儀式を受けたときに感動的な体験をしています。「わたしはそれまですでに13年以上神殿に参入してきましたが、わたしの両親のために儀式を行っている間、かつて経験したことがないほど強く御霊を感じました。結び固めの部屋でわたしが父の代理人として、妻が母の代理人として、祭壇の前にひざまずきました。わたしたちはそれが両親のためにできる最も偉大な事柄であると感じました」と阮兄弟は話しています。

1984年11月、台湾・台北神殿の奉獻式において行われた説教の中で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、かつて刑務所があった地に神殿が建てられたことについて



触れ、このように述べています。「かつて刑務所用地であった地に建てられたこの宮は、死の幕という獄屋の扉を開くことになるでしょう。」(in R. Lanier Britsch, *From the East: The History of the Latter-day Saints in Asia, 1851-1996* [1998] ,292)

「教会の中で一部の人は、中国で行われている礼拝の方法と旧約時代に行われていた儀式の間には関連性があると考えています」と阮瑞昌副会長は述べています。「一つの例は伝統的な中国の建物の出入り口です。左右と上部が赤く塗られた柱で築かれているこの出入り口は、殺戮の天使が過ぎ越して行くようにユダヤ人が過越の祭の際に行っていたことと似ています。船を意味する中国の漢字は箱舟のような形をした舟と8人を表しています。恐らく、洪水の物語と何らかの関係があると思われます。中国の社と廟には内庭と外庭があり、古代イスラエルで行われていたと同じような方法で犠牲がささげられています。わたしたちは福音が台湾の人にとって外来のものでなく、その一部をすでに知っているものであることに気づいていただくようにする必要があります。」

グローバーク長老はこのように述べています。「中国の文化は、真理、美、思いやり、家族、そのほか優れた特質を強調しており、福音との間に多くの共通点を有しています。教会にとってこの意味は明らかです。つまり、わたしたちは文化的価値観という面でわたしたちとさほど変わらない考えを持つ人々に福音を伝えようとしているということです。ただし問題は、彼らがすでに同じ価値体系を持っているので、福音を必要としないと考える傾向にあることです。彼らが何世紀もの間にわたって受け継いできたものと大して違いのない何もかもをもって西洋人がこの地を侵略しようとしていると考える人もいます。教会は彼らに、地上に生まれたすべての人は救い主と救いに関する主の計画が必要であることを知らせようとしているのです。」

教会は台湾において、強い力を発揮し、成熟する時期を迎えています。1956年に台湾で初めて、回復された福音が宣べ伝えられてから、比較的短い20年という歳月を経て最初のステークが組織され、その後も安定した成長を遂げてきました。現在、多くの地元出身の



主 治 殿
主 聖 聖
耶穌基督
東 亞 聖 徒
教 會

未亡人の信仰



孫^{サン}葉^{ウィリン}蕙^{かん}苓は夫を癌^{がん}で亡くしてから、3人の娘たちを養うために働かなければなりませんでした。孫^{サン}姉^{タイチツタン}妹は台中ステーキセンターの清掃、空手道場の事務の仕事に就いていました

が、家族を養うだけの収入を得ることはできませんでした。「この世は学習と試しの時です」と彼女は言います。「けれども、神様は生きておられます。わたしたちに耐えられないほどの試しをお与えになることはありません。」

夫の友人の一人が孫^{サン}姉妹のいちばん下の娘を定期的に預ることを申し出てくれました。「わたしはお返しに福音を分かち合いたいと思いました。」そこで孫^{サン}姉妹はその家族のために『リアホナ』（中国語版）を購読し、彼らのために祈り、神殿の祈りの名簿に彼らの名前を書きました。現在では、その友人の子供の一人が教会に加わり、活発に教会に集っています。

孫^{サン}姉妹は夫が亡くなる前に神殿で結び固めを受けたとき、神が儀式を見守っておられることを感じました。「わたしは、わたしたちの結婚が永遠であり、夫との別れが一時的なものにすぎないことを知っています」と彼女は話しています。孫^{サン}姉妹はワード扶助協会会長会で働いています。□

左、背景——台湾・台北神殿；上——台湾の先駆者となった夫婦（左から）^{台北}木^{ムーツァ}柵^{ムツァ}ワ^{ムツァ}ードの胡^{フーウェイ}唯^{フーウェイ}一^{フーウェイ}および胡^{フーウェイ}余^{フーウェイ}美^{フーウェイ}秀^{フーウェイ}、台北中央^{フーウェイ}ステーキ^{フーウェイ}、台北第2^{フーウェイ}ワードの梁^{リアンツーン}潤^{リアンツーン}生^{リアンツーン}および梁^{リアンツーン}吳^{リアンツーン}懿^{リアンツーン}雅^{リアンツーン}ならびに陳^{チェン}孟^{チェン}猶^{チェン}および陳^{チェン}林^{チェン}淑^{チェン}良^{チェン}。

愛によって導く



陳建年チェンジエンニンは1994年以
来、台東市政府で
働いています。薬剤師
を職業とし、かつては
支部長を務めた陳兄弟
は、台湾で選挙によっ
て公職に就いた最初の
末日聖徒ではないでし
ょうか。

「政治には難しい問
題や複雑な事柄が非常
にたくさんあります。このためわたしはほんとう
に主の助けを必要としています」と陳兄弟は話し
ています。「政治家は時々倫理にもとるような事
柄を行う誘惑を受けます。けれどもわたしは福音
のおかげで何が正しい道かを判断することができます。
わたしは自分の主義を守ることができるよ
うに祈っており、また靈感を受けています。」

陳兄弟はアルコール飲料を口にしないため、友
人や職場の同僚、新聞記者たちから教会について
質問を受けます。台湾では、出席者がバーやクラ
ブ、レストランで飲食しながら政府関係の仕事
を処理することが多いのです。

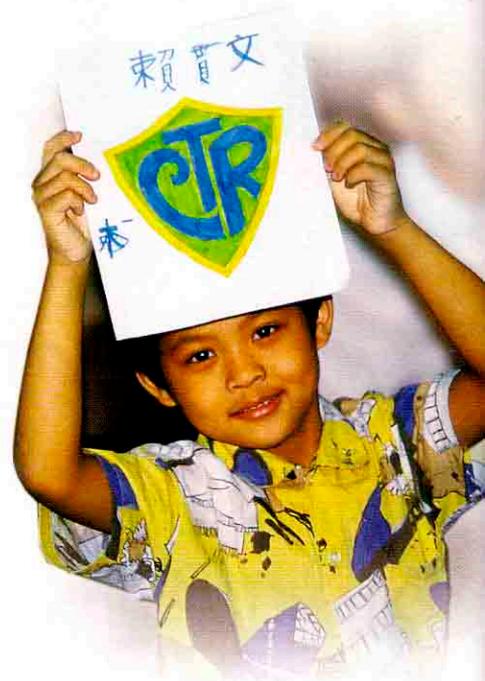
陳兄弟の事務所の壁には、愛と書かれた大きな
書が掛けられています。「わたしは愛によって行
動しています。そして人々が互いに愛をもって接
するよう働きかけています」と語っています。□

CTRのマークに自分の名前を記して誇らしげに
掲げる台湾・台北東ステーキ、台北第3ワードの
リクワンウン
頼貫文。

専任宣教師が働いており、教会の将来を導くために経験を積んだ指導者としてそれぞれ地元のワードや支部へ戻っています。

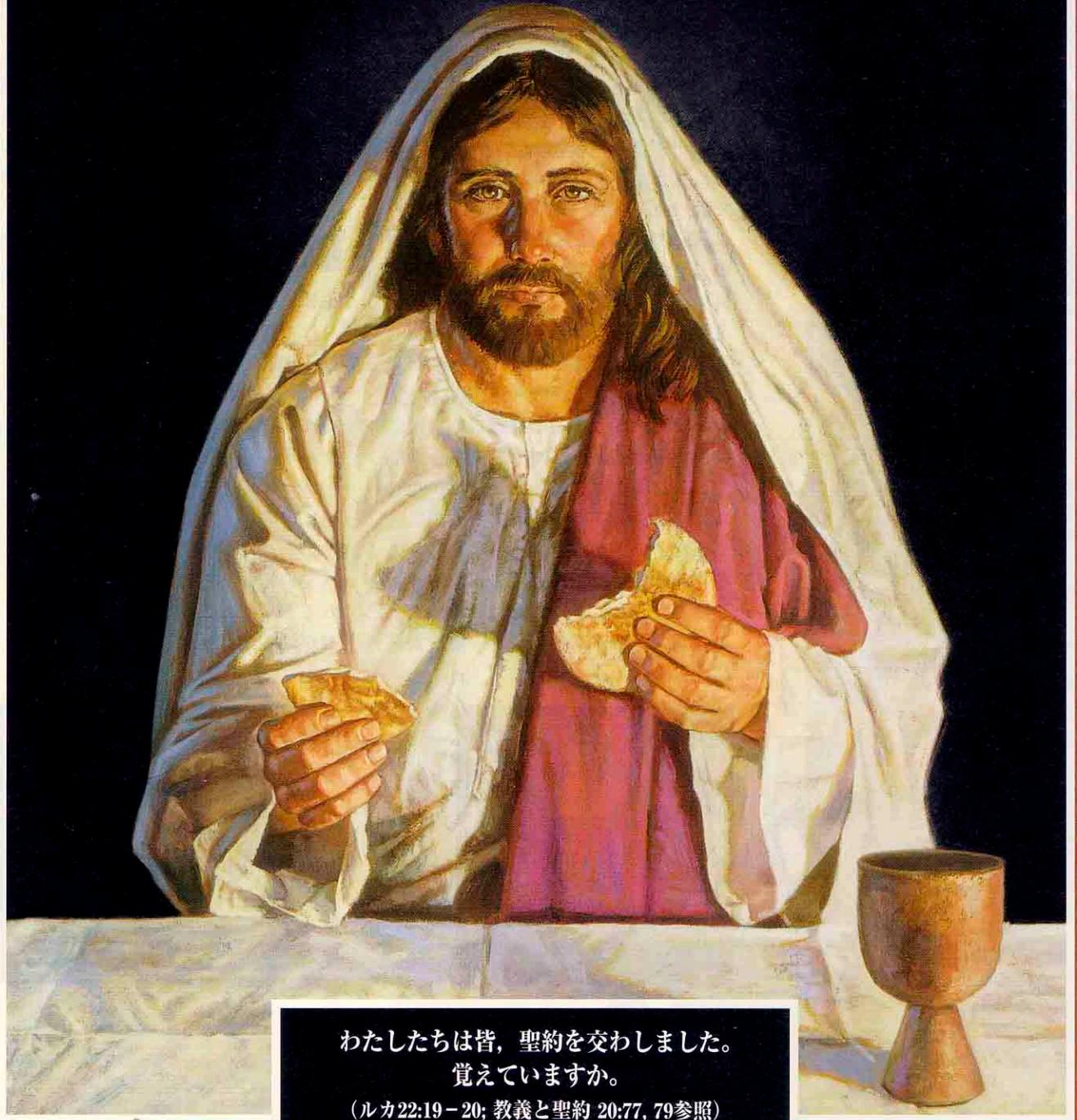
以前に花蓮地方部の部長であった陳松春兄弟チェンシュンチュンは、彼が1973年にバプテスマを受けて以来成し遂げてきたすばらしい成果を記した図表を作成しました。陳兄弟は中央に自分の名前と妻の名前を書き入れました。そして、教会に加わり、神権を受け、神殿のエンダウメントを受け、宣教師として奉仕し、人々を改宗に導き、神殿で結び固めを受けた大勢の親戚や友人の名前を次々に書き加えていきました。この図には代理によって儀式を行った死者の欄が特別に設けられています。陳兄弟の概算では、26年前の彼のバプテスマに端を発して一つのワードが組織されるに匹敵する改宗者が生まれています。

そのほか数え切れないほどの福音の種がまかれ、実を結ばせようとしています。自然の姿を描写して「麗しの島」と呼ばれている台湾は、年々霊的な麗しさをも加えていくことでしょう。□



モルモンメッセージ

いつも 主を覚えましょう



わたしたちは皆、聖約を交わしました。
覚えていますか。

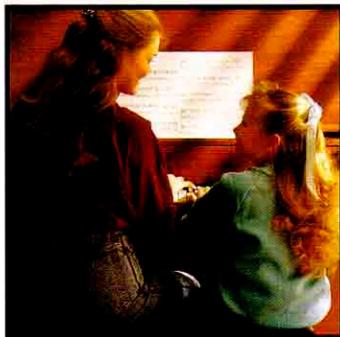
(ルカ22:19-20; 教義と聖約 20:77, 79参照)

才能を見いだし、 伸ばす

だれかに贈り物をして、それを気に留めてもらえなかったり、使ってもらえなかったりしたことはありませんか。わたしたちが主から頂いた才能を無視すると、主も同じようにお感じになるのでは、と思ったことはありませんか？

『新約聖書』に記されたタラントのたとえは、「わたしたちが才能を見いだして伸ばしそれを使うよう、主は期待されている」と教えています（マタイ25：14-29参照）。主から頂いた^{たままの}賜物をおろそかにすれば、わたしたちがもともと持っていた賜物も取り去られてしまうでしょう。しかし、与えられた才能を伸ばすなら、主はさらに多くのものを祝福してくださいます。

才能を見つけ、伸ばすのに遅すぎることとは決してありません。そのため助けとなるアイデアを、幾つか紹介しましょう。



写真/クレーグ・ダイヤモンド



写真/スティーブ・バンダーソン

生まれ持った才能を見つける助けとなり、 靈感を与えてくれるものの中から探す

🍎 あなたに本来備わっている賜物についてどのように書かれているか、祝福師の祝福を読む。

🍎 家族の歴史を調べ、あなたの先祖にどのような才能があったかを探す。あなたにどのような能力が備わっているかを知るヒントを与えてくれるかもしれません。先祖から受け継がれる才能もあるからです。

すでに持っている才能や能力を完成させる時間を取る

🍎 「家庭の夕べ」で歌えるように、弟や妹に歌を教える。

🍎 兄弟や近所の子供たちと一緒に絵をかいいたり、ぬり絵をしたりする。

🍎 地域や教会のスポーツチームでレフリーやコーチのボランティアをする。

🍎 詩や記事、短編小説を書く。



写真/ロバート・ケーシー

恐れず新しいことに挑戦する

🍎 若い男性，若い女性，あるいはスカウトプログラムの活動の中で，普段選ぶプロジェクトやあなたの好みとは異なるものを選ぶ。

🍎 図書館や友達から料理の本を借りて，家族のために食事を用意する。

🍎 スピーチ，ドラマ，料理，フラワーアレンジメント，車両整備，水泳，ダイビングなどの講座を受講する。

🍎 地域のスポーツチームに加わったり，新しくチームを作ったりする。

🍎 地域や学校の合唱団，演劇のオーディションを受ける。



聖文で教えられている原則に従って勉強し生活する

🍎 慈愛，無私^{ゆる}の心，赦しなど，救い主が持っておられる特質について読む。わたしたちにはいつの日か主のようになる能力が備わっているので，熱心にキリストのような特質を伸ばすように努めなければなりません。

🍎 エテル書第12章27節で約束されているように，主があなたの弱点を強さに変えてくださるように祈る。

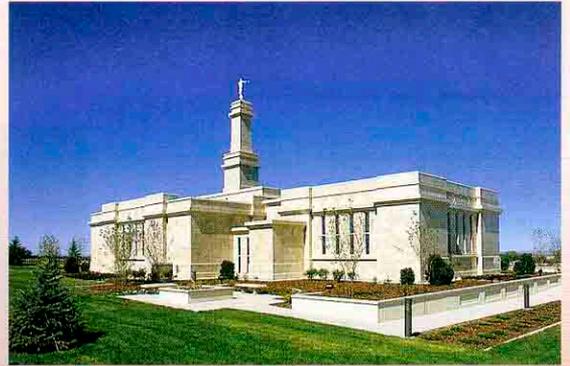
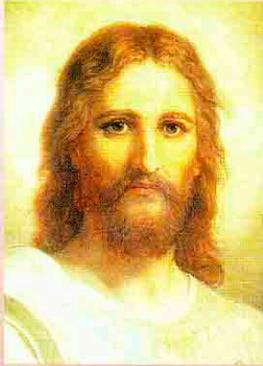
🍎 正直，善良，親切である，という才能を過小評価しない。□



写真/ウェルデン・アンダーセン



神殿の祝福——この



世と永遠にわたって



ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、教会が30以上の小規模の神殿を早急に建設する意向であることを発表しました。それに伴い、教会は「過去に例のない」規模の神殿建設事業に着手しました。ヒンクレー大管長の語った、「今世紀の最後までに〔神殿数が合計で〕100」に到達する事業によって、世界中の聖徒たちが福音の「最高の祝福」を享受できるようになります（「福音の『最高の祝福』をもたらす新しい神殿」『聖徒の道』1998年7月号、95-96参照）。

以下の声明は、大管長会と十二使徒定員会の会員によるもので、神殿と神殿事業の重要性について説明しています。



ゴードン・B・ヒンクレー大管長——「今の時代は、主の御業の中にあって非常に大切な時期です。わたしたちは当教会の歴史の中で、また神がその民に導きの手を差し伸べてこられた歴史の中で、最も意義深く重要な時代に生きています。わたしたちはかつてなかったほど次々に神殿が建てられる時代に生きています。」（「神殿は主の宮」『聖徒の道』1986年1月号、55）

「末日聖徒イエス・キリスト教会によって建てられた神殿はすべて、教会員の証を表すものなのです。その証とは、わたしたちの永遠の父なる神が生きておられ、あらゆる世代にわたる神の息子、娘たちを祝福するための計画を立てておられたこと、……神の愛子、キリストであるイエスは世の救い主、贖い主であられること、主の贖いの犠牲により、福音を受け入れ実践する人々に永遠の命をもたらす計画の実現が可能となったということです。大小、新旧を問わずすべての神殿は、この世があるのと同じように死後の命が真実で確かなものであるというわたしたちの証を表しています。……これらの神聖な宮の中で執り行われる儀式の効力は永遠に及ぶものです。」（「平和な神の宮」『聖徒の道』1993年7月号、76）

神権の鍵を授かる場所



ボイド・K・パッカー十二使徒定員会会長代理——「教会の霊的に深い事柄に関する教え、特に神殿で教えられる教えの多くは、象徴的なものです。この『鍵』という言葉

にしても、象徴的な意味で用いられています。また、神権の権能の鍵という言葉も、人が地上で神の御名により行動するために、幕のかなたから死すべき人に与えられた力の範囲を表しています。『結び固める』『鍵』『神権』という言葉は、互いに密接に関連のある言葉です。

……このもろもろの鍵は、大管長、すなわち預言者、聖見者、啓示者が保持します。この神聖な結び固めの力が、今この教会にあります。この権能の意味を理解している人にとって、この権能ほど神聖なものはありません。また、この権能ほど大切なものとして保持されてきたものはほかにありません。」（「聖なる宮」『聖徒の道』1992年6月号、21-22）

聖約を交わす場所



ヘンリー・B・アイリング長老——「末日聖徒は聖約の民です。バプテスマを受けた日から、人生における幾つかの通過点を通る度に、わたしたちは神に約束し、神もわたしたちと約束されます。神は正しい権能を持つ僕たちを通して与えられた約束を必ず守ってください。しかし、神と約束を交わしてそれを守るかどうかはわたしたちの人生における試みであり、重大な意味を持っています。」（「神の証人」『聖徒の道』1997年1月号、35）



L・トム・ペリー長老——「4つの福音の原則を受け入れ、その教えに添ってある期間ふさわしい生活をしますと、主の宮に入り、エンダウメントを受けることが許されます。……

個人のエンダウメントを受けた人は、^{ほんりよ}伴侶とともに、この世から永遠にわたる結婚の結び固めを受けることができます。……

主は何とすばらしい教えをその子らにお授けになったのでしょうか。祖父、母、両親、子供、そして孫が、永遠の家族の一員としてともに住まうことができます。」（「さあ、われわれは神の家へ行こう」『聖徒の道』1982年7月号、100-101）



ロバート・D・ヘイルズ長老——「永遠のきずなは、神殿で結び固めの聖約を交わした結果として、自然に生じるものではありません。この生涯での行いの結果が、わたしたちの永遠の行く末を決めるのです。天父が備えてくださった結び固めの祝福を受けるには、戒めを守り、家族が永遠に一緒に暮らしたいと願えるような方法で行動しなければなりません。この地上で得ている現在の家族関係は確かに大切です。しかしそれは、この地上で何世代も続き、またとこしえにわたって継続する家族の影響を考えると、なおさら大切です。」（「永遠の家族」『聖徒の道』1997年1月号、73）

……預言者ジョセフ・スミスは、自分の救いのために必要なすべてのことは、亡くなった愛する人々の救いのためにも行われなければならないと述べています。なぜなら、救いの条件はだれに対しても同じだからです。

……主の宮で神聖な聖約を交わして守ることは、……この世におけるイエス・キリストの福音の究極の霊的食事であり、永遠の報いをもたらすものです。」（「主の食卓に着く」『聖徒の道』1996年7月号、94）

神聖な奉仕を行う場所



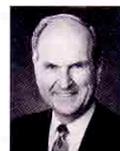
トーマス・S・モンソン第一副管長——

「先祖を探求するわたしたちに、この世の障害が大きく立ちばかり、とても乗り越えられそうもないと覚えることがあります。しかし往々にして、奇跡的な方法で山積する問題が取り除かれ、先が見えてくるものです。

……アダムのの時代から時の中間に至るまで、神殿の儀式は生きています。死者のための儀式は、救い主の贖いの御業が終わり、次の世で御業が始められるまで待たなければなりません。[教義と聖約138：10-37参照]」（「エリヤの霊」『聖徒の道』1995年1月号、92-93）

善を行うことに疲れ果ててはなりません。この神聖な業に対して小さなあるいは無意味な貢献しかできないと覚えることがあったら、『人の価値が神の目に大いなるものであること』を思い起こしてください〔教義と聖約18：10〕。……変わらぬ信仰をもって神の業を行ってれば、必要とする祝福を受ける備えができるでしょう。」（「障害と信仰と奇跡」『聖徒の道』1996年6月号、20-21）

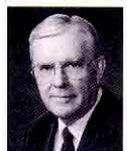
ラッセル・M・ネルソン長老——「イエスは十字架上で亡くなられた後、霊界で福音を説かれ、福音について聞く機会を得ずしてこの世を去った人々の間で、伝道活動を開始されました〔1ペテロ4-6；教義と聖約138：10-37参照〕。こうした人々のためにも、バプテスマは当然なくてはならないものです。



……アダムのの時代から時の中間に至るまで、神殿の儀式は生きています。死者のための儀式は、救い主の贖いの御業が終わり、次の世で御業が始められるまで待たなければなりません。[教義と聖約138：10-37参照]」（「エリヤの霊」『聖徒の道』1995年1月号、92-93）



ジェフリー・R・ホランド長老——「わたしたちには、すべての約束の中で最も平安をもたらす約束が与えられています。その約束とは、『義にかなった生活をするときにわたしたちを一つに結びつける力は、わたしたちを引き離そうとするいかなる力にも勝る』というものです。この力こそが聖約の力、神権の儀式の力であり、イエス・キリストの福音の力です。」



M・ラッセル・バラード長老——「教会のすべての成人会員〔は〕神殿の儀式を受けるにふさわしくなるために努力すべきです。会員たちは自分の先祖を探求し、彼らのために聖なる神殿の儀式を行うのです。」



リチャード・G・スコット長老——「あなたの助けを必要としている人々に祝福をもたらすように決心してください。そうすれば、あなた自身の生活にも豊かな恵みがもたらされるでしょう。」

……わたしは主が祝福してくださることを約束します。これは主の業であり、あなたが祈りをもって努力すれば、先祖は必ず儀式を受け、聖約を交わすことができるようになるからです。

……救い主によって委任された権能を用いて、地上で聖なる神殿の業を行うよう努力するならば、わたしたちの先祖は救いの儀式を受け、永遠の幸福を享受できるようになるのです。」（「贖罪——愛の収穫」『聖徒の道』1991年1月号、7）



ダリン・H・オークス長老——「神殿活動また家族歴史活動としてなすべきことはたくさんあります。わたしたちは教会員に対し、教会の召しを考慮に入れ、各自の状況の中で何ができるかを祈りによって選択…

…するよう勧めなければなりません。……

わたしたちは親族間の組織を作り、家族の計画を立てなければなりません。また心を奮い立たせ、祈りをささげ、教義を学んで、子供たちにも教えなければなりません。」（「賢く秩序正しく」『聖徒の道』1989年12月号、23）

個人の祝福を受ける場所



ジェームズ・E・ファウスト第二副管長——「わたしたちは癒しの賜物があることを信じています。わたしは、この賜物は肉体と霊の両方の癒しを意味していると思います。御霊は魂に平安を告げます。……

主はこの癒しの力を得るためのたくさんの方法を与えてくださいました。わたしは、主が神殿の業を回復してくださったことに感謝しています。……神殿は、この世の多くの煩い事から一時的に逃れることのできる聖所です。神殿は平安と静寂の場所です。そしてこの聖所で主は『心の打ち砕かれた者をいやし、その傷を包まれる』のです（詩篇147:3）。『霊的な癒し』『聖徒の道』1992年7月号、7）



デビッド・B・ヘイト長老——「神殿は主選ばれた者が天よりの力を授けられる場所です。その力を受けると、与えられている賜物や能力をさらに効果的に、また大いなる英知をもって用いることができるよう

になり、自分や愛する人々の人生において天父の目的を達成できるようになるのです。……

ふさわしい状態で定期的に神殿に参入してください。そうすれば、この世を去った人々に祝福をもたらすだけでなく、約束された個人に与えられる啓示を余すところなく受けることができます。そしてその啓示は、力と知識、光、美、天よりの真理をもって皆さんの生涯を祝福し、皆さんと皆さんの子孫を永遠の命へと導いてくれるでしょう。」（「主の家に来れ」『聖徒の道』1992年7月号、17-18）



ジョセフ・B・ワースリン長老——「主の宮では世俗の喧噪から逃れ、永遠の観点から人生を見詰め直すことができます。また、神殿での教えや聖約を深く考えることにより、救いの計画や天父の限りない愛をより

はっきりと理解できるようになります。わたしたちと永遠の父なる神と御子イエス・キリストとの関係についても、思いを巡らすことができます。……

定期的に神殿活動を行うことによってわたしたちは霊的に強められます。神殿は日常生活のよりどころであり、導き、守り、安全、平安、啓示の源となってくれます。」（「善を求める」『聖徒の道』1992年7月号、94-95）



ニール・A・マックスウェル長老——「聖約を守れば、わたしたちは霊的に……守られるのです。」（「わたしが勝利を得たと同様に勝利を得なさい」『聖徒の道』1987年7月号、78）

「忠実な聖徒たちに風や嵐を送ってみましょう。彼らは世に打ち勝ち、負けることはありません。ほかの人がよろめいても、決してよろめかないでしょう。ほかの人はつぶやき、疑いを抱いても、聖徒はそうしないでしょう。だれかが神殿をあざけっても、主の家の業を行うために静かに神殿に集うでしょう。」（「この世に輝いている」『聖徒の道』1983年7月号、19）□

参 到 期 定 的 殿 神



入するタイプの人



タマラ・リーサム・ベイリー

絵/ディリオン・マーシュ

11 歳のときに下した決断が、残りの生涯に影響を与えるなどどだれが予測できたでしょうか。

当時、わたしの家族はほとんど教会に行っていませんでした。ただ、わたしとわたしの弟の二人は初等協会に集っていました。初等協会の教師が神殿についてのレッスンの中でこう語ってくれました。「わたしは神殿で結婚するんだって、今決めなくてはなりません。そのうちいつかじゃなくて、今日決めることです。」わたしはそのとき初めて御霊に感動したのを覚えています。そして、教師に言われたとおり、そのときすぐに、自分の目標は神殿で結婚することだと決めたのです。

数年間、特に変わったことはありませんでした。教会にはほとんど行きませんでした。ただ、頭の中では違うことを考えていました。わたしはいつか神殿に行くのだと信じていたのです。

結果的には、その一つの決定がほかの決定にも影響し始めました。14歳のとき、神殿に行こうと計画している人はセミナリーを受ける必要があると考えました。その結果、わたしはセミナリーに定期的に出席するタイプの人になったのです。

セミナリーの友人たちは、若い女性の活動に参加していました。ですから、わたしも参加するようになりました。神殿での祝福を受けようと計画してい

る人は、若い女性確認証を獲得することで、助けが得られるはずだと考えました。教会での活動を始めたのが遅かったわたしにとって、それは容易なことではありませんでしたが、特別にゴールを作って友人たちに追いつけるよう、すばらしい教師が手伝ってくれました。

わたしの目標の一つは、1か月間教会の集会に100パーセント出席することでした。毎週欠かすことなく両親に教会に連れて行ってもらうのは大変なことでした。時には、一人だけで座らなくてもいいように、妹をなだめすかして教会と一緒に行ってもらったこともありました。この目標を達成する過程で、わたしはいろいろな助けを受けて教会に定期的に出席するタイプの人になることができました。

わたしはたくさん間違いを犯しました。落胆して、神殿に行くというのとはかなわぬ夢ではないかと思ったこともあります。でも愛に満ちた監督がわたしを導き、悔い改めについて教えてくれました。また、最後まで耐え忍ぶ決意ができるよう助けてくれました。監督のおかげで、たとえどんなにつらくとも、神殿にたどり着くという目標は、あらゆる努力、あらゆる犠牲に値する目標なのだということをいつも心に留めることができたのです。

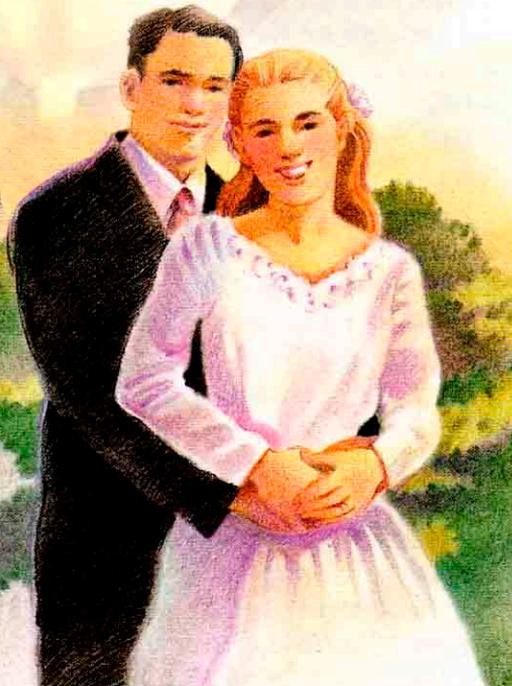
16歳になると、決心することがもっと増えました。ある日曜学校の教師が

セミナリーに行くこと、教会に行くこと、ふさわしい人とつきあうこと、このような決心のおかげでわたしは自分の望む場所に導かれたのです。





このように言いました。「皆さんはいつか、デートをする相手のだれかと結婚します。ですから、必ず神殿で結婚できる人とデートをするようにしてください。」わたしはその忠告について真剣に考え、一つ一つの友人関係についてこう自問しました。「この男性と一緒に神殿に参入できるような人かしら。」自分の判断が間違っていることもありました。それでも神殿で結婚できるふさわしい人を見いだすまで自分の信念を曲げませんでした。



神殿に定期的に参入するタイプの人になるのだとまず初めに決心していなかったら、決して神殿に行くという夢は達成できなかったでしょう。

両親はわたしがどのような決断を下しても、わたしを支持してくれました。若い女性確認証を頂いた日、父と母は聖餐会でわたしとともに壇上に立ってくれました。セミナーを卒業したときにも同席してくれました。祝福師の祝福を受けたときにも、両親の姿がそ

こにありました。リックスカレッジに通うようになったときにも、わたしを援助してくれました。

わたしが神殿のドアに向かって歩いて行ったその日にも、父と母は一緒にいてくれました。神殿に入り、それまで学び、心待ちにしていた神殿の祝福を受けるところまで、ついにたどり着いたのです。天使モロナイの像が、神殿の尖塔の上で早朝の日差しを受けてまばゆく光り輝き、まるでわたしの喜びを全世界に宣べ伝えているようでした。わたしは両親にキスをして、神殿に入りました。

もしわたしがどこで結婚するか前もって決心していなかったとしたら、両親を外で待たせておいて神殿の中で結婚するのはとても難しかっただろうと思います。福音、神殿の重要性、永遠の聖約を交わす必要性について、十分な強い証を持っていなかったと思います。またいろいろな決定を下す機会すらなかったかもしれません。指導者、監督、友人が助けてくれました。家族が支持してくれました。でも、もしわたしが神殿で結婚すると最初に決心していなかったとしたら、決して達成できなかったと思います。

神殿でわたしは、わたしに対する天の御父の計画についてもっとよく知ることができました。同時に、自分はまだ自分の目標をまったく達成していないのだと感じました。わたしは最初の一歩を踏み出したばかりだったので。ですからすぐにその場で、どんなにつらくとも神殿の聖約を守ると決心しました。そして、いつの日か天の御父のもとに戻るとともに住むのだという決心をしました。□



「変貌」カール・ヘンリック・ブロック画

「イエスはペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変わり、その顔は日のように輝いた。すると、見よ、モーセとエリヤが彼らに現れて、イエスと語り合っていた。」(マタイ17:1-3)
デンマーク、ヒルレレド州フレデリックスボルにある国立歴史美術館の厚意により掲載。

愛

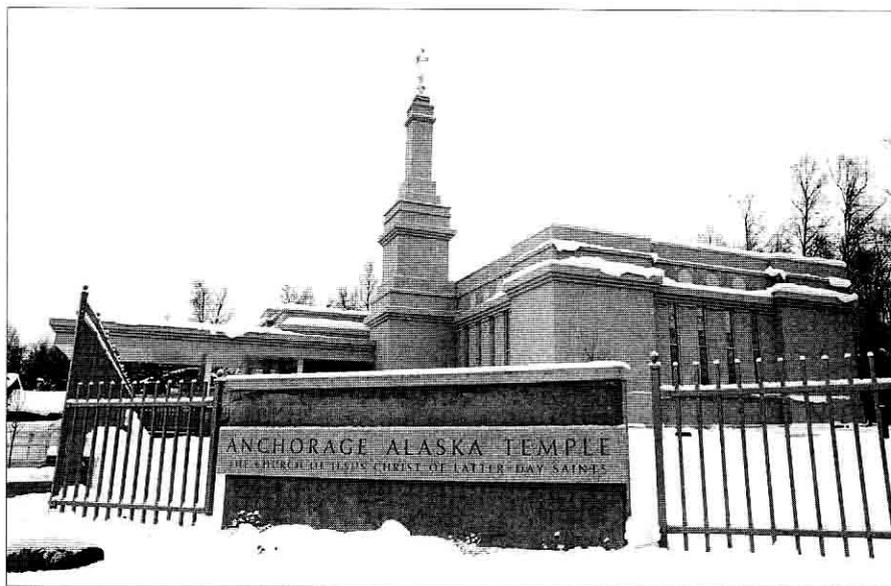
「愛」という漢字は、台湾の聖徒が主と、
お互いに対して、そしてイエス・キリストの福音に対して
抱いている思いを象徴している。
本誌「台湾——信仰をはぐくんだ40年間」
28ページ参照。



2902999853002
99985 300

ヒンクレー大管長、アラスカ神殿を奉献する

ジュリー・A・ドックステーター



新しいアラスカ州アンカレジ神殿は、アラスカに住む約1万8,000人の教会員のために稼働することになる。
写真/レイ・ヘーフエンの厚意により掲載。

チャーチ・ニュース

1999年1月9日、厳寒の、薄暗い冬の朝、教会における最北端の神殿、アラスカ州アンカレジ神殿が、ゴードン・B・ヒンクレー大管長により奉献された。

冬のアンカレジに典型的な寒く日照時間の短い日にもかかわらず、6,291人の教会員が54番目に稼働することになる神殿の7回にわたる奉献式に出席した。この新しい神殿は、小規模神殿の建設計画が1997年10月にゴードン・B・ヒンクレー大管長により発表されて以来完成を見た2番目の小規模神殿である。最初の小規模神殿は、ユタ州モンティセロに建設された。

石油のパイプライン、金、犬ぞりレース、あざやかな北国の光で知られる地に住むアラスカの教会員は、この瞬間のために働き、祈ってきた。この新しい神殿の完成を見るまで、アラスカの教会員は3,000キロにも及ぶ距離を旅して、ワシントン州シアトル神殿かアルバータ神殿に参入しなければならなかった。

1,200人を超える教会員が、最初の奉献の儀式に出席した。その多くが神殿に隣接するステー

クセンターに入るために長い列を成して待った。気温は摂氏マイナス8度にまで下がり、長さ240センチにもなるつららが集会所の軒先から垂れ下がっていた。終日曇り空だったにもかかわらず、霊的なぬくもりと静かで敬虔な雰囲気^{けいけん}が薄暗い朝を包んでいた。約314人の会員が神殿内のいすに座って最初の儀式に参加し、ほかの923人はステーキセンター内で内部回線のテレビ画面を通じて式の次第を見守った。

奉献式は午前8時、まず定礎式から始まった。灰色と白色のかこう岩でできた大建造物の南東の角に位置する隅石に近い場所は、ごく少数の人だけを収容できる小さな屋根付きの暖い建物の中にあった。

ヒンクレー大管長がその建物の中に入ると、カム・ボーマンが指揮するアラスカ・アンカレジステーキの21人から成る聖歌隊が賛美歌“Holy Temples on Mount Zion”（英語賛美歌289番）を歌い大管長を歓迎した。

アラスカへ大管長に同伴したのは、マージョリー夫人、十二使徒定員会会員のロバート・D・

ヘイルズ長老とその妻メアリー夫人、七十人のF・メルビン・ハモンド長老とその妻ボニー夫人であった。ハモンド長老は北アメリカ北西地域会長会会長として働いている。

聖歌隊の歌う賛美歌の音の余韻が消えるのを待って、ヒンクレー大管長は感嘆の声を上げた。「すばらしい！ほんとうにありがとう。」それから、隅石の方に向くと言った。「では、始めましょう。」大管長はこてを持ち上げ、モルタルに少し浸し、隅石を固定した。「どうですか、でき具合は」と大管長は尋ねた。

次に、大管長は、ヘイルズ長老、ハモンド長老、新たに召された神殿長会の面々を含んだ数人の会員にもモルタ

ルを塗るよう促した。3人の地元の初等協会年齢の子供たち、アマンダ・ベントリー、ジェフ・ディー、カイル・カーンが近くに立っていた。ヒンクレー大管長はこの子供たちに手招きをし、子供たちが一人一人交替でこてを使うのを手伝った。子供たちがモルタルを塗り終わると、続けて聖歌隊員が一人ずつ交代で行った。そして奉獻のためにヒンクレー大管長やほかの人々が神殿に入ると、聖歌隊が一斉に聖歌“Let the Mountains Shout for Joy”を歌いだした。

1月9日に奉獻の儀式が3回執り行われ、翌日には4回執り行われた。

ハモンド長老は奉獻式について次のように語った。「わたしはこれまでほ

んとうにたくさんの集会和神殿の奉獻式に何度か出席したことがありますが、今回の奉獻式ほど愛とぬくもりに満たされた強い御霊を感じ、聖霊が人々のうえに注がれた奉獻式はありませんでした。感動で胸を躍らせた出席者は、セッションの間涙を流し、神殿を授かったことに心からの喜びを感じていました。確かにこの神殿は小さな神殿ですが、わたしはこれほど美しい神殿を見たことはありません。福音と神権の儀式がすべてこの小さくとも美しい神殿で執行されるのです。大規模で広い神殿である必要はありません。」□

『チャーチ・ニュース』(Church News)の厚意により、1999年1月16日付けの記事より掲載。

ハリケーン・ミッチの被災者、クリスマスの贈り物を送られる

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、1998年の12月6日に行われた大管長会主催のクリスマスディナーで、ホンジュラスに住む2歳の少女がハリケーン・ミッチのために父親を亡くして孤児となるまでの経過について語った。「わたしはこのクリスマスの季節に、被害を受けたホンジュラスの人々の間では恐らく贈り物を交換し合うことはできないでしょうが、この少女が、もしほんの少しキャンデーのような何か甘くておいしいものをプレゼントにもらったら、どんなにすばらしいだろうかと思います。」ヒンクレー大管長は、次のように語った。「わたしはぜひそのようなことが現実に起こることを期待しています。恐らく、ホンジュラスのラ・リマに住むこの少女にとって、ほんの小さな贈り物でも十分なプレゼントとなることでしょう。」

ヒンクレー大管長の話の結果、およそ1,800キロ分のキャンデー、15トン分のおもちゃや衣類がホンジュラスやニカラグアの子供たちに船便で届けられた。1998年12月に教会が準備した船荷の中には、学校用備品、清掃用具および建築用資材、紙おむつ、それ以外の緊急物資なども入っていた。ソルトレ

ーク・シティーにある教会の人的援助センターで集荷され、箱詰めされたクリスマスの贈り物は、企業や政府の諸機関、ワードやステーク、あるいは別の宗教に属している人々から提供されたものである。

「わたしたちが望むのは、これらの物資が助けを必要としている多くの人々のもとに届けられることです」と教会の人的援助センター所長であるゲリー・R・フレックは述べている。惜しめない寄付が、数多くの団体から寄せられた。ヒンクレー大管長のお話に対して即座に反応があったのである。

七十人であり中央アメリカ地域会長会会長であるウィリアム・R・ブラッ



クリスマスの季節に、およそ15トン分のおもちゃや衣類が中央アメリカの子供たちに船で運ばれた。

写真/ドン・グレーストン。「デゼレトニュース」(Deseret News)の厚意により掲載。

ドフォード長老は、継続して行われる援助努力に関して次のように語った。「教会員が関心を向けられなかったために不幸にも病気に感染したという例は、これまで世界中のどこにもないと思います。依然として、結膜炎、水虫、

蚊が伝染媒体となるデング熱、マラリアといった病気が蔓延する不安は残っ

ています。教会員の中に、健康を害する人がいますが、深刻なケースはまっ

たくないとホンジュラスのあるステーク会長は報告しています。」□

日本の地域幹部

ア ジア北地域の地域幹部七十人である柏倉仁長老は次のように語った。「教会に集い始めて間もないころ、安息日に説教壇を飾る花がないと気づき、また、花が飾られているときは心が慰められると感じました。」そのような気持ちに促され、柏倉長老は生け花を習い始め、現在も趣味として楽しんでいる。しかし何よりも柏倉長老の心を慰めてきたものは、イエス・キリストの福音である。

1960年、大学生であった仁青年は、心を悩ますような疑問を多く抱えていた。日米関係を憂慮していたほかの学生とともに、彼は旗を掲げて通りをデモ行進した。またそのころ、世界の政治体制や宗教についての研究を始めた。ある日、いつものように大学の図書館へ向いながら、預言者ジョセフ・スミスに関する書物を読んだ。否定的な内容が大半を占めていながらも、ジョセフ・スミスが古代のイエス・キリストの教会を回復したことについて述べられていた。その記述に強く興味を引かれ、教会に集うようになった。柏倉長老は次のように述べた。「宣教師による証と愛の行いに導かれ、聖霊の導きを通して証を得るに至ったのです。」



教会に入ってから、主の王国を築くうえで助けとなる妻を得たいと望んだ。1964年に、今田朝子姉妹と結婚。夫妻は6人の子供に恵まれている。柏倉長老は現在、技術関係の会社のデザイン・技術部長を務めている。

柏倉長老は次のように述べた。「常に祈るということは、信仰生活において簡単なことではありませんが、わたしはその大切さを心底から学んできました。心から祈るならば、忠実な心が養われます。そのような心が養われると、より深い愛がはぐくまれます。愛がはぐくまれば、周囲の人々に親切に接することができます。絶えず祈ると、教会員としてより良い生活が送れるようになるのです。」□

教会員から 教会本部へ宛てられる 通信・文書

大 管長会は、1998年9月24日付けで以下の手紙を発行し、全世界の聖餐会で読み上げるよう指示した。

「末日聖徒イエス・キリスト教会の会員数が絶え間なく増加しているという祝福を受けている中で、会員から教会本部にあてられた通信・文書や中央幹部への個人的な要請が処理能力を超え、中央幹部は本来の職務を遂行することが困難な状況に陥っています。わたしたちは会員の皆さんを愛しており、皆さんが中央幹部から援助を受けるのは不可能なことだと感じていただきたくありません。しかし、すべての事柄は知恵と秩序をもって行なわれる必要があります。」

世界的規模に発展するこの教会の会員が受ける祝福の一つに、監督/支部長やステーク会長/伝道部長/地方部長が任命されていて、それぞれの管理の職の下にある教会員が彼らから霊的な助言や指導を受けられるということが挙げられます。わたしたちはそうした地元の指導者に大きな信頼を寄せています。彼らは教会員の皆様を援助するうえで最も適した立場にいますので、彼らから指導を受けてくださるようお願いいたします。様々な悩みや問題を解決するうえで教会員と地元の指導者がともに祈り、話し合うことにより、双方が祝福を受けると信じています。」□

「分かち合いの時間のためのアイデア」 追加分 1999年5月

 以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』1999年5月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる、「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は、「フレンド」の2-3ページ「わたしにしたがってきなさい」を参照する。

1. 子供たちに「イエス・キリストの模範や教えに従うために、わたしたちにはどんなことができますか」と尋ねる。模範とは何かを話し合う。以下の聖句と歌を書いた細長い紙を用意する。バプテスマ——マタイ3：13-17/「バプテスマを受ける時」(『聖徒の道』1997年9月号、こどものページ、5)；聖文

学習——ルカ2:46-47 / 「いのりながらみ言葉読む時」(『子供の歌集』66) ; 親切——ルカ10:25-37 / 「自分から始めよう」(『子供の歌集』83) ; 両親を敬う——ヨハネ19:25-27 / 「家族は永遠に」(『子供の歌集』98 ; 『賛美歌』187番) ; 福音を教える——マタイ5-7章 / 「宣教師になりたいな」(『子供の歌集』90) ; 戒めを守る——マタイ7:21, 24-27 / 「かしこい人とおろか者」(『子供の歌集』132 ; 『聖徒の道』1997年6月号, こどものページ, 5) ; 祈り——マタイ7:7-8 / 「信じていのる」(『聖徒の道』1991年3月号, こどものページ, 5) ; 人々に仕える——マタイ25:40 / 「友達」(『子供の歌集』78 ; 『聖徒の道』1996年6月号, こどものページ, 4-5) ; 人々を愛する——ヨハネ13:34 / 「共に愛し合え」(『子供の歌集』74 ; 『賛美歌』192番)。紙を入れ物に入れ, 各クラスにその中から1枚ずつ選ばせ, 書かれている聖句を読ませる。各クラスの代表一人に, 聖句に書かれている出来事について話させる。別の代表者に, 同じような状況にあったら, 自分ならどうするか, またイエス・キリストは自分にどうしてほしいと思われるかを考えて話させる。その後, クラスごとに歌をハミングして, ほかに子供たちには, それが何の歌か分かったら歌詞をつけて歌わせる。すべてのクラスに順番が回ったら, 全員で「イエス様のように」(『子供の歌集』40 ; 『聖徒の道』1990年4月号, こどものページ, 6-7) を歌う。幼い子供たちにも, わたしたちは救い主の模範に従いたいと思っていることが分かるように助ける。『初等協会2』の第15課「足跡の活動」を参照する。教会付属図書館や『福音の視覚資料セット』の中から, 上記の出来事が描かれた絵を掲示し, それぞれの絵の前に足跡を一組ずつ置く。子供たちを絵の前に連れて行き, その絵にはどんな出来事が描かれているかを言わせて, 「イエス様に倣って, 今日, どんなことができますか」と尋ねる。それからその絵に合った歌を歌うのに合わせて, 子供たちに足跡の上に順番に立たせる。最後にイ

エス・キリストの絵の前で「イエス様のように」を歌う。

2. 箱を3つ用意し, それぞれに「平和をつくり出す人」「親切」「愛し, 仕える」というラベルをはる。各箱にそれぞれの地域や, 子供たちの年齢に適した状況を紙に書いて入れる(後記の例を参照)。イエス・キリストのされたことすべてを行うことはできないが, 彼のように親切になり, 平和をつくり出す人になり, 人々を愛し, 人々に仕えることはできると説明する。一人の子供に箱を一つ選ばせ, その中から1枚の紙を取り出し読ませる。「あなただったらどうしますか」あるいは「もしこんなことがあったら, みんなにどうしてほしいですか」と尋ねる。状況例——「平和をつくり出す人」の箱——あなたがテレビで映画を見ていたら, お兄ちゃんが何も言わずに, チャンネルを変えてしまいました。お菓子が一つだけ残っていて, あなたは宿題が終わったらすぐに食べようと思っています。でもそれを取りに行くと, 妹が取って食べてしまいました。あなたが算数の問題を解いていてちょっとした間違いをしたとき, 友達に笑われて傷つきました。「親切」の箱——あなたの悪口を言ったことのある男の子と二人でレポートを書くことになりました。あなたはその内容を分かっていますが, その子は分かっています。あなたはパーティーをすることにしていて, クラスのみんなを呼ぶつもりです。でも, 新しく転校して来た女の子のことをよく知っている人はだれもいないので, あまり呼びたくありません。クラスの女の子が眼鏡をかけていて, ほかに子供たちはそのことをからかいます。「愛し, 仕える」の箱——初等協会の活動の日, 先生が車から赤ちゃんと小さな子供を降ろして, 教会に連れて入ろうとしているのを見ました。お母さんが夕飯の用意をしています, 小さい妹が外で遊びたいとお母さんに何度もせがんでいます。あなたの友達が手術を受けて, 1か月学校に来られません。放課後, 一人ずつなら訪問してもいいことになっています。あなたは放課後,

いつもは友達と遊びます。1998年4月の総大会でジェームズ・E・ファウス卜副管長が話した期末試験の話聞かせる(「神よ, どうか, わたしを探って, わが心を知ってください」『聖徒の道』1998年7月号, 19-20参照)。「われに來よ」(『賛美歌』66番)を歌う。

3. 人々に仕えるとき, キリストの模範に従えることを子供たちに話す。ワード/支部の指導者(監督/支部長, 扶助協会会長, 熱心なホームティーチャーなど)3人の子供のときの写真を借りておく。それぞれの人について, 子供たちがだれかを当ててまでヒントを出す。(例——彼はわたしたちが正しいことができるように助けてくれます。わたしたちは彼に^{しやうぶ}の一分の一を渡します。彼女は病気の人を見舞います。姉妹たちが人々に仕えることを学べるように助けます。彼は家族に問題があるときに助けてくれます。)子供たちが当てられたら, その人に部屋に入って来てもらう。この指導者は働くことや人々に仕えることをどのように学んだか, また主に仕えることをいつ, どのように学んだかを話す(できれば, 若いころのことを話す)。彼らは指導者としてわたしたちに仕えてくれていると同時に, 主にも仕えていることを説明する。彼らは天父とイエス・キリストと, ワード/支部の人々のために愛を示している。タイマーを1分にセットして, 子供たちが家や学校や教会でどのように人々に仕えられるかを考えつだけ言わせる。「うるわしき救い主」(『聖徒の道』1998年10月号, こどものページ, 4-5)を歌う。

4. このほかにイエス・キリストに従うことに関する資料として, 「お手つだいをしたマイケル」(『リアホナ』1999年5月号, フレンド, 4-5) ; 「前の顔, 後の顔」(『リアホナ』1999年5月号, フレンド, 8-9) ; 「たいだのつみ」(『リアホナ』1999年5月号, フレンド, 13) ; 「イエス様が望んでおられること」(『聖徒の道』1998年11月号, こどものページ, 14-16) ; 「イエスはわたしに, 何をしよう」(『聖徒の道』1997年9月号, こどものページ, 8-9)を参照する。□

「いざ救いの日を楽しまん……」

喜びに包まれた日本福岡神殿の鉄入れ式



日本福岡神殿の最初の鉄入れ。写真左から福岡伝道部のマッカーサー部長、福岡ステーキの山下和彦会長、北村正隆地域監督、アジア北地域会長会のケンドリック会長、広島伝道部のシャムウェイ部長、沖縄ステーキの金城正之会長、宜野湾ステーキの安里吉隆会長、広島ステーキの桐林 潤会長、熊本ステーキの田代浩三会長。

日本で2番目の神殿となる日本福岡神殿の鉄入れ式が、去る3月20日、500人以上の出席者が見守る中で執り行われた。この日は、折からの低気圧の接近で朝から肌寒く雨模様であった。しかし関係者の心配をよそに、開会の1時間ほど前から天候は回復に向かい、喜びに顔を輝かせて会場に集まり始めた聖徒たちを暖かい春の日差しが照らした。

この日、鉄入れ式に招かれたのは、日本福岡神殿の地区に当たる広島ステーキ、広島伝道部、山口地方部、福岡ステーキ、福岡伝道部、長崎地方部、

熊本ステーキ、鹿児島地方部、沖縄那覇ステーキ、宜野湾ステーキ、沖縄軍人地方部、本州軍人地方部の神権指導者たちであった。これら神殿地区の教会員数は1万6,465人に上る。

午後1時、アジア北地域会長会会長であり七十人第一定員会でもあるL・ライオネル・ケンドリック長老の管理と司会の下に式典が始まった。まず来賓として、神殿用地に隣接する福岡市動物公園より植物園園長の山木良泰氏と、神殿を施工する大成建設株式会社より取締役九州支店長の氏原完典氏が紹介された。両氏にはケンドリック会

長より歓迎の意を込めて写真集『ミッション』が贈られた。また、地域監督の北村正隆兄弟や福岡ステーキの山下和彦会長、福岡伝道部のジェームス・A・マッカーサー部長らによって、奉献されるこの地の来歴や教会草創期



ケンドリック会長から『ミッション』を贈られる植物園園長の山木良泰氏。

の思い出が語られた。福岡ステーキで組織された総勢60余人の聖歌隊が、手話コーラスを交えた美しい歌声を響かせ、プログラムに彩りを添えた。

奉献の祈りに先立って、ケンドリック会長は「神殿がこの地域に建設されると、敵対者による悪の影響力は弱まり、この地域とこの地域に住む人々に祝福がもたらされます。……これらの祝福は、教会員のみならずこの神殿地区に住むすべての人々にも及びます」と語り、聖徒たちに心と体を清め備え



手話コーラスをする福岡ステーキの聖歌隊

をなすように勧告した。その後、ケン
ドリック会長の簡潔ながら力強い祈り
で神殿用地が主に奉獻された。そして
閉会の後、地域会長会の会長、地域監
督、伝道部長、ステーク会長によって
最初の鍬入れが行われた。続けて来賓
の方々、地元の神権指導者、開拓者た
ち、青少年、初等協会の子供たちが鍬
入れを行った。最後に「専任宣教師か
ら希望者を」と声がかかると歓声が響
き、福岡伝道部の若い宣教師たちが興
奮した面持ちで名乗りを上げた。

「西暦2000年は九州に初めて福音が伝
えられてからちょうど50年目に当たり
ます。その記念すべき50周年に福岡神
殿が完成することには特別な意味があ
ります」と福岡ステークの山下会長は
語る。1963年当時、この神殿用地には
古い日本旅館が建っていた。その建物は
教会によって買い上げられ、日本西
部伝道本部となる。旅館に住まわれて
いた石井 猛・千代子ご夫妻は宣教師より
福音を受け入れ、この地の開拓者とな
った。彼らは36年日の今日、万感の
思いでこの鍬入れ式の会場に席を列ね
ている。

マッカーサー部長は35年前、その古
い旅館を改造した福岡支部で専任宣教
師として働いた。九州で唯一の支部だ
った。日本全国でわずか29の支部しか
なかった時代である。当時、福岡支部
の支部長を務めていた吉沢敏郎兄弟と
奥様の吉沢ミドリ姉妹はこう語る。「主
の御手を強く感じます。日本の歴史を



地域の開拓者である吉沢ご夫妻。
吉沢敏郎兄弟は1957年、九州で初めて
メルキセデク神権を受け、支部長、
ステーク会長、伝道部長などを歴任した。

変えるような動きが、神様の力によって
起こってくる。福岡とか九州とかいうス
ケールを超えて、非常に大きなインパ
クトがここから広がっていくと感じてい
ます」「こんな日を迎えられるなんて信
じられない……夢みたいです」。

「若いころここで伝道したとき、この
土地は神殿が建つにふさわしいと感じ
ていました。ヒンクレー大管長が小規
模神殿建設を発表されたとき、わたし
は福岡にすぐ建つのではないかと感じ
ました。」マッカーサー部長はこう述べ、
また「日本人は先祖に対してよく関心
を持っています。わたしたちが神殿で
先祖を大切にしているのを目にする
とき、人々がもっと教会に関心を持ち改
宗するようになると思います」と伝道
に対するビジョンを語った。

神殿建設が予定されている福岡市の
人口は全国第8位の約124万7,000人、
九州で最大規模の都市である。この神殿
は、博多駅から車で約20分という市内

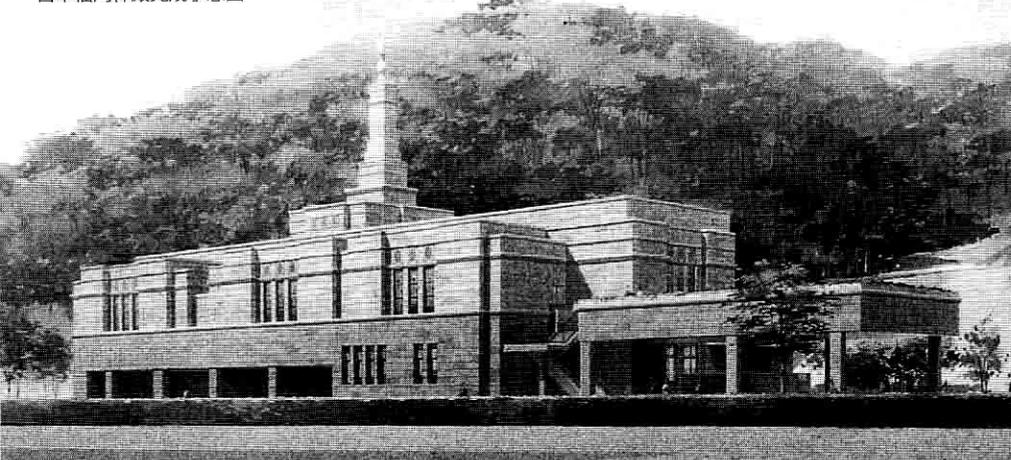
中心部に位置しながらも、背後に福岡
市動植物公園の森が広がる閑静な地域
に建設される。神殿は美しい森の斜面
に向かって建ち、参入者は山側に向け
られた2階部分の正面玄関から入ること
になる。地上高24メートル2階建て、シ
ンボルタワーの部分のみで13メートル
あり、尖塔の天使モロナイ像は真東の
方角を向く。日の栄えの部屋、38人収
容のエンダウメントの部屋、2つの結び
固めの部屋、またバプテスマフォント、
男女それぞれ78人収容のロッカール
ームなどを備える。2階と1階合わせて
少なくとも35台分の駐車場が設けられ、
1階部分には福岡伝道本部事務所と伝道
部長住宅、および神殿長宿泊施設と臨
時の宣教師宿舎なども併設される。竣
工予定は2000年の1月31日である。



神殿の完成模型を前に説明する
建築家の守谷敏二兄弟。

設計を担当した建築家の守谷敏二兄
弟は、2000年までに世界で100の神殿
を稼働するという目標のため、また教
会で定められた神殿の基準にのっと
って建築するために、行政との建築法規
上の調整に苦勞したと語る。「例えば
尖塔のモロナイ像は、当初、建築物の
一部であると見なされており、法規上
の高さ制限を超えていました。制限を
緩和してもらうには大変な手続きが必
要ですが、そんな時間はありません。
しかしその後のねばり強い交渉の末、
グラスファイバー製の像は工作物と見
なし、それを除外した台座部分までを
建築物とすることが認められました。
その結果、当初の教会の基準どおり地

日本福岡神殿完成予想図





上高24メートルの尖塔が建てられることになったのです。」

閉会后、身近に神殿を持つ喜びを、当日集まった会員たちは次のように語った。「今日、鍬入れ式に参加して非常に興奮しています…感無量です。」「集まった人たちの喜びと期待がひしひしと感じられました。昨夜から続いた雨が、式の間は上

がって、主に祝福されていると感じました。」「(この式に) 主の御霊が一緒にとどまりました。夢のようです。」「こんなに早く祝福されるとは思いませんでしたね。ほんとうにうれしいことです。神殿のためには系図が大変必要になります。わたしたちのこれからの課題は先祖の救いです。」「わたしたちが神殿を愛して頻繁に奉仕するとき、子供たちも親の姿を見て神殿を愛してくれたらと思います。」「進学や就職で家を離れている子供たちがこの神殿の下に心をついでできる……神殿は家族を結ぶ中心です。」□

神殿鍬入れ式

以下に掲載するのは1999年3月20日、日本福岡神殿の鍬入れ式におけるL・ライオネル・ケンドリック会長のお話と奉献の祈りの全文です。(編集室)

福岡に神殿が建設されるという発表が行われたのは、驚くべき出来事でした。

わたしたちは鍬入れ式に参加し、神殿が建設されるこの地を奉献するために集まっています。これは神聖な機会であり、後にもたらされる偉大な祝福の始まりを表しています。

神殿がこの地域に建設されると、敵対者による悪の影響力は弱まり、この地域とこの地域に住む人々に祝福がもたらされます。ジョージ・Q・キャンノン長老はこの原則について次のように語りました。

「神殿の基礎に据えられる石や建設された神殿はすべて……地上でのサタンの力を弱め、神御自身の力と神を敬う力を増し、わたしたちの益となるよう大いなる力をもって天を動かし、わたしたちに永遠の神々と御前に座しておられる方々からの祝福をもたらす。」「(Elder George Q. Cannon, Logan Temple Dedication, 12 Nov 1877, Gospel Truth - Discourses and Writings of President George Q. Cannon, Vol. 2. The chapter being Salvation for the Dead. TEMPLE BUILDING BRINGS INCREASED POWER. p.111)

これらの祝福は、教会員のみならずこの神殿地区に住むすべての人々にも及びます。

神殿

神殿は主の家です。最も聖く神聖な場所であり、御霊によって永遠における重要な原則を学ぶ場所でもあります。神殿ではこの世と永遠は密接に結びついています。

主の使徒であるジョン・A・ウイツォー長老は神殿について次のように説明しました。

「神殿は、神が来られる場所であり、心の清い人が神とまみえる場所である。そして死者のバプテスマを施し、この世と永遠にわたる結び固めを行い、神権のエンダウメントを授かる場所でもある。」「(The Utah Genealogical and Historical Magazine, 12 April 1921 p. 55-56)

神殿では、多くの目的が果たされ、神聖なことが起こります。霊的に備えて参入するすべての人々に霊的で大いなる経験を得させてくれる場所です。また神殿は次のような場所でもあります。

1. 教えを受ける場所

神聖な事柄に関する教えは神殿の中で受け、いつかわたしたちが主の前に戻る備えをするよう助けてくれます。救いの計画は特別な方法で教えられ、永遠に関するわたしたちの視野は広がり、物事を永遠の見地から見るできるようになります。わたしたちはこの教えの中からこの世と永遠とのかかわりについて理解します。

2. 聖約と儀式を受ける場所

神殿は、個人のふさわしさによって資格

を得た人が主と神聖な聖約を交わす場所です。聖約に忠実であれば、「神のあらゆる賜物の中で最も大いなる〔賜物〕(教義と聖約14:7)、すなわち永遠の命という豊かな祝福を授かるようになります。

3. 啓示を受ける場所

神殿の中では地上と永遠の世界との幕が非常に薄くなります。また御霊が教え、証し、主の教えを求める人々に主の御心を明らかにします。そして特別な方法でわたしたちの知識と理解が早まります。

4. 身代わりの業が行われる場所

主は、御自身の子供たちが、御自身の神聖な御前に戻り、主とともに永遠に住む資格を得ることができるよう、ある基準を設けられました。例外は設けておられません。主はすべての人々が従えるよう、地上で福音を知り、救いの儀式を受ける機会を得られなかった人にも道を備えられました。主は次のように説明しておられます。

「このようにして、真理を知らずに罪のうちに死んだ者や、預言者たちを拒んで背きのうちに死んだ者に、福音が宣べ伝えられた。

これらの者は、神を信じる信仰、罪の悔い改め、罪の赦しのための身代わりのバプテスマ、按手による聖霊の賜物について教えを受けた。

またこのほかに、肉においては人間として裁きを受けるが、霊においては神のように生きるための資格を得るうえで知ってお



く必要のある、福音のすべての原則が教えられた。」(教義と聖約138:32-34)

この最後の神権時代における大いなる業とは死者の贖い、そして子供たちが親と結び固められることによって各世代がそれぞれ過去の世代にさかのぼって結び固められ、一つの家族の系統につながることです。また神殿では、現在から肉における最初の両親であるアダムとエバにまでさかのぼる過去の世代にわたって結び固められます。

個人の備え

神殿に参入する人が、主の神聖な家に参入するため霊的に備えるのは最も大切なことです。ゴードン・B・シンクレア大管長はテキサス州ダラス神殿の奉獻の祈りで、主にこのように嘆願しました。

「あなた様の家に参入するすべての人々の心と体が清くありますように。彼らがあるあなたの栄光のみを仰ぎ見てこの神殿で働き、神殿で与えられる大いなる永遠の賜物への感謝の精神を持つことができますように。また彼らの心が養われ、死者のために働く望みがわき、その働きをなすときに喜びと感謝の心を与えてくださいますように。」

神殿に参入する人々は、心と意思の双方を備えなければならず、アルマが尋ねた質問に肯定的に答えなくてはなりません。

「あなたがたはその日、純真な心と清い手をもって神を仰ぎ見ることができるか。あなたがたに言うが、あなたがたは、自分の顔に神の面影を刻まれた有様で仰ぎ見ることができるか。」(アルマ5:19)

主の家に参入する人々は、謙遜な思いで参入し、「その心が正直で、打ち砕かれていて、かつその霊が悔いていることを知っており、また犠牲を払って……自分の聖約

を進んで守ろうと」しなければなりません(教義と聖約97:8)。

また、彼らの思いも心と同様に次にある主からの勧告と約束に従って備えなくてはなりません。「あなたがたがねたみと恐れを除き去り、また、わたしの前にへりくだるならば、幕は裂け、あなたがたはわたしを見て、わたしがいることを知るであろう。ただし、肉の思いや、生まれながらの心ではなく、霊の心で見るとであろう。」(教義と聖約67:10)

備えの過程

1. 断食と祈り

断食と祈りを行うと、霊的な強さが大いに増し、大いなる霊的祝福を得るために思いと心が備えられます。そしてさらに謙遜になるよう祝福され、信仰と喜びが増します。心と思いが聖められます。この過程は、わたしたちが進んで行く従順な精神を持つことによって始まります(ヒラマン3:35参照)。

2. 聖文を研究する

霊的な証を増し、神殿の重要性をさらに理解するには、聖文をよく研究しなければなりません。聖文は、霊性を増し、御霊に関する霊的な事柄を理解する源となります。

3. 罪を悔い改める

主は神殿が建設されるとき、わたしたちに次のように約束されています。「何であろうと清くないものがそこに入るのを許[してはならない。そうすれば、]わたしの栄光はそのうえにとどまるであろう。まことにまた、わたしはそこにいる。わたしはそこに来るからである。」(教義と聖約97:15-16)

神殿の業の重要性

神殿で行われる業は最も大いなる価値があります。預言者らや使徒たちは神殿の重要性について教え、会員が生活の中で優先しなければならぬのだと教えてきました。預言者ジョセフ・スミスはこのように宣言しています。

「神がわたしたちに与えられた、この世で最も大きな責任は、先祖を探求することである。」(History of the Church 7:313)

まとめ

この神殿に参入する人は皆、この世の煩い事を神殿まで引きずることのないよう努めなければなりません。彼らは永遠に関する事柄のために奉仕し、それに焦点を合わせる目的で誠実な思いをもって参入し、俗世の事柄にかかわる考え、会話、感情などは避けなくてはなりません。そうすれば、自らの働きと、預言者ジョセフ・スミスがカートランド神殿の奉獻の祈りで主に願ったときに下った次の祝福に喜びを見いだすことができることでしょう。

「聖なる御父よ、何とぞ、あなたの僕たちがこの宮からあなたの力を帯びて出て行きますように。あなたの御名が彼らのうえにあり、あなたの栄光が彼らの周りにあり、あなたの天使たちが彼らに対する務めを果たしますように。」(教義と聖約109:22)

イエス・キリストの御名によって、アーメン。

奉獻の祈り

わたしに賜っている聖なるメルキゼデク神権の力と権能により、わたしはこの地を主の宮である神殿を建てる神聖な土地として奉獻いたします。

わたしはこの地を、神殿を建てる場所、神聖な儀式が執り行われる場所、主と聖約を交わす場所、御霊につける事柄について教えを受ける場所として奉獻いたします。

この地が訪れるすべての人々から敬虔の念をもって尊重されるよう祝福いたします。

この地が汚されることも破壊されることもないように祝福いたします。

悪の影響から守られ、霊的にも外観的にも麗しい場所となるように祝福いたします。

諸要素に耐え、ここに建築される神聖な建造物を支える基礎が置かれるように祝福いたします。

主の目的が成就し、主の御霊が完成するに至るために、この地が主によって受け入れられるよう祝福いたします。

聖なるメルキゼデク神権の権能により、聖霊の導きのもとに、イエス・キリストの御名によって、この地を主の御前に奉獻いたします。アーメン。□

特集 教会に導かれ

93歳のバプテスマ

義父の思いを変えた信仰の力

大阪堺ステーク河内長野ワード

南本邦雄

義父の宮本政次は、明治38年3月28日生まれの94歳です。職人気質で曲がったことが嫌い、人が困っていると放っておくことができません。これまで自分の良心に恥じない生活を送ってきたという自負を持っています。その義父が、1998年3月29日に、同い歳で1997年の12月に改宗した新保光之介兄弟（祭司）からバプテスマを受けました。白い衣に身を包み、手をつないで二人で歩く姿は、何とも言えない美しい幼児のようでした。ここに至るまでの長い間、松下伝道部長ご夫妻をはじめ、たくさんの方の会員や宣教師の皆様のご愛と信仰の祈りを受けてまいりました。心から感謝でいっぱいです。

父母に福音を伝えます

1996年9月、当時東京神殿長だった菊地良彦長老をお迎えしてのファイヤサイドで、妻は突然話すように言われ、そのとき「父母に福音を伝えます」と申しました。その後何度もお祈りして、義父母ともに宣教師からお話を聞くことになりました。そのことだけでも大きな喜びでした。

宣教師とのレッスン中に、熱心に聖文を読み、積極的に質問に答えるのは、いつも義父の方で、義母は横で聞いているだけでした。しかし話が進む中で、バプテスマのことになると、年齢のことや、自由が欲しいこと、バプテスマ後の会員として求められる生活に十分こたえることができないなどの理由でいつも断っていました。

しかし義母だけは、オープンハウスでイエス様の絵を見て、何か感じるも

のがあり、「あと、残された人生はそんなくない。それなら1日でも早い方がよい」と決心して、1997年3月28日、バプテスマを受けました。義母（宮本かね子）87歳のときでした。義母は教義について深く理解していませんが、神様が生きることや福音が真実であることを、聖霊を受けて感じていました。これまでいろいろな所にお参りして、信仰心の強い方でしたから、きっと感じる事ができたのだと思います。

一方、義父は頑固にバプテスマを拒否し続けました。ただ、宣教師の話は喜んで聞き、大きな手で握手されるときいつも「頼もしいなあ」と言って、特別なものを感じているようでした。『モルモン書』の読書課題も熱心に果たし、「そこに書かれてあることはほんとうであると思う」と話していました。義母のバプテスマ後のレッスンにもすべて参加し、それが終わると一時、福音の勉強は中断しました。

その後ワードは姉妹宣教師だけになって、再び勉強が始まりました。福音に対する理解も進みました。松下伝道部長夫人もはるばる神戸から、2時間半以上もかけて度々来てくださって、励まし、アドバイスをし、よく愛を示してくださいました。しかし義父は、バプテスマとなるとかたくなに拒否し、心は揺れながらも「何度言われても、それだけはできない」と言っていました。義父にしてみれば、仏壇や法事なども随分気になっていたようです。また、



前列中央が宮本政次兄弟、左隣が奥様の宮本かね子姉妹、右隣が新保光之介兄弟。
後列左から2人目が南本民子姉妹、3人目が南本邦雄兄弟。

「完全に従うという決意がないと入信すべきではない」とも言っていました。そう言いながらも、「この教えはほんとうだと思うので、できることはさせてもらう」と言って、知恵の言葉を守り、自分の一歩を納め始めました。

バプテスマへの信仰

そのうちに、ワードに長老が来られました。1998年1月の後半、教えてくれていたキンボール長老が体調を壊し本部で療養していたときに、義父が新保光之介兄弟からバプテスマを受けている夢を見ました。この知らせは大きな励ましでした。また同僚のバファス長老も、二度にわたって聖霊の強い示しを受けました。宣教師の強い信仰と励ましを受け、義父の誕生日の3月28日にバプテスマの目標を設定し、その日までにできることを書き上げて努力しました。

レッスンは、バプテスマのことには触れずに進みました。大きなレンズを使って、熱心に『モルモン書』を読む義父の姿に改めて尊敬の念が増しました。目標の2週間前のレッスンで、宣教師とともに断食して、改めてバプテスマについて話しましたが、やはり拒否でした。1週間前にも、前日にもレッスンを受けたのですが、結果は同じでした。宣教師たちはとてもがっかりし

て帰りました。

目標の当日、妻は信仰を表し、義父のためにバプテスマの服を用意しアイロンをかけました。それに宣教師たちも、誕生日のお祝いに来てくれました。その日はレッスンの予定はなかったのですが、話をする事になりました。宣教師たちの口から全身全霊を込めた神の言葉が出されました。「冷たいか熱いかであってほしい。生ぬるい信仰は吐き出される。」(黙示3:15, 16参照) その言葉を聞いたときです。義父も感じるころがあったのでしょうか、「(バプテスマを) 受ける」と言ったのです。まさにそれは奇跡でした。

「わたしの愛する同胞よ、……奇跡はやんでしまったのであろうか。見よ、そうではない……『あなたがたはわたしを信じるならば、わたしの心になんか何事でも行おう力を持つであろう』と。」(モロナイ7:29, 33)

このことを通じて、神様の慈しみ深い愛を強く感じます。また、「時が続くかぎり、大地が存在するかぎり」、まさにその人が何歳であっても、またどんな障害があっても、「地の面に救われる人が一人でもいるかぎり、神は聖霊の力を与え」られることがよく分かるようになってきました(モロナイ7:36)。まさに神様は生きておられます。そして奇跡を行われるということを証いたします。(みなみもと・くにお ステーク会長)

祈りは必ずこたえられます

南本民子

3年前の5月に、現在の東京北伝道部の部長夫人・小松愛子姉妹と妹の杉本姉妹のお母様である大湾姉妹のバプテスマ会に出席しました。独身時代からの友人のお母様の改宗に立ち会って、わたしはずっと感激のあまり泣いておりました。そのとき、年老いたわたしの両親にも福音を伝える責任を果たそうと小さな決意をいたしました。

父のために、宣教師たちがよく準備して語りかけるメッセージは、御霊にあふれたすばらしいものでした。それを聞けば、ほとんどの人が改宗するであろうと思われるほどのものでした。にもかかわらずバプテスマのみを拒む父を見て、どうすることもできない難しさを感じ、つらい思いをしました。

それでも、「信仰とは、あきらめないこと」と、宣教師により教えられ、父の誕生日を目標にわたしたちができることはすべて行い、「人事を尽くして天命を待つ」の言葉どおり、あとは主にゆだねようと思いました。

宣教師は何度も断食をしてくださいました。それでも父が拒めばどうしよう、と心配のあまり、いつの間にかわたしの祈りも「主よ、どうぞ宣教師の祈りにおこたえください」と変わっていました。それでもだめなら、その原因は娘のわたしにある、という思いで一生懸命に祈りました。監督や改宗された年輩の姉妹の協力もお願いしま

した。宣教師も、4月初めには帰国することもあって、バプテスマのチャレンジを上手にかわす父の言葉にひるまず、聖典をひもといて熱心に心に語りかけました。父も心の中では「はい」と言いたかったと思います。しかし目標の前日にも拒んだときは、さすがの長老たちもがっかりしたようでした。そのときの悲しそうな顔は忘れることができません。これが答えなのか、と重たい、つらい一日でした。

それでも宣教師たちは翌日にもやってきました。父に誕生日の歌を歌い、心からの愛を示しました。そして聖文を説き明かし、「心配でアメリカに帰れない」とも言いました。そのときです、父は「これ以上にこたえた言葉はない。負けた、わたしも言いたいことは全部言ったので、受ける」と申しました。宣教師もわたしも驚きました。祈りがこたえられた瞬間でした。

「あなたがたが信仰をもって、わたしの命じたとおりにつつになり祈って求めるものは、何でも与えられるであろう。」(教義と聖約29:6) ほんとうにそのとおりでした。神様は生きてましまし、必ず祈りにこたえてくださいます。少しでも疑った自分を反省しています。たくさんの方々の助けと祈り、また先祖の助けもありました。最高の親孝行ができて感謝の気持ちでいっぱいです。(みなみもと・たみこ)

特集 教会導かれ

主の愛により導かれたわたしの改宗

宣教師との23年ぶりの再会から

東京東ステーク小岩ワード 山田 昭

昨年3月にアメリカからのEメールを通して、23年前わたしが改宗したときの宣教師だったミーキン兄弟が仕事で日本に来る予定があると伝言がありました。その際、ミーキン兄弟の伝道当時に改宗したわたしを含む3人の兄弟たちに会いたいとのことでした。そこで早速、彼らに連絡を取り、4月に小岩ワードで会うことになりました。

その約束の前日、死者のためのバプテスマにわたしの二男が参加することになり、東京神殿へ家内とともに3人で行きました。儀式を終えて神殿の入り口にいたら、アメリカ人のご夫妻がわたしに近づいて「ヤマダキョウダイ？」と声をかけてきました。これが23年ぶりに会うミーキン兄弟でした。「よくわたしの顔を覚えていましたね」と聞く

と、日本語で「すぐ分かりました。当時、監督をされていた兄弟に神殿の中でお会いして、山田兄弟に明日会うのだと言ったら『山田兄弟は今日、神殿奉仕者として奉仕しています』と言われました」と話しました。わたしも監督だった兄弟も23年間でそれほど顔つきが変化していないのかな、と不思議に思いました。ミーキン兄弟の方は大

分変わっていました。大学生だった当時の面影はほとんどなく、初対面のような感じでした。翌日会うことを約束して別れました。

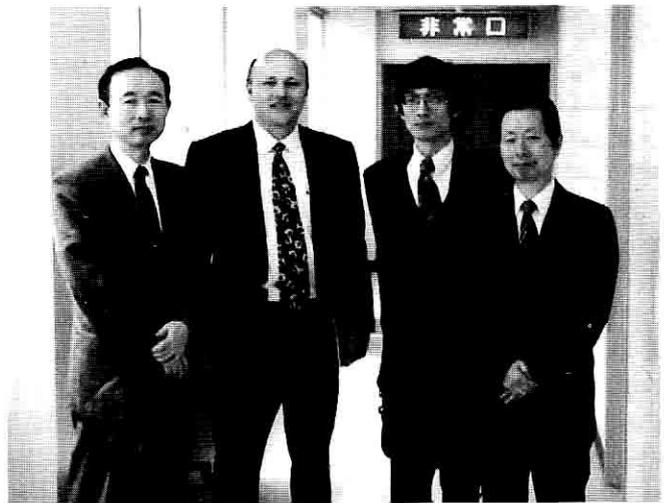
翌日、小岩ワードの^{せいしん}聖餐会でミーキン兄弟が話ししてくださいましたが、その中でわたしの改宗に触れた箇所がありました。

「1975年の初夏のある夜、夢を見ました。白い服装をした男性に会って福音を伝える場面を。翌日教会の近くでわたしよりも背の低い白いワイシャツに白いズボンの男性に会いました。それが山田兄弟でした。」

まったく初耳でした。当時のわたしはなぜか彼の言うように白い服装が好きでした。また、人生の上での悩みを抱えて、生きることを意味を模索していた時期でした。宣教師に会って福音を聞き、そのメッセージのすばらしさにバプテスマを受けました。随分前から何度も宣教師に町で会っていたのですが一度も声をかけられたことはありませんでした。

ませんでした。ですからわたしの思いを神様が夢でミーキン兄弟に伝えてくださったのです。23年たって、神様がわたしを愛してくださったことをはっきり知ることができました。何という祝福でしょうか。この23年、もしも常に福音に従って歩まず教会を離れていたら、この神様の愛も知らずじまいだったことでしょう。

今や6人の子供の父親となり、懐かしい日本を再訪したミーキン兄弟も、自分の導いた3人の日本人が^全も活発に信仰を保ち続けていることを喜んでくださいました。苦勞して遠い日本の地に伝



ミーキン兄弟が教会へ導いた3人の兄弟たち。
左から中村 進兄弟、ロバート・ミーキン兄弟、春日潤吉兄弟、山田 昭兄弟。

道に来て、慣れない日本語と習慣にも負けずに主の救いの計画を伝えるのは大変な犠牲だったことでしょう。神様と福音を伝えてくれた宣教師に心からの感謝を新たにしたことでした。(やまだ・あきら 大祭司グループリーダー)

特集 教会導かれ

みたま
御霊に満たされたバプテスマ会

昨年暮れも迫った12月のある日、わたしは宣教師から電話を受けました。小倉さんとおっしゃる求道者の方を車で教会に連れて来てほしいとのことでした。そうして日曜日の朝、彼女の家へ迎えに行ったのが、小倉弘子姉妹との初めての出会いでした。

彼女は60歳前後の眼鏡をかけた少し太り気味の女性でした。子供がなくご主人と二人暮らしのようでした。まさかこの方がすんなりとバプテスマを受けるものとは思いませんでした。年が明けた1月の中ごろがバプテスマの予定だと、支部長を務める主人から聞き、喜びもありましたが不安もありました。浦河支部が開設されてから3年あまりの間、いまだバプテスマは1

主のもとに招かれた姉妹 浦河支部で初めての新会員との出会いと別れ

札幌ステーキ浦河支部 小林博子

度もなかったからです。

しかし、それから小倉姉妹の希望で日曜日に毎週欠かさず迎えに行くことになり、そのお人柄に接するうちに、彼女はほんとうに主を信じて信仰生活をしようとされていることが確信できました。支部の会員もこぞって小倉姉妹を歓迎し、喜びのうちに時がたちました。

そして待ちに待ったバプテスマの日が来ました。1999年1月16日土曜日の午後、わたしは車で小倉姉妹を迎えに行きました。彼女は身支度を済ませて待っていましたが、同乗してもらい車が走り始めたとき、彼女はせきを切ったように話し始められたのです。

「昨夜、真夜中に急に体温が上昇し始め、非常に熱く息苦しくなり、このままでは死ぬのではないかと思います

た。無我夢中で、『イエス様、助けてください』と祈り嘆願しました。するとうのように熱が下がり、汗が滝のようにわき出てきました。汗をふいて着替え、いつの間にか眠ってしまいました。すると一つの夢を見たのです。

夢の中に、白い衣を着た人が、両手を広げほほえんで立っている姿を目にしました。夢から覚め、見たことの不思議さに再び眠ることもできず、体がだるくなってきました。このままではバプテスマの儀式を受けることができないと感じて再び祈りをささげたところ、体が心地よい温かさを感じて軽くなり、睡眠を取ることができたのです。」

そう話されるうちに教会に着き、小倉姉妹のバプテスマ会が始まりました。このときは、支部の会員すべての思いが一つとなったようで、とても良い集

専任宣教師、口一長老の証

わたしたち宣教師は、地域伝道記録で見つけた、宣教師と以前に会っていた人の家を探していました。残念ながらその人は家にいませんでしたが、そのとき、周囲の家々に強い気持ちを感じました。戸別訪問を始めると、3軒目で年輩の女性がドアを開け、すぐに家の中に招いてくれました。それから彼女は『モルモン書』を取りに行き、表紙のほこりを払い始めました。それが小倉さんでした。『モルモン書』を見るとすぐ、わたしたちは部屋に入り『モルモン書』と天父の計画について話し始めました。しかし、小倉さんはとても体調が悪そうで、その心

と体の状態から、これからも続けて福音を教えるべきかどうかははっきり分かりませんでした。しかし、福音を教えていくうちに、状態はどんどん良くなっていきました。そして彼女は福音を迷うことなく受け入れました。神様はほんとうに、小倉さんが福音を受け入れるよう備えてくださいました。

知恵の言葉について、あるエピソードがあります。小倉さんはそれまでたばこを吸っていたので、最初に会ったとき、知恵の言葉は問題になるかもしれないと心配しました。しかし、わたしたちと会ってからすぐに小倉さんは自分から進んでたばこをやめました。それからわたしたちが知恵の言葉について話すまでには、

小倉さんはすでにその戒めに従うようになっていたのです。神様は何と偉大な御方でしょう。子供たちが福音を受け入れ、御自分と再び一緒に住めるよう道を備えてくださるのです。

バプテスマの日は、まるでうらかな春の日のような日でした。小さな支部の会員は皆、このすばらしい会を見ようと、遠くから来てくれました。浦河支部で最初の改宗者のバプテスマでした。これは主の業であり、主がこの偉大な業を導いておられます。わたしたちは、小倉姉妹の人生に、そして数え切れない人々の人生に主の手があることを知っています。わたしたちの神である主に栄光がありますように。□

会でした。今思うと、そこに御霊が注がれ、そこに集まった全員がそれを感じていたのではないかと思います。わたしが車内で先ほど聞いた経験を小倉姉妹は証され、その話には皆は聞き入っていました。そしてリーハイの示現の白い実を味わったかのような喜びにあふれて帰途に就きました。謙遜で従順な小倉姉妹を導くために、まさしく神様が、心優しく勇敢な宣教師をこの小さな浦河の町にもお遣わし下さったことに感謝しました。

残された大きな証

それから数日後、当時、扶助協会の会長であった田中栄子姉妹とわたしは訪問教師として小倉姉妹の家を訪問しました。彼女は快く迎え入れてくださり、わたしたちはメッセージを伝えて互いに親睦を深めました。そうするうち、小倉姉妹は自分からこのように話し始められました。

「わたしは、身体が弱く持病があるので、入退院を幾度となく繰り返していました。この年明けにも入院しなければならぬかと心配していました。けれどもバプテスマを受けた後は、身体がうそのように軽くなって日々過ごしていて、その喜びをかみしめています。

バプテスマを受けた後のある夜、夢を見ました。それは泥沼の池でした。

まるでコールタールのようにねばねばした黒々と汚い泥の中に自分の全身が浸されており、かろうじて首だけが出ていました。動こうともがいても思うように手足を動かすことができません。それでも少しずつ少しずつ岸に近づき、やっとの思いで泥沼から這い上がることができました。全身に泥がまとわり付いて気持ちが悪く、しばらく辺りを見回していると、お風呂のような器の中に清らかな水が満々とたたえられ、あふれ出ているのを目にしました。わたしは、汚泥の付いた身をその中に浸して洗い流しました。その水は冷たくもなく肌にとても心地よいものでした。身を洗い清めてからそこを出て、よい気持ちで休んでいると、髪は白髪で背の高い、白い衣を身にまとった御方が優しくほほえみかけながら立っておられるのが見えました。身体の周りには後光のようにまばゆく光り輝いており、大きく両手を広げて招いておられるようでした。近寄って行くと、

優しくわたしの体を抱き締めてくれました。そのとき、とても言い表しようなない安らかな思いがしました。」わたしたちはその話に深い印象を受けて帰りました。

その後1度ほど訪問し、次の約束を取ろうとして電話を入れましたが、風邪を引いて具合が悪いのでまたにしてください、との返答でした。また体調が優れないので3月最初の安息日は欠席されるとおっしゃいました。数日たって、その後どうなったか心配になりました。また電話をしました。するとご主人が出られ、風邪をこじらせて入院した、



浦河支部の人々。写真最前列右端が小倉弘子姉妹。最後列左端が口一長老。中列左端が小林勝彦支部長、中列左から3人目が小林博子姉妹。

と聞かされました。風邪から腸(ちょう)に来て、前回思(も)った腸閉塞(ちょうへいそく)の患部(わづら)が悪化(あくわ)し破裂(はくさく)状態(じょうたい)になったので手術(じゆじゆ)をしたとのことでした。

早速病院(びやういん)へお見舞(みま)いに行くと、小倉(こくら)姉妹(せいまい)の身内(みうち)の方が来(き)られていました。彼女(かのじよ)が改宗(かいしゆ)したことに立腹(りつぷく)された様子(ようす)で、わたしたちは追(お)い返(かへ)されるように帰(かへ)りました。後(ご)で分(わ)かったことですが、小倉(こくら)姉妹(せいまい)は、ご主人(しゆじん)にも親戚(しんせき)にも内緒(うちせと)でバプテスマ(ばぷてすま)を受けられたようでした。身内(みうち)の方々(かたがた)はある宗教(しゆきう)に熱心(ねっしん)な信徒(しんたい)であることもうかがい知(し)れました。その

後(ご)何度(なんど)かお見舞(みま)いに行くと、彼女(かのじよ)自身(みづかみ)はわたしたちを受け入れてくださいました。しかし容態(ようたい)はあまり芳(よ)しくなく、持病(ぢびやう)も併発(へいはつ)されたようでした。

3月(しがつ)半ば(はんば)にかかろうとするある朝(あさ)、主人(しゆじん)が突然(とつぜん)、「小倉(こくら)姉妹(せいまい)は亡(な)くなるよ」と申しました。何でも前夜(ぜんや)、胸騒(むねさわ)ぎがして一晩(いちばん)中寝(ちゆうね)つけず、音(ね)ともつかず声(こゑ)ともつかぬ思(おも)いで、彼女(かのじよ)が亡(な)くなると強(こゝろ)く感じたそうです。わたしは信(しん)じられませんでした。後(ご)で聞(き)くと、同じ(おな)じころ、離(わか)れた場所(ばしょ)に住(す)んでいる副支(ふくし)部長(ぶちやう)長(ちやう)さんや宣教師(せんきうし)たちも同じ(おな)じ思(おも)いを感じ

ていたそうです。

それから2,3日(にち)後の3月(しがつ)16日(にち)正午(せいご)ごろ、小倉(こくら)姉妹(せいまい)は息(いき)を引き取(と)られました。亡(な)くなった翌日(あつち)の翌日(あつち)、宣教師(せんきうし)が病院(びやういん)へお見舞(みま)いに行き、知らされたとのことでした。振り返れば2か月(げつ)ほどの短い信(しん)仰(ぎやう)生活(せいかつ)でしたけれど、彼女(かのじよ)はわたしたちにとって大きな存在(そんざい)でした。わたしたちに彼女(かのじよ)の証(あかし)という大きな一石(いっせき)を投(な)じてくれたのです。今は小倉(こくら)姉妹(せいまい)の霊(たま)もパラダイス(paradise)にあって、主(しゆ)のもとで平安(へいあん)に休(やす)んでおられるものと確信(かくしん)しています。(こばやし・ひろこ 扶助(ふじゆ)協会(けいひん)第二(だいに)副会長(ふくわいじやう))

特選 教会導かれ

夕暮れの神殿から 神様の愛によって備えられたバプテスマへの道

東京南ステーク渋谷ワード 落合園実

わたしは東京(とうきやう)神殿(じんたんでん)から自転車(じてんしゃ)で15分(ぶん)ほどの所(ところ)に住(す)んでいます。18歳(さい)当時(たうじ)、専門(せんもん)学校(がく)へ通(と)っていました。自転車(じてんしゃ)通学(つうがく)でしたが、時々(ときどき)気晴(きせい)らしに回り道(まわりみち)することがありました。あるとき、たまたま有栖川(ありがわ)公園(こうえん)へ立ち寄(よ)りました。もう日の暮(く)れかけるころでした。

そのころは楽しい毎日(まいにち)でしたが、時に心(こゝろ)に満(み)たされないものを感じることもありました。その日もそんな物悲(ものかな)しい気持ち(きもち)で草むら(くさむら)に座(ま)り、しばらくぼんやりしていました。

やがて迎(むか)いが薄暗(うすくろ)くなって、ふと目を上げたそのとき、ライトアップされたほんとうにきれいな建物(たけな)が見(み)えました。教会(きやうかい)だということしか分かりませんでした。とても聖(せい)らかな感じがしました。広尾(ひろお)には何度も立ち寄(よ)っていましたが、そこに教会(きやうかい)があることには今まで気(き)が付きませんでした。

その途端(とくだん)、なぜか心(こゝろ)が晴(は)れて元氣(げんき)がわいてきました。それまで心(こゝろ)を悩(なや)ませていたことがとても小さなことに思(おも)えました。わたしは元氣(げんき)よく自転車(じてんしゃ)に飛び乗(の)って家(いえ)に帰(かへ)りました。

聖霊に導かれ

それから4年(ねん)後(ご)、アメリカ(あめりか)へ短期(たんき)留(りゅう)学(がく)を計(けい)画(かく)しました。先にシカゴ(しかが)へ留(りゅう)学(がく)

していた友人(ゆうじん)と共同(きゆうどう)生活(せいかつ)をすることになり、資金(しゆんきん)をため、楽(たの)しく準備(じゆんび)を進(すす)めました。ところが住居(ぢゆうきよ)費(ひ)を折半(せはん)で払(は)い込んだとき、何(なに)かが違(ちが)う、そこに行(い)ってはいけないという怖(こゝろ)いような不安(ふあん)な気持ち(きもち)を強(こゝろ)く感じました。せつかく準備(じゆんび)を進(すす)めてはいましたが、勇(ゆう)気を奮(ふる)ってその友人(ゆうじん)にキャンセル(キャンセル)の連絡(れんらく)をしました。払(は)い込んだお金(かね)は無駄(むだ)になりましたが、正しい(ただしい)ことをしたという気持ち(きもち)がありました。

次にコロラド州(コロらどしゆう)のデンバー(だんば)へ行(い)こうと計(けい)画(かく)しましたが、また同じ(おな)じ悪い(わるい)気持ち(きもち)を感じました。さてそれではどこへ行(い)こうかと考(かん)えて、ガイドブック(ガイドぶく)を3回(さんかい)も読(よ)み通(と)しました。そして最後(さいご)に残(のこ)ったのが、ユタ州(ユタしゆう)ソルトトレイク(そるととれい)クのウェストミンスター(westminster)という学校(がく)でした。申し込(こ)むと、そのときは悪い(わるい)気持ち(きもち)もなくスムーズ(スムーズ)に話(わ)が進(すす)み、ハルバーソン(halberson)家(いへ)という家族(かぞ)のもとにホームステイ(homestay)することになりました。

わたしはユタ(ユタ)がモルモン(もるもん)の町(まち)であると言うことはガイドブック(ガイドぶく)を讀(よ)んで知(し)っていました。ところがモルモン(もるもん)がクリスチャン(クリスちやん)であるとはどこにも書(か)かれておらず、コービー(こーびー)、たばこ(たばこ)を取(と)らないこと以外(いげん)は何(なに)も知(し)りませんでした。わたしが持(も)って行(い)ったおみやげ(みやげ)の中に

は梅酒(うめしゆ)がありました。それを渡(わた)すとハルバーソン(halberson)家(いへ)のお父(おとう)さんはとても喜(よろこ)んで感謝(かんしゃ)の気持(きもち)を伝(つた)えてくれました。ところが後(ご)で同じ(おな)じ留(りゅう)学生(がくせい)の友(とも)達(だち)に、教会(きやうかい)員(いん)はお酒(しゆ)を飲(の)まないことを教(おし)えられました。わたしは、飲(の)まないのになぜあんなに喜(よろこ)んでくれたのだらうと思(おも)い、お父(おとう)さんの優(やさ)しさを感じました。彼(かれ)らはほんとうに親(おん)切(せつ)、わたしはハルバーソン(halberson)家(いへ)族(ぞく)が好(す)きになりました。

そういう訳(わけ)でハルバーソン(halberson)家(いへ)のお母(おはは)さんから教会(きやうかい)に行(い)きませんかと誘(よ)われたとき、彼(かれ)らの言(い)うことなら、と行(い)ってみる気持(きもち)になったのでした。

扶助(ふじゆ)協会(けいひん)に出席(しゅっせき)したとき、ある人(ひと)が日本語(にほんご)で「こんにちは」と声(こゑ)をかけてきました。彼女はリサ・ロック(りさ・ろっく)姉妹(せいまい)と言って、東京(とうきやう)北伝(きたでん)道部(だうぶ)で伝道(でんどう)していたと話し、もう一人(ひとり)日本(にっぽん)からの帰還(きげん)宣教師(せんきうし)のアナリサ・グッドマン(アナリさ・ぐっどまん)姉妹(せいまい)を紹介(しょうかい)してくれました。二人(ふたり)は英語(えいご)の分(わか)らないわたしの隣(とな)りに座(ま)って通訳(つうやく)をしてくれました。

彼女(かのじよ)たちに連れられて初めて日曜(にちよう)学校(がく)に出席(しゅっせき)したときです。黒板(くろばん)に「Holy Ghost」と書(か)かれているのを見てわたしは思(おも)わず「どんなお化(おま)けですか?」とたずねました。すると姉妹(せいまい)は「それは聖霊(せいれい)と言って、良いこと(よきこと)と悪いこと(わるいこと)

を心に教えてくれる見えない人だよ」と教えてくれました。それを聞いたときわたしは、「あ、それ知ってる！」と感じました。あのときシカゴやデンバーに行かなかった意味、あのとき感じた気持ち、それは聖霊の導きだったのだと思いました。

5週間の予定のホームステイでしたが、そのときわたしは、これから毎週教会へ行きたいという気持ちになっていました。

ソルトレークに滞在中、ロック姉妹とグッドマン姉妹はわたしに日本語の『モルモン書』を渡し、神会の御三方の役割と救いの計画について簡単に説明してくれました。そのときの雑談の中で、わたしの住んでいる所について話すと、渋谷ワードで伝道したグッドマン姉妹はそこを覚えていて、「それは神殿の近くですよ」と言いました。わたしは「神殿」の意味がよく分かりませんでしたが、グッドマン姉妹が地図を描いてくれたのを見て、4年前に有栖川公園から見たあのきれいな建物が「神殿」だったのだ、と初めて分かりました。なぜかとてもいい気持ちになりました。

日本に帰る1日前に、ロック姉妹が

総大会に出席するよう誘ってくれました。1995年9月30日の大会でした。日本語の通訳の部屋でモニターを見ながらお話を聞きました。

教会用語はよく分かりませんでした。壇上に立たれた話者の顔を見たとき、特別な感じを受け、心が打たれました。彼はほんとうに聖い人だと感じたのです。心が洗われるような気持ちでした。4年前、有栖川公園で神殿を目にしたときの気持ちと似ていました。訳も分からず涙が流れてきて、そのとき、日本に帰ったら必ずこの教会を訪ねてみようと思っただけです。

バプテスマへの祈り

帰国してから、東京南伝道部に電話をしました。すると宣教師が呼ばれて、姉妹宣教師のアパートの電話番号を紹介してくださいました。早速かけて、次の日曜日に教会で会う約束をしました。そうして本間美華姉妹と羽田和恵姉妹という御二人の姉妹宣教師にレッスンを受けることになったのです。

後で聞いて知りましたが、わたしが初めて姉妹宣教師のアパートに電話したのは、本間姉妹が平塚から転任して来たちょうどそのときでした。アパー

トに重い荷物を置き、ふうと一息ついた途端に電話のベルが鳴ったのだそうです。本間姉妹にはよく助けていただったので、わたしには神様が道を備えてくださったのだと思えてなりませんでした。

しかしそのとき、最初はすぐにバプテスマを受ける気持ちはありませんでした。いつかは受けるだろうとは思いましたが、1か月後にはまたユタに行く予定にしていたし、そう簡単に受けられるとは思っていなかったからです。ところが姉妹たちは、ユタに出発する前にバプテスマを受けるように勧めてきました。わたしは帰国後でもいいと思っていましたが、毎日のように彼女たちに会ううちに受けたいという気持ちに変わっていききました。

そこで出発前にバプテスマを受けるべきかどうか神様に祈り尋ねました。また母に相談したところ、母は反対まではしませんでした。「ちゃんとよく聞いて、いろいろなところを見てから選びなさい」と忠告してくれました。母に喜んでもらえなかったのも、もう少し時間が必要かなとも思いました。

明日はアメリカにたつという日の早朝、姉妹たちから電話がありました。



1995年9月30日、
総大会に出席した落合姉妹とリサ・ロック姉妹。

わたしは昨夜の母の言葉を伝えました。そこで姉妹たちは、この電話を切ったから『モルモン書』から幾つかの聖句を読んでもう一度祈ってみようチャレンジしました。わたしにもバプテスマを受けたい気持ちがあったので、母の気持ちも大切ですが、天のお父様がどう思っているのか聞かなければいけないと思いました。

祈り始めたとき、先ほど読んだモーサヤ書第18章の「モルモンの泉」の光景が目の前に広がりました。夢を見ているようでした。わたしは泉を上から見下ろしていました。そこはバプテスマを受ける所だと思ったので、下に降りたいと強く願いました。ところがハンモックのような網に体が引っかかって降りられず、もがいても抜けることができませんでした。わたしは神様に、「バプテスマを受けたいです」と呼びかけました。すると遠くから神様の声がして、「受けられますよ」とおっしゃいました。わたしは、「受けたいけれども網が引っかかって下に行けません」と言いました。すると神様は「受けられますよ」とそれだけを繰り返されました。わたしは再度、「ほんとうに受けたい」と言いました。すると神様は白い衣を着けた御方を送ってくださいました。その方はわたしを抱き締めて、網を通り抜け、泉に降り立たせてくださいました。わたしはその方をイエス様だと思いました。そのときわたしは、ああ、バプテスマが受けられるんだ、と感じたのです。最後にその方が言われた言葉は、「あの網に引っかかっていたのはあなたの体ではありません、あなたの不安な心です。でもその心はすべてわたしが引き受けるので、安心してバプテスマを受けなさい」ということでした。それを聞いたわたしは、絶対にバプテスマを受けたい、いいえ、受けさせてほしいと思いました。

祈りを終えるとすぐ、姉妹宣教師たちが訪問してくれました。わたしは彼女たちにただ、「バプテスマを受けます」とだけ伝えました。

バプテスマをだれに施してもらいたいかと姉妹たちに聞かれたとき、最初

はある長老の名前を挙げました。けれどもすぐ、何か違う気がして、ほかの長老をお願いすることにしました。それがシュムーツ長老でした。姉妹たちは意外な顔をしました。わたしはその長老とそれまでほとんど話したこともなかったからです。

道は備えられる

1995年12月14日、わたしは旅支度をして大きなスーツケースを下げ、神殿別館へ行きました。早朝7時からのバプテスマ会でしたが、宣教師たちは準備して待っていてくれました。わたしは、わたしにできないことは神様が引き受けてくださるという大きな証を持ってバプテスマの水に沈みました。そしてその足で再びユタへと旅立ったのです。

前回同様、ハルバーソン家族にお世話になりました。5週間の滞在もあと10日ほどになったとき、一家の娘さんがマントイ神殿とセントジョージ神殿に行く予定があり、お父さんの提案でわたしも同行することになりました。セントジョージでみんながセッションに入っている間、わたしは外で待っていました。時間があったので、持参したスケッチブックに鉛筆でスケッチをしていました。

そこにショーン・アマート兄弟という方が日本語で「こんにちは」と話しかけてきました。彼は仙台で伝道し、数週間前に帰還したばかりということでした。わたしは自己紹介し、最近バプテスマを受けたと伝えました。バプテスマを施してくれた長老はセントジョージ出身だと話すと、目を輝かせてその長老の名前を尋ねてきました。「シュムーツ」と告げたとき、アマート兄弟はとても驚きました。そして「それは多くの友達です！彼の家族に会



シュムーツ家族を訪ねた落合姉妹。いちばん左がショーン・アマート兄弟。

わせてあげましょう」と言うではありませんか。わたしは、この広いセントジョージにシュムーツという名前はたくさんあるはずだ、間違えているのではないかとドキドキしながらも、確かによい気持ちを感じたのでついに行きました。そしてシュムーツ家のドアを開けた瞬間、壁に掛けられたその長老の写真が目飛び込んできました。

ご家族はとても温かく迎えてくださいました。シュムーツ長老はわたしのバプテスマの日のことをたくさん家族に書き送っていました。その日は宣教師の休日だったこと、朝4時に起きてフロントに水をためたこと、大変だったけれどとてもうれしかったこと……手紙を読み聞かせてもらってわたしも温かい思いに満たされました。ほんとうにあの祈りの答えは確かだったんだ、アメリカに来る前のあの日にバプテスマを受けるべきだったんだ、という思いがしみじみとわき上がってきて、心からよかったと思いました。

わたしが18歳のあの日、最初に神殿から感じたものは「神様の愛」でした。わたしたちは教会員であるなしにかかわらず、等しく神様の愛を感じることができます。神様がわたしを導いてくださったこと、御霊の告げる気持ちや祈りの答えに従うことがほんとうに確かな道であることを証いたします。(おちあい・そのみ ワード広報委員、扶助協会ホームメイキング教師)

専任宣教師

1999年3月(234期生)5人 海外4人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



おおさか ひろこ
大坂寛子
福岡伝道部
東京東ステーキ
東金ワード



こうち まさひろ
高地正訓
仙台伝道部
大阪ステーキ
大阪ワード



ともい ひろし
友井 浩
福岡伝道部
大阪ステーキ
東大阪ワード



なかむらまさのぶ たまこ
中村雅延・妙子
東京南伝道部
札幌ステーキ
苫小牧支部



なかた えりこ
中田恵理子
ファンタジーC北伝道部
ペイソン・ユタ西ステーキ
ウエストマウンテン
第1ワード



なかがわ きょうこ
中條京子
ハワイ・ホノルル伝道部
仙台ステーキ
福島ワード



いたくら こうし
板倉康治
ハワイ・ホノルル伝道部
横浜ステーキ
都築ワード



おおはし たけし
大橋 武
ハワイ・ホノルル伝道部
宇都宮地方部
宇都宮支部

役員の変動

1999年3月11日から1999年4月8日まで
に管理本部会員統計記録課に通知のあ
った役員の変動(敬称略)

- 大阪北ステーキ
第二副会長:中西 和彦
- 長崎地方部佐世保支部
支部長:森 久明
- 富山地方部高岡支部
支部長:澤川 康則
- 新潟地方部上越支部
支部長:高瀬 満
- 御坊地方部田辺支部
支部長:柏山 淳
- 山口地方部山口支部
支部長:糸原 義人
- 岡山ステーキ米子ワード
監督:中塚 祐文
- 高崎ステーキ熊谷ワード
監督:石田 智通

ユニットの変更

1999年3月14日付で、新潟地方部上越支
部が新設された。

皆さんの原稿を募集しています

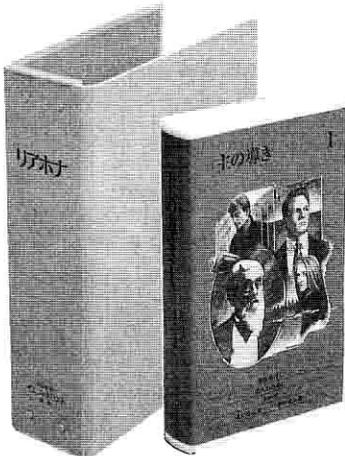
◎地域のニュース、あなたの証などを
ご紹介ください。——誌面に関するご
意見、ご感想などもお寄せください。
◎ご投稿の際には連絡先(住所・電話
番号・ファックス番号)、教会での責任
(役職名)、所属ユニット名を記入し、
できれば写真(投稿者または投稿内容
に関連するもの)を同封のうえお送り
ください。採用された原稿は編集の際、
要約や手直しをさせていただくことが
あります。

◎お願い——海外に召される日本人宣
教師を紹介いたします。伝道の召しを
受け取り次第、編集室に写真を添えて
お知らせください。(氏名〔フリガナ〕、
所属ステーキ/地方部、ワード/支部、
MTC入所月、伝道部名を明記)

◎あて先:〒106-0047 東京都港区南麻
布5-10-30 末日聖徒イエス・キリス
ト教会 『リアホナ』編集室
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275

ブックセンターだより

新刊
紹介



『リアホナ』専用ファイル
カタログ番号: 86230 300
(210×273用) 定価400円
色はアイボリー。『リアホナ』ロゴが金
文字で背に入る。1999年から2002年ま
での年号シール付き。

主の導き1 (ビデオカセット)
カタログ番号: 53670 300
定価1,200円
奉仕の召し(新作・19分)、若人のために
(11分)、天の窓(32分)、大いなる富—



『モルモン書』(60分)の4編を収録。新しい
聖典の用語に基づく1999年改訂録音版。

イエスと使徒たちの生涯と教え
(インスティテュート生徒用資料)
カタログ番号: 32474 300 定価1,500円
『新約聖書』を学ぶ注釈書。1999年改訂版。

時満ちる時代の教会歴史 ●新刊
(インスティテュート生徒用資料)
カタログ番号: 32502 300 定価1,500円
ジョセフ・スミスに始まった教会の最初の
1世紀を豊富な資料で詳しく解説する。